

70223
TA 33
⑤

占領地マレーを語る

高



2

0000403-000

302.23-Ta33ウ

占領地マレーを語る

高橋和世・著

愛国新聞社出版部

昭和17

AAB

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月23日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものである。

825



302.23
TA33



地マレーを語る

高橋和世著

愛新國新聞社出版部刊行



序

私は大東亞解放の陣痛の激しかった時に主として南方にゐて、つぶさにその苦しみを見聞し、また自らも之れを嘗めたものである。

ジャバも随分歩いた、約二年間に涉つて。

馬來に關しては西海岸も歩いたし東海岸も歩いた。これは日本人としては數少い旅行者の一人と言へやうと思ふ。今や皇軍の進撃によつて之等の地域は、すべてわが治下に入り、大東亞共榮圏の一環として、共存共榮の第一歩を踏出さんとしてゐる。それにも拘らず日本人は餘りにも之等の地域のことに關して常識が少い。私が南洋にゐたといふだけで私にいろいろのことを質問されるが、その質問を聞いた度に驚くことは此人がと思ふことだ。先づ馬來に付いて、幾分なりとも参考にと思つてこの稿を記したのであつたが、仲々書くことの六ヶ敷いことを知つた。如何にせんかと思案してゐるところへ、應召の白紙が來た。これは日本人として喜ぶべきこ

とで、私も大喜びでもう間もなく、再び南方へ出かけることになつてゐる。ただこの稿の纏りをつけることはいよいよ六ヶ敷くなつて来た。出發迄にと思つて殆んど晝夜をかけて馴れぬ仕事を進めたのであつた。杜撰であり、推敲の不充分なところは御宥恕に預り度い。私はこの本を内地の方々で馬來に幾分なりと關心を持たれる方に先づ差上げ度い。そのためにと思つて産業編以下を認めたのである。次に馬來に開戦當時残留して居られた方々に馬來作戦の経過をお傳へする意味で差上げ度い。皇軍の作戦日誌を割合に委しく認めたのはそのためである。

最後にチャンギの獄裡に苦行されてゐる知友篠崎護君にこの本を呈し度い。君の陣痛も報ひられて満足してゐられることと思ふ。皇軍に救出された君が、再び元氣と健康を取戻して第一線の皇軍に協力し、戦後の治安工作に活躍されん事を切望してやまない。

昭和十七年二月十六日

大森・本門寺山にて 著者 識す

目次

序	一
皇軍の占領した馬來	一五
シンガポールに翻へる日章旗	一五
英國はシンガポールに何を期待したか	一六
英領各地にある制札ユーロッパアン・オンリー	一七
日本の人種平等案の行衛	二一
日英同盟廢棄と對日戦備	二五
五萬噸の腐れ浮ドック	三〇
イギリス東亞艦隊主力の全滅	三三
海軍根據地	三五

空軍基地……………三七

陸軍の兵力と要塞……………四一

馬來の防備はどの位だったか……………四五

日本は獨逸と共に立つと思つた……………四九

最後の防備狂燥曲……………五一

皇軍奮戦の跡を訪ねて(東海岸旅行記)

コタバル附近(皇軍敵前上陸地)……………五三

コタバルよりコーラ・クライまで(ケランクン王献上の飛行場)……………五八

コタバルよりトレンガヌまで(十萬弗の強制獻金)……………六〇

トレンガヌよりヅングンまで(海龜の産卵場)……………六三

コーラ・ヅングンとその附近(日鑛のヅングン鐵鑛山)……………六七

コーラ・ヅングンよりクマセまで……………七三

クマセとその附近(快男子西垣仙造氏)……………七六

クマセよりケママンまで……………八三

チユカイとその附近(石原産業のケママン鐵鑛山)……………八六

チユカイよりクワンタンまで……………八七

クワンタンとその附近……………八九

クワンタンよりペカンまで……………九一

エンドウより南……………九二

東海岸南下の皇軍の進撃振り……………九三

邦人獻身の作戦協力……………九六

皇軍奮戦の跡を訪ねて(西海岸旅行記)

アロー・スター及びその附近(サルタンは親日家)……………九九

バター・ウオース……………一〇一

ベナン島とジョージ・タウン(極樂寺と蛇寺)…………… 一〇一

ベナン島の無血占領(老日本人忽然と現はる)…………… 一〇七

バター・ウオースからタイピンまで…………… 一〇八

タイピン(火の消えた紅燈街)…………… 一一一

タイピンからイボーまで(ペラ王も親日家)…………… 一二三

イボー及びその附近(日蓮宗温泉寺の由來)…………… 一二四

イボーからタバーまで…………… 一三〇

タバーからカメロン高原まで(カメロン高原と日本人の入植)…………… 一三二

タバーからコーラ・ラムブルまで(世界戦史不朽の殲滅戦のあと)…………… 一三七

コーラ・ラムブル及びその附近(馬來十人男のこと)…………… 一三〇

コーラ・ラムブルからスレンバンまで(米作移民失敗のあと)…………… 一三三

スレンバンからマラツカまで(征服者の寄合世帯)…………… 一三八

マラツカからバトバハまで(トーチカは日本のセメント製)……………

バトバハ及びその附近(姿を没したスリメダン鐵鑛山)……………

バトバハからジョホール・バルまで(親日王のこと)…………… 一四四

西海岸の旅を終るに當りて(戦争忙中閑の朗かな夜景)…………… 一五二

恐日病の本體を突く…………… 一五三

特高課日本人係の正體(メージャー・モルガンとブレット)…………… 一五三

最初の犠牲者西村吉夫氏…………… 一六七

第二の犠牲者として捕へられた同盟特派員小林猪四郎君…………… 一七〇

第三の犠牲者、總領事館囑託の篠崎護君…………… 一七三

第四の犠牲者、南洋日日新聞の柏原侑治君…………… 一七八

ビルマの防犯課に見るイギリス得意の諜報網…………… 一八〇

これちや敗けるのは當然だ…………… 一八四

イギリス軍の本體……………一八四

その訓練振りは……………一九一

馬鹿に出来ぬイギリス海軍……………一九三

人形軍隊のイギリス陸軍……………一九六

餘命少きイギリス空軍……………二〇二

アメリカ人の呆れるイギリス軍の贅澤……………二〇六

複雑な馬來の政治組織……………二〇八

イギリス領馬來の行政區劃……………二〇八

一、海峽植民地……………二〇八

二、馬來聯邦……………二〇九

三、馬來非聯邦……………二一〇

統治機構……………二一〇

馬來の財政はどんなか……………三二四

一、海峽植民地の財政……………三二四

二、聯邦の財政……………三二七

三、非聯邦の財政……………三三〇

華僑論……………三三四

馬來の華僑……………三三四

裸一貫の渡航……………三三七

どうして成功するか……………三三九

二世三世(ババ)は.....	三二
華僑の排日は.....	三三
戦前の排日は.....	三八
華僑の成功者祐東旋.....	四〇
華僑對策は如何にすべき.....	四三

馬來の産業.....

序論.....	四七
序の結び.....	四七

資源編.....

土地と住民.....	五三
馬來人口の特異な動き.....	五八

農業.....

ゴム.....	六五
ココ椰子.....	七三
椰子油.....	七八
米.....	八一
油椰子.....	八三
パイナップル.....	八五
タバコ.....	八八
アレカナット.....	九一
コーヒー.....	九四
ガムビル.....	九七
ガタベルチャ.....	一〇〇

ジルトン	三〇三
籐	三〇四
胡椒	三〇七
トバ・ルーツ	三一〇
牧畜業	三一
水牛	三二
牛	三三
豚、羊、山羊	三四
林業	三六
水産業	三八

鑛業	三二
錫	三三
鐵	三〇
金	三七
滿	三八
石炭	三九
ボーキサイト	三九
ウオルフラム	四一
灰重石	四一
工業	四二
ゴム工業	四三

錫 精 鍊 業	三三三
パイナップル 罐詰業	三三四
清涼飲料水 製造業	三三四
ビール 醸造業	三四五
燐 寸 工 業	三四六
精 米 業	三四七

占領地マレーを語る



皇國の主領した馬來

オシゴポールに翻へる日章旗

全アジアを白人の桎梏から解放せんとして始められた世紀の聖戦！ 皇國日本が宏遠なる肇國の理想である。統一の精神を世界に宣布して各民族をして各々その處を得せしめんがために始められた大東亞戦争は神様の思召しに叶つたがために誠に神速に、的確に、隨所に敵を破つてその戦争目的を達せんとしてゐる。

馬來方面は對米英宣戰布告の當日、十二月八日に、敵前上陸を敢行して以來、僅かに二ヶ月餘りで壹千餘キロのあの長い半島を堅固な守備陣地に據る頑敵を撃破しながら、百餘度の炎暑と、人跡未踏のジャングルと、そこに棲む猛獸や年中絶えないマラリヤの悪疫と苦闘しながらも着々

と戦果を擴張して、文字通り朝に一城を屠り夕に一塞を抜く有様で普通人の夢想だに出来なかつた神業を發揮して遂に最後にして最大最強の據點であつたシンガポールを攻略した。この驚くべき偉業は全く人間業ではない。それは神が人間に行はせる神業である。今更ながら私達は天祐神助治ねき神國日本の崇高さとその有難さに感泣すると共にみ民われの誇りを想ひ報國精神を振起して、前線の皇軍將士に劣らぬ銃後奉公を致すべきである、皇軍はアジアの搾取者であつた吸血鬼白人を追拂つて呉れた、私達一億の同胞は一丸となつて、更にアジア十億の民と相携へて自由の天地に、この神の土地アジアを發展させねばならぬ。

○英國はシンガポールに何を期待したか

英國が、大東亞戦争前まで世界の富強國として我人ともに許して——神のみは許さなかつたであろうが、尊大振り覇を唱へて來られたのは何がためであつたか。それは言ふ迄もなく世界で一番豊穡な地域に宏大な植民地を持つてゐたからだ。特に印度ビルマ、馬來はその代表的財産であつた。そんな結構な財産をどうして手に入れたかと言へば悪智慧と腕力で、無智な温良な住民を

巧妙に騙し脅し付けて強奪したのだ。一度手に入れて了へばもう占めたもので、それからは無智な住民に教育をせず、否彼等白人に言はすれば教育したと言ふかも知れない。然しそれは住民を賢くする教育ではなくて反對に益々馬鹿にし怠惰にするものである——私達はこれを教育と言つては居ないが白人が有色人種に與へる教育はこの種のものである。そしてそれを教育と廣言して恥じないのである——温良な者は更に進めて怠惰にする、團結心を無くする、貯蓄心を消耗さすそれでも尙骨のある住民には宗教を利用して血で血を洗はせる。王様を助けて住民を押へる手もある。住民を使喚して王様に反抗さす手もあれば、更に反抗させた住民を鎮壓して王様に恩を賣り利權を取る手もある。誠にその手段たるや千差萬別正に妖怪變化である。神を冒瀆し神に恥ぢない白人は人間に恥ぢる様なことは絶對にない。まして有種人種は人間と見てゐないし、また扱つても居ない。まさかと思ふ方があつたなら次の二つ三つの事實を顧みて頂き度い。

○英領各地にある制札ユーロツピアン・オンリー

その一は奴隸制度である。しかも奴隸と言へば、アメリカ大陸發見の後之れを開拓するために

アフリカからアメリカ大陸に伴れて行つた黒人奴隷をすぐ考へるのであるが、それと同時に、新大陸発見の當初、白人の頭目達が同胞たる白人を銃剣で脅迫しながら手枷せ足に足枷せを付けて逃亡と反抗を警戒しつゝ伴れて行つたあの事實を想ひ出さねばならない。同じく神の恩恵を受けて生れて來てゐる人間を一個の品物として扱ふ賣る——買ふ擲る蹴る縛る飢えさす殺戮する——こんな事が萬物の靈長であり、血あり涙ある人間に如何して出來るであろうか。白人は私達有色人種を人間として扱つてゐない證據であるが、私達から見れば白人こそ非人間にして白鬼である。その白鬼が何時の間に、どうして斯うも神の恩寵の人間を苦しめその領土を奪ひその産物を窃み、しかも白晝公然と吾等こそ人間なりと世界を濶歩するに至つたのであろうか？ 正義日本は何をしてゐたのであろうか？

廿世紀の今日世界の何處にも奴隷制度の殘有してゐるものはない。さればとて白人に有色人種を奴隷視する態度がないかと言へば、殘念ながら、然り！ とは言へない。南阿に於ける態度はどうなのか、汽車に乗るにも、バスに乗るにもカラー（有色人）なる制札に従はねばならず街を歩き公園を散歩しても、建物に、部屋に、喫茶店に、料理屋に、運動場に、海水浴場に必ず到る。

處に掲げられてある「歐人専用」の札は何を意味するのか。嘗てケープタウンに駐在してゐた日本領事がゴルフクラブに入會出來なかつた事や、妻君同伴で映畫館に行つた處が案内嬢は「奥さんはよろしいが、あなたはいけません」と言ふ。いくら女尊男卑の國でも扱ひが腑に落ちないので何故いけないのか、こゝは女専用の映畫館か？ 「さうぢやない、こゝは誰でもは入れるが唯カラーは入れないのだ」とはねられた。

外務省の方で白人を妻とした方々はこんな時は相當こたへたらしい等との悪口は別として、日本帝國の領事ですと痰阿を切つても、こんな時にはどうにもならなかつたらしい。況して唯皮膚の黄色といふだけで何等の肩書も無い連中のみじめさは想像に餘りがあると言ふものだ。氣の弱い連中は大東亞戦争の始まつた今日程國威の揚つてゐない當時の事だから精々白人に生れて來なかつたのを敷じ、せめて妻君だけでも白人を貰つて等と考へたかも知れない。氣の強い連中で今に見る神を冒瀆する白人の傲慢を碎いて神意その儘を世界人類に光被させてやるぞと心に誓つた者果して幾人かあつたであらうか。

話がすぐ横道にそれて困るが、これは白人の專横を想ひ出すと、すぐ私の身體中の血潮が血管

を逆流する結果で、已むに止まれぬ病氣と思つて寛恕して頂き度い。印度、馬來、爪哇その他で見かける此種の白人の態度を今茲に一々擧げてゐては果しが無いから割愛するが今一つだけ皆様も先刻お聞及びの最も著明なものを記せば、それは上海の公園橋を渡つた處にある黄浦江に面した公園の入口にある制札である。それには何んと書いてあるか、曰く「犬と支那人入るべからず」と。犬とカラー（有種人）入るべからずと書いて無いから等と自惚れてはいけない。そんな考へ方をする奴が世界の何處かに唯の一人でもあると假定せば私達は先づそれを血祭にあげてそれからアジア解放の聖戦に出陣すべきである。私はこの制札を見る度に血の逆流を覺えたものである。白人のこの傲岸にして無禮なる暴舉は何事か？ 白人は常にこの無恥にして專横な思想を、あの醜魁な體内に藏してアジアを強奪したのだ。支那事變當初蔣介石の黒幕にあつて皇軍に刃向つてゐた英米は上海に共同租界を作り鼓浪嶼に租界を獲得した最初から、それを自國の植民地と考へてゐた。その證據にはそこに在る公館の庭に設けてある記念碑に誌されてある文字を見れば一目瞭然である。租界のみならずまだしも殆んど支那全土を自國植民地と考へ扱つてゐたのだ。流石に英米人と雖日本内地でそんな事を喋べる者も無かつたであらうが外地では公然と日常の會話

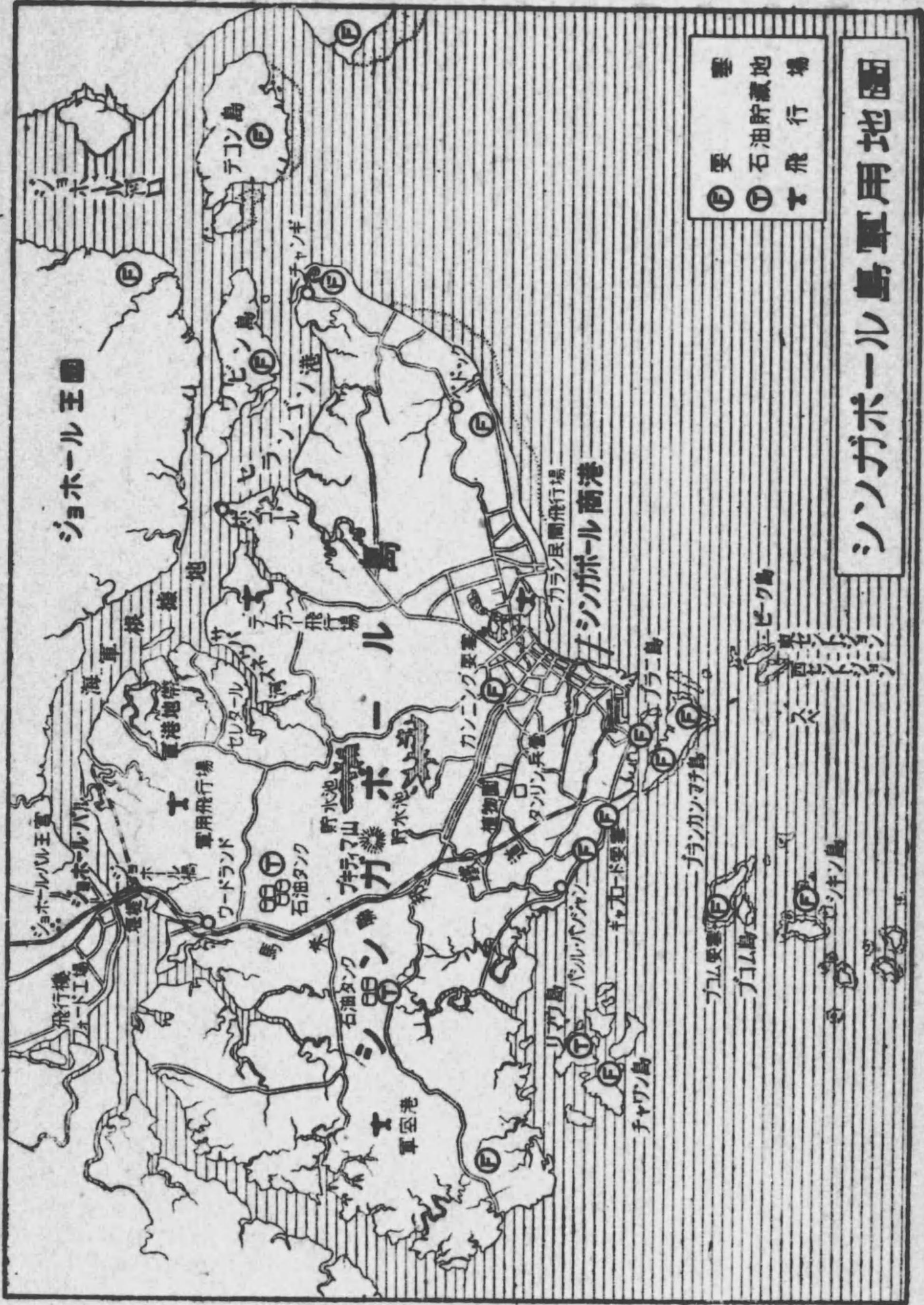
の上に話されてゐた事である。公園入口の此の不愉快な制札もいつの間にか取除かれてゐる、——假令手を直接に下さなかつたとしても——招來した事であつて誠に心樂しいことである。

○日本の人種平等案の行衛

第一次世界大戦後の媾和會議に、日本の全權西園寺公が人種平等案を提出して否決された歴史や、アメリカが排日移民法を公布した歴史など、回顧すれば私達日本人には忍ぶべからざる場面が澤山あつた。白人に非ざれば人間に非ずと考へてゐた英米人にとつて、日本の正義のためには何物をも懼れざるこの精神、この態度が何と見えたか、彼等の信奉する所謂キリスト教のみが神の教へであるとして、世界の隅々までも、宣教師を派して口に博愛と平等と平和を唱へしめ、裏にあつてアジアの血を啜り、飽くなき貪婪をほしきまゝにしてゐた彼等は恐らく、この小生意氣者奴！と日本を見た事であらう。若しもそうでなくて日本の唱へる正義人道に耳を傾けて——更に出來得ればそれに依つて自己を反省するの雅量あれば彼等英米人と雖も、今日の如く神の激怒に觸れて惨敗する事は無かつたであらう。正義日本を利己と貪婪を逞しくするために有する唯一

シンガポール軍用地図

飛行場
石油貯蔵地
飛行場
飛行場



らぢやないか。何も日本が兎や角文句を附ける譯がないぢやないか。本来なら、とうの昔にお前の國は取つて了つてゐるのだが、國は狭しい産物はなし、人間が小うるさいから跡廻しにしてゐる丈けだ、まあ文句を言はないで見て居な、温順しく見てりや、肉はやれないが、骨位ならやつてもよいと言ふのが英米の眞底の腹であつたのだ。

そんな考へだから、有り餘る黄金を抱え込んで、それで日本よりも優勢な——陸軍は人員も武器も澤山に、海軍は軍艦の数を、ワシントン會議で六割に抑へてあるし、それにこちらは英米合すれば結局日本の海軍は三割だし、空軍は數も問題にならぬ程澤山だし、補充能力だつて世界一だし——武力さへ備へて置けば未來永劫に互つて一度占めたアジアの豊庫を獨占出來ると思ひ上つてゐた。

○日英同盟廢棄と對日戰備

場所は何處がよいか？ 香港もいゝが少し日本に近すぎるし、孤島だから不便な點もある——七ツの海を制してゐると自負してゐた英國としては、假令太陽が西から出やうとも香港が日本海

軍の手で完全に封鎖されやう等と考へた事は毛頭ない。前進基地として、更にそれより東に出撃して日本本土攻撃に従事してゐる大英艦隊のために軍需品や食糧を供給し、艦船の入渠や修理の便を與へ、乗員の休養設備をするのでよいのだ。その仕事なら事缺かぬ準備は出来てゐたのだ。

然しワシントン會議でアメリカと謀つて、日英同盟を破棄したし——英國としては第一次世界大戦に此日英同盟を十二分に利用して、忠實なる同盟國日本の海軍を思ふ存分働かして自國の利益を満喫した。濠洲兵を歐洲に送る時の護送任務も何回となくさせたし、獨逸の東洋艦隊をフォークランド沖で撃破する迄には南北太平洋の廣い全海面に互つてこれを追跡もさせたし、エムデンが印度洋で暴れた時はこれも追跡させたし、終ひにはスエズから地中海全部に互つての護送まで日本海軍にさせた。そして大英艦隊は北海に集中して、英本國の警戒に惠念出来たればこそ、獨逸海軍を惜伏せしめ北海の制海權を最後まで掌握出来たのである。アメリカの陸軍を歐洲大陸に送れたのも、日本海軍のお蔭ならば、英國側が勝利を得たのも結局は日英同盟に忠實であつた日本の賜物である。此の様にして日本を利用してアジアにある全植民地を無事に保持出来た英國は第一次世界大戦が終了すると同時に日本の恩義を忘れて同盟廢棄の腹を作つたのである。英國

側から見れば利用出来る丈け利用したからもう用事はない、日本よりもアメリカの方がお色氣があるから日本と手を切つてアメリカに乗り換へやうと言ふに過ぎぬ。しかし日本側から見ればよく腐れ縁を切つたもので、あれが未だ續いてゐやうものなら、その後の日本が何處に行つてゐるか今考へてもぞつとする位だ。今日の赫々たる戦果は既に遠く廿年の昔ワシントン會議で定められたと見てもよいのだ——主力艦は六割に抑へたが、その代り四國條約で香港島の防備制限をさせられた、その結果當時の陸上防備だけでは前進基地としての防備は完全とは言ひ難い。そこでシンガポールに海軍根據地を作ると決めてあつた計畫を急いで實現する事になつた。ワシントン會議で太平洋の防備制限地域を定めて、それと交換的に日本は主力艦の對英米六割を承認したのだ。その時に日本としてはシンガポールをも防備制限地域内に含めやうとして強硬に主張したが、腹に一物のある英國としては、どうして承知するものか。結局除外して——日本が讓歩して——條約が出来上つた。すると英國は、待つてましたと許りに早速シンガポール軍港の施設を徹底的に大擴張して海軍根據地にする事に決めて了つたのだ。

當時英國のこの問題に對する空氣はどうであつたかと言へば、第一次世界大戦後日英同盟廢棄

を決意してゐた英政府の一部に夙に考究されてゐた事で、ワシントン會議五ヶ月前の一九二一年六月に決定した閣議の中にあつたのだが、國際關係の機微のために公表されなかつた。時の首相ロイド・ジョージが下院で「海外領土の一層な安全を期するため、若干の海外基地の施設を新式化し或は擴張する必要あり」と述べてゐる。この海外基地なる言葉の中にシンガポールも含まれてゐた——と稱するのである——労働黨が反對した様子もあるが、それは所謂政黨人の駈引きでもあり、その眞意は結局これに同意したのだ。

一九二三年に壹千萬磅の豫算で海軍根據地新設工事に着手し、約十年にして略完成したかに見えたが更に改良に擴張が繼續され、皇軍占領の直前まで大規模な狂氣的工事が行はれてゐたのである。豫算の如きも増加され、判然した數字は擧げられぬが一説には萬千六百萬磅と言はれる。然しその他に經常費として毎年五十萬磅宛過去十年に互つて消費されてゐる。

この巨費が英米國が支出したかと言ふと、そうではない。こゝに英國の巧妙な植民地搾取の片鱗がある。即ち彼等は凡て現地調辨主義である。關係あると思はれる各植民地に割當てゝ支出せしめると共に各地の王様に御用金を仰付ける。そして残りのほんの申譯的な小額を本國が出すので

ある。根據地の場合に付て見れば土地（總面積約二十一平方哩）は海峽植民地政府が提供し、その時價約十五萬磅と言はる。その他に海峽植民地から百三十五萬弗、香港政廳から二十五萬磅、新西蘭政府から百萬磅、馬來半島保護領の各政府から合計二百萬磅、馬來非聯邦州の王様から四百二十萬磅を獻金させてゐる。又海峽植民地政府は工事開始以來十ヶ年間に六千萬弗（海峽弗）を支出しその後も毎年四百萬弗を支出してゐる。之等を合計して見ると本國政府の支出は二割にも達しない。而もその二割も、どこからどう出たのか調べない方が花かも知れぬ。私の記憶では蘭印政府でも相當額の獻金をしてゐる筈だが、資料が手許で見付からないので確かな數字は擧げられぬ。根據地の維持費としての年額五十萬磅も海峽植民地から支出してゐる——この他に陸軍の費用と空軍の費用も海峽植民地としては出さねばならず、仲々大變である。然しそれが苦もなく出來るところに馬來が英國にとつて豊庫と言はれる所以がある譯である——

○五萬噸の腐れ浮ドツク

根據地はシンガポール島と馬來半島の南突との間にある狭長なジョホール水道を水域とし、こ

の水道東半の南岸にある陸上一帯——センバワンとセラターの兩村に互る——を陸域としてゐる水域の中央部には陸橋があつてシンガポール島とジョホールバルをつなぐ、最初の計畫はこの陸橋を境としてその東半の水道を軍港水域としたのであつたが、最近では西半の水道をも使つてゐると言ふ。尤も陸橋には小舟の通れる堀割を作つてあるが、少くとも船と名の付く程のものは通れない。従つてこれは水道の西入口から入つて來ねばならないが西水道は諸處に淺瀬があるので果してどの位までの大きさの船が入れるか、東半の水域は即ち軍港の主港で幅一哩位長さ十四哩水深十一尋以内で中央部に五萬トンの巨艦を容れ得ると言ふ浮船渠がある。これは五年の歳月を要して一九二八年に本國で完成し、全長八五五呎、幅員二百呎、建造費百二十五萬磅で世界第三の大浮船渠と言ふ。これを本國から廻航するのが大變だつた。三部分に分けて、それを曳航して來たのだが、その費用に二十萬磅を要した。シンガポールに着いた時は鬼の首でも取つた時の様な大騒ぎであつた。しかし浮ドックはその上に艦船を乗せて浮揚し、乗せた船底の掃除や手入をするものだが自分だつて海上に浮いてゐる限り他の船舶と同様で底に牡蠣も附くだらうし海藻も附くだらう。その結果は腐蝕もするし傷みもしよう、それを防ぐには自分も時折りはドックに入



五萬噸ドックの三分の一
(イギリス本國から回航中に撮影したのも)

れて手入して貰はねばならない。然るに此の浮ドックを入れるドックがない。斯うなると世界第三なんて言ふ事が却つて邪魔をする。まさか大さで日本を驚かそうと思つた譯でもあるまいが、しかしいくら乗せるが役目とは言へ乗せられる事を考へなかつたことは、これもジョンブルの大きな誤算か。何は兎もあれ、そんな譯でこゝに着いてから既に十年餘り熱帯の海水で腐さり放しと言ふから驚く、數年前否もつと以前からかも知れない、水が漏るので役目が勤まらず、素人や馬來人のコケ威しのためにあの巨體を浮してゐるとは氣の毒の至り、軽い小艦艇なら腐つても鯛式に間に合はせてゐる。尤も乗せ

る様な何萬トンと言ふ主力艦は此附近には無かつた。その浮ドックの失業を救ふ積りか大東亞戦争の始まる前に、わざ／＼本國から主力艦が二隻もこの軍港に來た。やれ／＼と思ふ間もなく日本と戦争は始まつた。始まると氣の短い日本人の事故その日の未明にもう爆撃に來た。こんな細長い水道に碇泊してゐると、それこそ眞珠灣でやられたアメリカ海軍の主力艦と一蓮托生だ。何もアメリカの主力艦が沈められたからとてお義理に沈められる程、英米の約束は強固でもないから、いつそ廣い外海に出て四萬トン主力艦の威力を見せてやれと東水道をジグザグ縫つて——これは水道に日本の潜水艦の侵入を防ぐため防材や機雷を布設してあるので一直線に進めないのだ——チャンギー沖に出た。そして先づ安心と思つて喜んだかも知れないが、その時に既に附近を潜航して警戒中の日本の潜水艦に見付かつたのだ。これが運のつきと言ふものか。然し彼等には伴せにも日本の潜水艦が魚雷攻撃の出來ない程遠くに居つたがために翌日まで壽命が延びたと申す譯。

○イギリス東亞艦隊主力の全滅

この邊で浮ドックに代つて主力艦が全滅された光景を書いて溜飲をさげやう。

「十日午前十一時すぎ日本の爆撃機隊は高度〇〇フィートを保ちながらレパルス號にちり／＼と迫つて來た。私は丁度甲板に立つてゐたが、空は晴れてゐたので日本機の近づいて來るのがはつきりと見えた。わが艦の高射砲は忽ち一齊に火を吐き砲彈の炸裂する音は轟然として耳をつんざいた。日本機もこれに應じて爆撃を開始し、ここに壯烈な海空戦が繰展げられたのであるが一弾はわが艦の舷側すれ／＼に落下し、このために甲板に立つてゐた私達は頭から海水を浴びてすぶ濡れになつてしまつた。間もなく一弾はキャタパルトデッキを突き抜けて、艦内に落下し大食堂の下で爆發した。このためレパルス號の飛行機は飛び出すことが出來なかつた。十一時四十分僚艦プリンス・オブ・ウェルズ號は命中弾を又けたやうであつた。わが通信兵が齊射開始の號令を絶叫するや否やわが艦砲は猛然火蓋を切つて怒號し始めた。一機また一機と日本機は次々にわが艦を襲撃し、レパルス號はこれを避くべく懸命の努力を拂つた。十一時四十五分更に多數の日本爆撃機が約〇〇フィートの高度を保つて荒鷲の如く上空を旋回し始めた。砲彈の轟音は耳を打ち、爆發の火光は目を射た。その中を日本の雷撃機は勇敢に海上〇〇ヤードの低空まで急降下し

ては再び機首をもたげて舞上つた。十一時四十八分日本機は〇〇ヤードの上空から空中魚雷一弾を舷側に投下した。大きな水煙ともに火柱がさつと立上つた。續いて他の雷撃機がわがレパルス號に襲ひかゝつて來た。驚く程の低空飛行だ。十二時一分、吾々はまたく日本爆撃機の編隊に襲はれたが、わが艦は必死となり十四吋砲以外の全備砲を開いて應戦した。同三分〇〇臺の雷撃機が〇〇ヤードの低空から攻撃して來た。今度は十四吋砲まで動員し一齊應射を試みた。同二十分、今度は日本爆撃機〇〇臺と雷撃機〇〇臺が迫つて來るを認めたが、なほ雷撃機〇〇臺が〇〇ヤードの低空で艦の周圍を氣味悪い音を立てゝ旋回し出したと見る間に同機は猛烈なスピードでわが艦めがけて急降下しそれと殆んど同時に胴體から大きな魚雷がパツと射られた。監視兵が危い！と叫んだ聲と一緒に魚雷は轟然たる音を立てゝ甲板に激突、間近にあつた私は無意識のうちに甲板に腹這ひになつた。しかしこの一撃でレパルス號は見る／＼傾き始め、それから一分とたゞぬ内に再び右舷に前と同じやうな大衝撃を受け、遂に艦尾を海中へぐつと突込んで間もなく沈没してしまつたのである。私は間髪をいれず海中に飛び込み、暫くして幸ひにも僚艦によつて救助されシンガポールに送られたのであるが、日本空軍の勇敢さと技術の優秀さには今まで日本

空軍弱しと聞かされてゐただけに驚嘆してしまつた」と、以上の記事はレパルス號に従軍乗艦中のC・B・C放送局特派員セシル・ブラウンに依つて記されたものである。

若しもこれ等主力艦のうち、どれか一隻だけでも大破の状態でセレター軍港に逃げ込んだとすれば、すぐ入渠と言ふことになり、浮ドックは今更生き恥を曝すところであつた。そのことなくて済んだのは全く日本空軍の威力のお蔭だ。有難く思ふと共に日本武士道の精華を見られ今更の如くイギリス軍の弱さを知ると共に不正義の戦争の惨めさを想ひ、一日も早く日本軍によつて、セレター軍港が占領され、浮ドックをも戦利品として呉れるのを祈る——とや言はむ。

○海軍根據地

陸上の設備としてはデジョージ六世船渠と命名された世界第二位と稱する乾ドックがある。長さ一千フィート・幅百三十フィート・低潮時の盤木上の水深三十五フィートと言ふ代物でこれを建造するに六ヶ年の歳月と一千万磅の巨費を要し、使用コンクリート五十萬立方碼と言ふ。この外にも小船渠三つ許りあり、是等に附屬した發電所、修理工場、機械工場、軍需品倉庫等萬般の設



露出してみる油槽の一部
(シンガポール島内に約八百八十萬トンの重油貯蔵されたるため)

備が完備してゐると言ふ。使用労働者は支那人を主とし少数の馬來人を含め總數四千と言ふ。岸壁としては主力艦や甲級巡洋艦を數隻同時に横付けし得ると言ふ長さ二千二百フィートのものを初め他に小岸壁あり、起重機は五百トンを筆頭に十數臺あり、山林中には埋没したる水源地、彈火藥庫その他の軍需品倉庫あり、重油タンクも無數にして、根據地内だけで三十萬トン位の貯油ありと言ふ。

皇軍の占領では等の設備や資材が我軍の手に歸し東亞共榮圈の繁榮のため

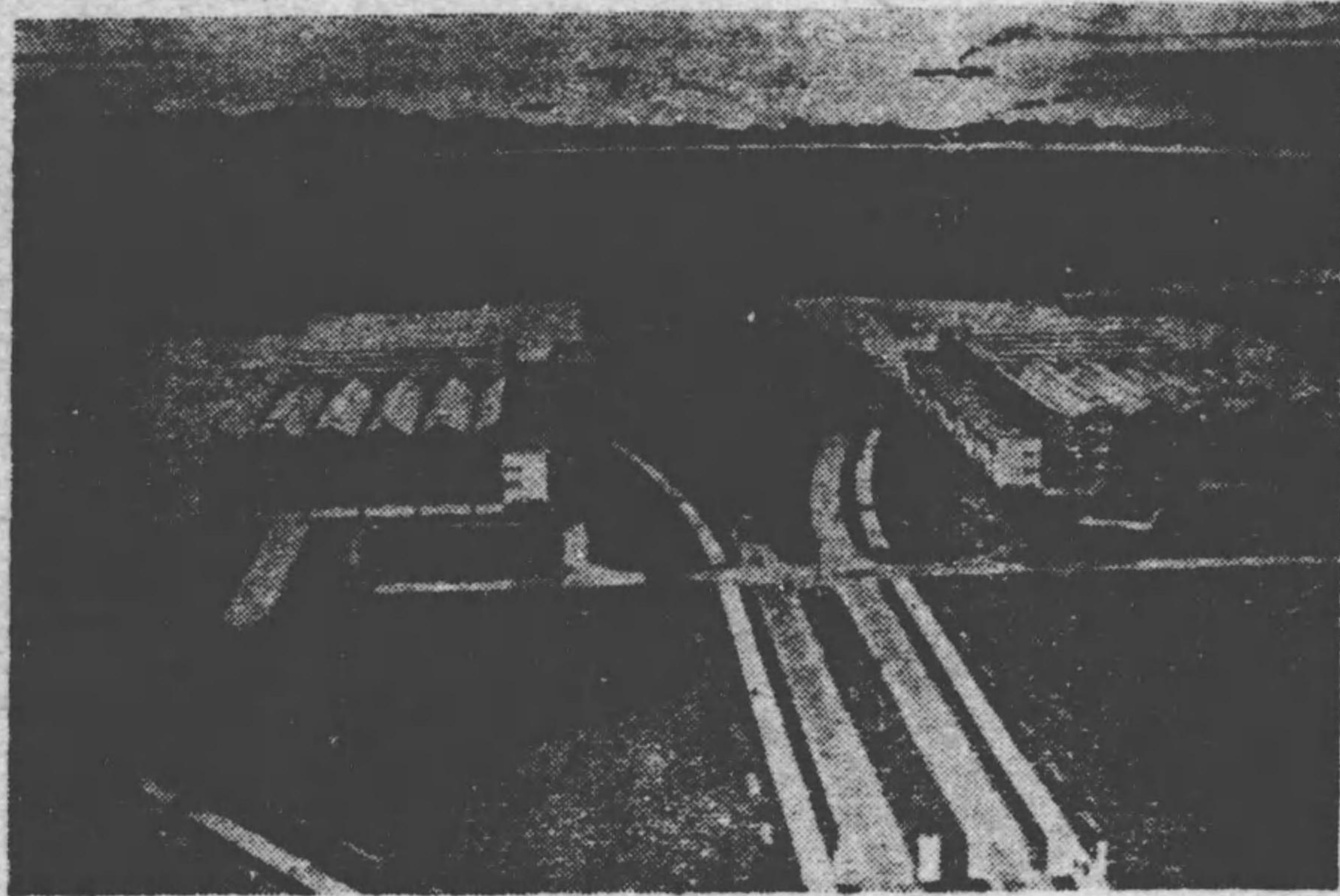
に使用はるかと思へば愉快此上も無いではないか。

○空軍基地

シンガポール島には三つの空軍用基地と一つの民間飛行場がある。セレター、センバワン、テンガーは前者であり、カランは後者である。

カランはシンガポール市の東部にあつて、カトン方面に行く時はその側に行くのである。昔は濕地であつた所を埋立て、飛行場を作つたので設備萬般良く出来てゐる。國際飛行場で水陸兩用の發着設備がある。ホテルを中央にして兩側に大格納庫を設け前面は滑走路だけをコンクリートに舗装した圓形の飛行場で、右側に灣入した水路を擁し水上機用のスリップがある。夜間發着の照明も完備してゐる。

馬來各地を連絡する日發定期機を始め、英本國に到るもの、濠洲に到るもの、蘭印と和蘭を結ぶもの等英佛蘭機が交々發着してゐる。最近は民間よりも多く軍用に使はれ、航空學校も此所で開設され、その練習機は晝も夜も、義勇空軍の連中と入り亂れて訓練してゐた。テンガーはシン



(カカラ飛行場) (シンガポール国際飛行場)
(中央はホテル、左右は格納庫)

ガポールからジョホールに至る街道を十二哩ほど行つた處から、西に三哩位はいつた處にある。數年前から起工して二年前に完成した最新式のもので戦闘機部隊の基地であつた。センバソンは海軍根據地の南に續くもので空軍基地としては一番設備の不備なものであつたらしい。セレターは海軍根據地の東西に續くもので廣さもあり設備も完備し英空軍の主力の駐屯するところであつたらしい。だから昭和十五年九月に濠洲や蘭印の軍事施設を見て、シンガポールのそれを視察に来たロイ・ハワードを團長とする米國の新聞記者連中にも、こゝを見せ

た。紐育タイムス特派員は見聞記として次の様に本社に打電してゐる。

「シンガポールの防衛はシンガポールのみでなく廣汎なる範圍に亘つて構成されてゐる。著しい例は空軍の場合で空軍はシンガポールに飛行場を持ち、馬來各地に多くの小飛行場を持つてゐると言ふ具合である。セレター空軍基地には濕地だつた所に廣大なる飛行場があり、その周圍には鐵筋コンクリート建のクラブやメスルームや防空壕や大格納庫が並列し、商店があり英國型米國型爆撃機がずらりと並んでゐる。この爆撃機は沿岸や馬來半島を絶間なく巡邏してゐる。シンガポールは既に強化された。蘭印や米國が非常な關心を持つてゐる此の島は如何なる外敵の侵略をも痛烈に撃退することであらう」と。

噂に聞けば、是等のクラブやメスルームにはビールとウイスキーを大型容器で備付けてあつて兵員は飲み放題だとの事である。これを飲まさないと言ふ、これちや何のことはない酔拂ひが飛行機を操縦してゐると言ふ圖である。そうでなくてさへ皇軍の敵でないのにこれちや何んで敵し様があるう。

本國でも大切にしてゐた虎の子主力艦を二隻も裂いてシンガポール救援に派遣したのに、それ

が到着して一週間経つや経たずに日本空軍の餌食となつて了つた。その時に英空軍が一機だに主力艦救援に來なかつたと言ふ、ウィスキーにでも酔つてゐたのだろう。散々飲むが好い。死んでも飲むのはやめられぬと言ふのが、ほんとの呑平の心理ならば公用酒に酔つてゐる間に殺されて行くの等望んでも得られない醍醐味のある事ではないか。アジアの吸血鬼の最後にしては少々贅澤に過ぎるが、日本人は吝嗇な事は言はない。死水の代りに死酒位はいくらでも喜んで進呈してやるぞ。

x

x

空軍基地は初めから分散主義に建設したのでシンガポールの四ヶ所の他に、馬來では到る處にある。クルワン、クワンタン、スンゲイパタニピナン等にあるものは本式の基地設備を完備したものでその他に不時着用として又商業飛行機發着場として、アロスター、コタバル、タイピン、イツボ、コーラ・ランブール、カラン、バトパハ等々にある。對日戦備の促進に伴れ是等の内の或物は軍用に轉用されて設備を擴張完備したものもあらうし、新に設けられたものもあろう。

馬來空軍の昭和十三年度の豫算は六十一萬二千八百磅であり十四年度は七十二萬磅となつてゐ

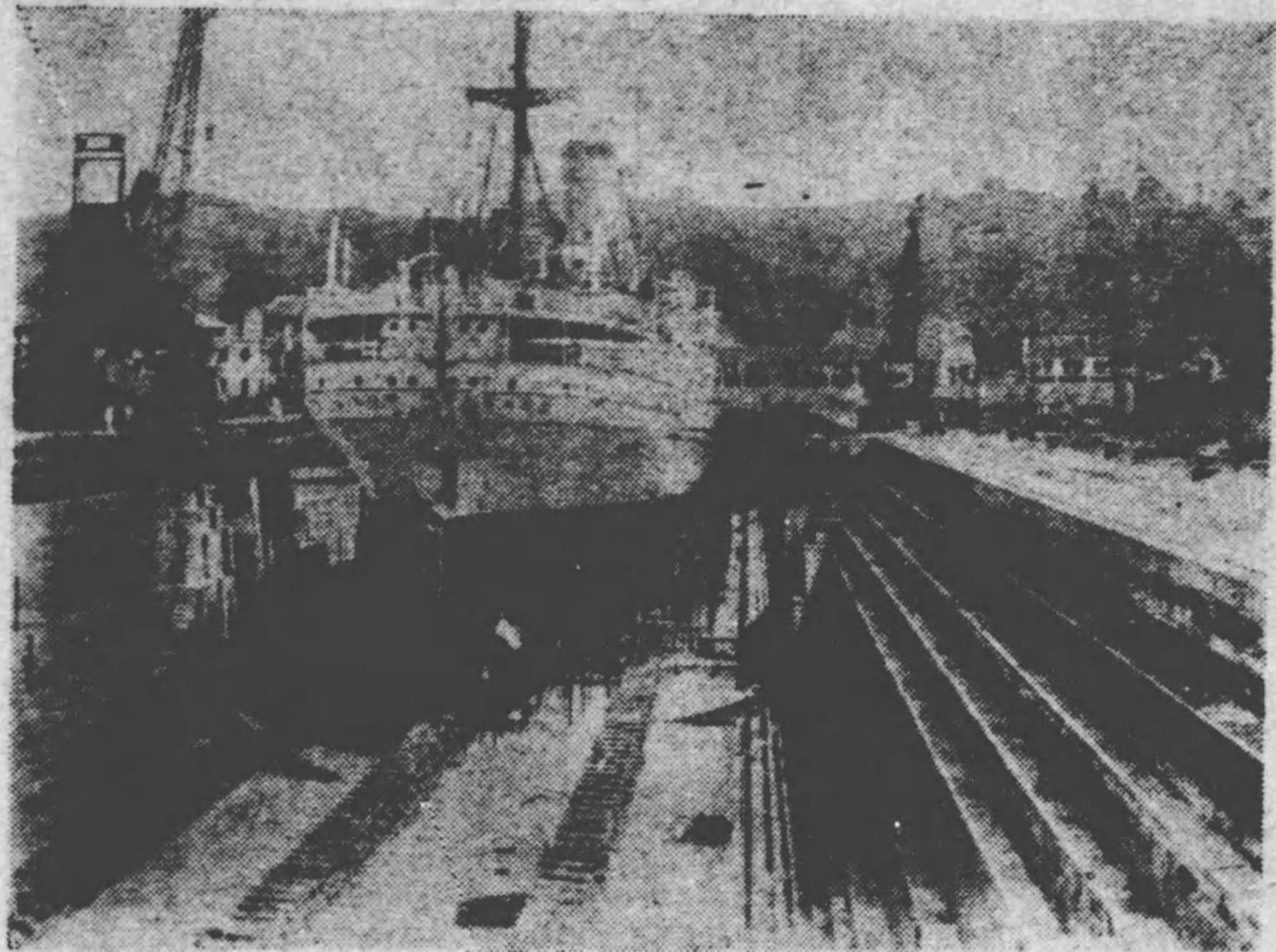


(塞要島イテマソカラプ面前港ルーボガンシ)砲塞要くほを火

る、豫定のものゝ完成迄には尙二百二十萬磅を残してゐる。いくら基地を殖やしその設備を完備しても、畢竟戦争で一番必要なものは必勝の信念であり斃れて後已むの旺盛なる攻撃精神である事を知らない者は、いくら澤山の武器を持つても何にもならない、武器は死物であり之れを生かすのは人間である事を知らねばならない。英人だつてこれを知らなかつた譯ではないが傲慢に慣れると神をも冒瀆して結局は自滅の運命に導かれるのである。

○陸軍の兵力と要塞

前掲の紐育タイムス特派員は本件に關して



上クツドるあに港商ルーボガンジ
るあでん列が砲重塞要はに頂山の

次の様に打電してゐる。

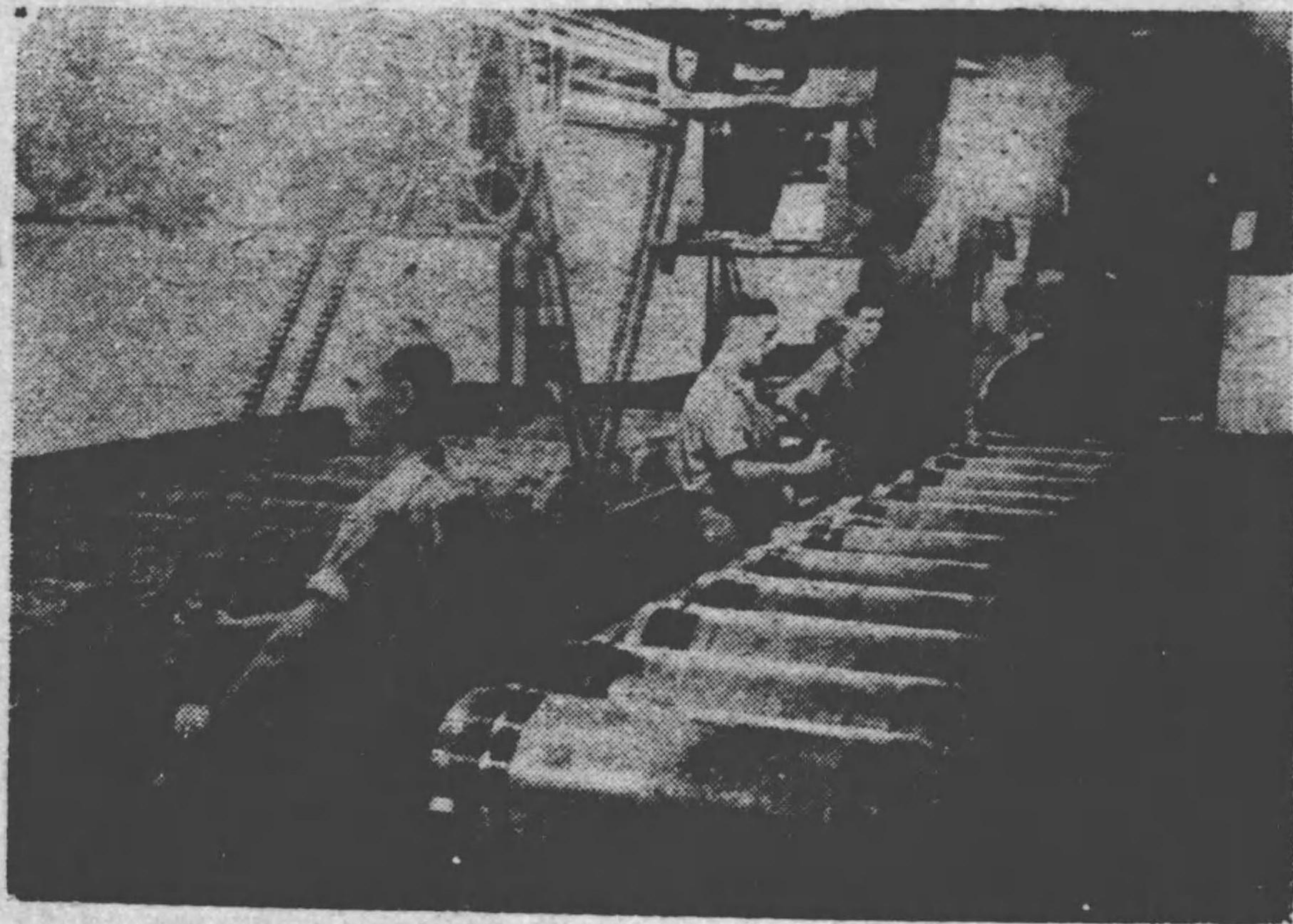
「シンガポール島を見物するのに我々は鐵條網によつて垣をめぐらされた道路を數哩もドライブした。又海岸には鐵條網の外機關銃座が所々にあり、その後方には大砲があつた。又所々にコンクリートのトーチカが上陸せんとする敵を掃射すべく無氣味に海面を睨んでゐた。

防衛の第一線は巨砲であらう。此巨砲はジャングルの丘陵にどつしりと据付けられて敵艦を近附かせまいとしてゐる。第二線は海岸砲臺だ。それから

鐵條網後方の野砲である、我々は又最新式對戰車砲や高射砲や英國正規軍が使つてゐる測距儀を見せられた」と。

事實シンガポール島は全島が化して一つの要塞であると言ふ。或者はそれは海軍根據地を防衛するためだと言ひ、又或者は海軍根據地が構築される以前から既に堅固な要塞の存在した事を舉げて陸軍と海軍は並立して存在してゐるとも言ふ。私にして見ればそんな議論はどうでもよい。馬來の豊庫を護る爲には新式の武備を必要とし、新式の武備は海、空、陸の三軍から成立つと結言したい。市の南に離島として存在するプラカン・マテイ要塞やプロ・ブラニ要塞は市の中央丘陵に存するフォート・カンニング要塞と共に昔からあつたもので——尤も内容は大いに新式化されて昔日の佛を残さぬ程充實されてゐるだろう——島の東端にあるチャンギー要塞、その對岸であるジョホール州東南端のベンゲラン要塞、これ等の間に横たわるテコン島の要塞、この三つは確かに海軍根據地を護るために新設されたものである。

その位置が海軍根據地の東入口を扼する位置にある點から見て、これは疑ふ餘地もない。然かも此の三要塞には十八吋砲が裝備されてゐるとか居ないとか、その噂の八釜敷いこと。外敵が現



丸彈の砲塞要たれさ納格に庫彈

はれるとすれば海正面からだから敵艦の艦砲が我に届く前に我から打ち出して沈めてやろうとは誰もが考へるところ。彼の考へも然りとせば最近の主力艦には各國とも十六吋砲を積んでゐる點から見て十八吋砲をとも考へるならむ。果して何時砲が備へてあつたか、これを占領した皇軍將士に尋ねて見たい。

海正面に現はれると考へた敵艦が一隻も現はれず、戦争が始まつたとも知らず寝てゐる間に頭上から空襲されて爆撃されやうとはいくらお釋迦様でも御存知なかつただろう。況して、背面から半島の陸づたひに

陸軍兵がひた押しに押しして來やう等とは考へまい。また考へた處が一度射界を海正面と定めて据付けた大砲がそんなに容易に向きを變へられるものでもない。敗けた要塞兵も悪いかも知らないが大砲を敵に向けて打てない様な工事をした連中が、更に／＼悪いのではないか。要塞兵何萬、歩兵何萬、機甲部隊何萬、英兵何萬、濠洲兵印度兵各何萬と言つたところが陥落して了つた今日となつてはそんな事を聞いたつて大した興味も浮ばない。だから私も今更書こうとも思はぬ。況してや、いくら克明に調べても、本當の兵數なんて判るものぢやない。うか／＼すれば彼等の宣傳に乗る許りだ。

○馬來の防備はどの位だつたか

大體馬來の防備はどれ位施されてゐたか？ 是亦正確な事は機密々々で判らう筈はないが、一般人の眼に附く程度の事なら判る。その程度で一應書いて見ると、先づ三期に分けられる。第一期は支那事變開始から日獨防共協定を経て獨逸が英佛に對し宣戦をする迄、第二期はそれから皇軍の南部佛印進駐まで、第三期はそれから大東亞戦争迄である。第一期では主として各部の残工

事を急速に進行して一日も速かに名實共に難攻不落のシンガポールを完成せんとした。然し一つを仕上げれば、又あゝもしたい、斯うもせねばと慾が出て来て擴張また擴張であつたらしい。海岸で日本軍の上陸して來さうな處に機關銃座やトーチカを作つた。ジョホール河の河岸にジャングルの中に隠して澤山のトーチカを作つた。パシルバンヂヤンの道路に沿うて作つたトーチカで迷彩を施したのが、ドライブする者の眼に異様に見える。その二尺も厚さがあると言ふ側壁には「ツィ・レット(貸家)」といったづら書をしてある。あんまり手まはしよく早く作りすぎたので落書もされるし、中では蛇が晝寝をするやうにもなつた。またあんなにトーチカを作つて、いざと言ふ時誰をいれるつもりだろうか。どうせ英人兵は暑くもあるし狭くもあるので入りつこはない。結局は印度兵か馬來兵を入れるのならう等と悪口を言はれたのも此時分である。工事は支那人が請負ふ。大體一つ三千弗(海峽弗で一弗は二圓位)位が相場だ。丁度人間の上半身の様な格好で、鐵筋コンクリート製で壁の厚一尺五寸から二尺位、天井は、もう少し薄くその代り土盛をして芝を植ゑてある。横か後ろに出入口がある。眼と胸と兩肩の處に五・六寸に五尺位の横長の銃眼を設けてある。驚いた事には極まで附けてある。この式が一番澤山眼につく。次はこれを



カチートたしに脊をルグンヤジ

もう少し簡單にしたのや蒲鉾型のある、圓型のある。

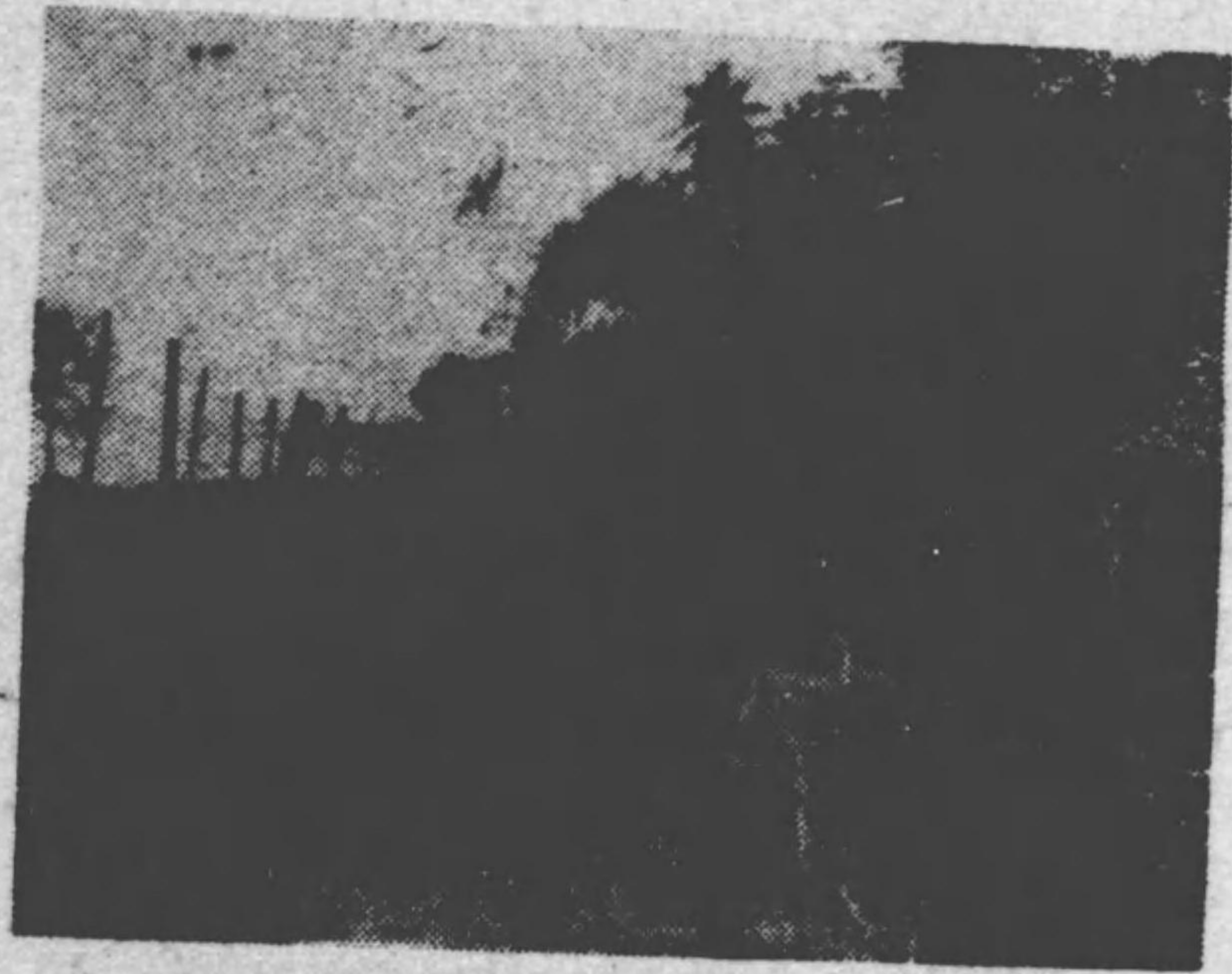
皇軍が南支作戦を開始した當時から、少し宛防備を増した、北部佛印に進駐した時には、そろ／＼慌て出した。それ迄は馬來人や印度人支那人等が騒がぬ様にと配慮して成る可くこつそり工事などをしてゐたが、此時は脊に腹は代へられぬと思つたのか防備命令を出して、海岸の一部に鐵條網を張り出した。一般人の通路には一間許りの出入口を設けた。ところに依つては

一列に鐵條網を十本乃至二十本も網の眼の様に張つて、それを三列も五列も作つてあつた。これが或日の早朝から一齊に行はれて、兵隊が指揮をして苦力を無數に使つて、日を限つて作業したので驚いたのは住民達である。

世界でデマの好きな民族は馬來人、印度人、支那人の順だと言ふが、そのデマ好き連中の集合地であるシンガポールの事だから堪つたものではない。そら日本軍が来るのだ！と騒ぎ出した。これちやいけないと言ふので、何も来るのぢやない。シンガポールはどんな敵が攻めて來ても其の護りは堅固だから安心せよと布令した位だ。先づ第一期は此程度で馬來半島方面でも大した事はしてゐなかつた。

○日本は獨逸と共に立つと思つた

獨逸との一戦が不可避だと思つた本國では馬來の防備をも一層強固にせよと訓令した。英人の考へでは日本は獨逸と共に立つて馬來攻略に來るかも知れぬと疑心した。勿論一方では支那事變に依る日本の疲弊を過度に計算しすぎて、とても對英戦などは思ひもよらぬとも考へた者もあつた。兎に角馬來では昭和十四年九月初め再び防備命令を出して、今度は倍民の動搖など考慮する餘地もなく、どん／＼と防備を強化した。鐵條網は増加され、海の中にまで張られた。海岸の住民に立退を命じ、射撃の邪魔になると思はれる立木は片つばしから切り倒された。カトンの濱で



日本軍の陸上に備へた海岸の鐵條網



同上・海岸の機關銃

は椰子の木を切り倒し英兵がその下敷になつて死んだ位だ。それほど氣狂ひじみて眼が晦んで夢中だつたのだ。トーチカの後ろに便所を作るやら、海の中に突出して作られた家を爆破するやら、棧橋を毀すやら、それは大變な騒ぎだつた。半島方面でも大變だつたらしい、ジョホール陸橋には十呎間隔に爆破装置がなされたとか。東海岸への道路に架してある橋には爆薬を附けたとか、やれ何處から何處は交通を禁止するとか、日本人は何處にも旅行してはならぬとか、やれ燈火管制だとか、夜間の飛行機照射演習だとか、誠に大變な有様であつた。

だが、獨逸と戦争が始まつても日本は立たぬ。これでやれ／＼とは思つたものゝ、アジアを搾取し、強奪してゐた英人としては、脛に疵持つ身で安眠が出来ない。英人は強制的に義勇兵として訓練する。それでも足りないので佛蘭西人を入れる支那人を入れる。そして廣場に集めて一週間は執銃教練をする。それを軍司令官が視察に行つて激勵をする。指揮官が號令をかけるには「敵は日本だ」「日本を倒せ」と言つた具合で蔣介石の排日教育そこ除けと申し度い。没落者の悲哀と言ふか、英國が今日の運命を招來したのも彼等の自業自得と申すより他はない。

○最後の防備線狂曲

第二期に於ては印度兵も濠洲兵も相當多數増強された。殊に濠洲兵の如きは巨船クイン、メリー號で一度に二千人三千人とそれに附屬する兵器トラック等を満載して二十五節の快速力で輸送された。しかし皇軍が南部佛印に進駐するや、愈々火事は近づいたと直感して最後の防備強化にと突進した。ボバム空軍大將を極東軍總司令官として先づ空軍の充實を行ひ、陸兵を印度、濠洲より輸送船團として補給し、戦車を増し、野砲を増し、高射砲を増した。それと共に防備に就ての今迄の祕密主義を一擲して、公表宣傳主義を採つた。その發表するところの増援部隊の兵數の多きこと、優秀兵器の多きことよ。私をして言はしむれば、宣傳主義に變つた瞬間から敗北主義に變つたのだ。誇大に防備の堅固を放送すればする程その内容は空虚なのだ。成程事實に於て數は多かつたかも知れぬ、しかし實數以上にそれを誇示して、以つて日本を威嚇しやうとした處に大なる誤算があつたのだ。

皇軍が一度び破邪顧正の劍を抜いて正義の戦に立てば、如何なる敵も物の數ではない。數が多

いとか兵器が立派だとか、そんなものは皇軍を阻止する何物でもない。馬來の敗戦はイギリスが當然負けねばならぬ百年の宿命である。それを知つてや知らずや本國の上下兩院では逆上して盛んに政府を攻撃しポバムを大馬鹿野郎と罵つてゐる。ポバムが「香港が數日間または數週間の攻撃で陥落すると言ふ考へは誤謬である」と述べたり、東亞の防備は如何なる事態が起らうとも、その準備は完全であると豪語したり、日本海軍が眞珠灣軍港で米太平洋艦隊を全滅せしめた當日に「シンガポールに關する限り、その警戒は十分であり、準備は進んでゐる」と強調したとすれば、それを聞いて、それを信じ安心してゐた本國のお歴々連中が馬來の敗戦——それも皇軍がコーラ・ランプールに迫る時のことである。まだシンガポールが陥落したのではない——を知つてポバムを大馬鹿野郎と罵つた心理は解る様な氣がする。だがお歴々は愈々シンガポールが陥落したと聞いたら、どんな名句を吐くつもりか、名句は愚か泡を吹いて卒倒する位が落であろうが、皇軍の進撃はそれでは濟まぬ。大英帝國の領土に太陽の没する時なしと豪語したイギリス人全體がポバムと同様に大馬鹿野郎であつたと氣の附く日は果して何日の事か。神は仁慈にましますが故に、間もなく、その日を與へ給ふであらう。勝つて兜の緒を締めよ、私達の聖戦はこれからだ。

皇軍奮戦の跡を訪ねて（東岸旅行記）

○コタバル附近

皇軍敵前上陸地

皇軍は大東亞戰爭勃發の十二月八日未明に、英領馬來東海岸の一番北の端にあるコタバル附近に敵前上陸を敢行した。これと殆んど時を同じくして他の部隊は泰の南部でコタバルの北少し西にあるシンゴラ附近に上陸した。

コタバル附近には上陸に適する處が相當にある、パチヨーはコタバルの東南二十三哩にある海濱の小村で住民は僅かだが郵便局、警察署、税關分署等の外に義勇軍を訓練する建物がバラツク建で海岸の椰子樹の茂る中に出來てゐた。バンガロー式の別荘も見える。一般の旅行者で此所まで來る人は殆んど無いが、こゝで一番著名なことは八本の枝のある椰子の木のある事で、馬來全體で枝のある椰子は四本位の筈、しかも八枝と言ふのはこゝのだけで、それで名高い譯。皇軍が



(影撮者著) 岸海ルバタコたし陸上が軍皇

この海濱に第一步を印したとすれば歴史的の土地となるであらう。砂濱は美しく波も静かで（北東モンスーンの時は別）將來コタバルに住む日本人が多くなれば由比ヶ濱式の海水浴場になることは必定であらう。

ツンパはコタバルの北西八哩にある。鐵道支線の終點で、コタバルから行くには、ケランタン河を鐵道渡船で渡り、そこにあるパレバン驛から汽車で行つても、自動車で行つてもよい。道は二間幅位で舗装しないから自動車の走つたあとの砂塵

は相當なものである。附近は米を作る水田が見渡す限りある。ツンパの町はバチョーよりも大きく稍々整然として、體裁も調つてゐる戸數三百位、人口二千もあろうか。

鐵道の突端は棧橋に導かれてゐる。この棧橋から何が積出されるか、それは滿俺鑛石と米を大宗とする。滿俺はツンパから南西約三十哩（直距離）にあるタンド鑛山から出るもので、それは日本人の手で營まれてゐる鑛山である。

ツンパには官民合同經營にボーステッド精米所がある。ケランタン州は非聯邦州で土着の王様が統治してゐる關係で米は專賣制をとつてゐる。附近の産米と支那事變以來對日戰備の一部として食糧貯藏の建前から泰米を一週間に六千トン位宛の割合で輸入して、それを精米してゐる。鐵道棧橋の東に税關の棧橋がある。附近の海岸は一部堤防をなしてゐるが、先づ何處からでも上陸は出来る。殊にケランタン河は海に注ぐ所に澤山の小島を形成し、その外側に二キロ以上も長さのあつて、しかも幅の狭い洲を横たへてゐる。その洲の先端が丁度ツンパ鐵道棧橋の眞正面一キロ半位のところにあつて、洲の内側は内海のこの邊で一番荒れる北東モンスーンの時でも静かである。大型の汽船が入れるだけの水深がないのでそれが玉に瑕だ。しかし敵前上陸にはよい所と思ふ。

馬來の沿岸を航海してゐた小型汽船の寄港地でもある。

コタバルは人口三萬位で六割位は馬來人、四割は支那人で印度人は極く少數である。町に住む日本人は三十名位、附近に住む——と言つても二・三十哩離れたところ迄を含めて——者を合せて日本人會の會員百名、割合に親日傾向の土地柄として日本人はみんな落付いてゐる。

コタバルはケランタン州の首府で王様も居るし政府の諸機關もある。純然たる兵隊さんの居ない處で、巡查と兵隊さんの中間的な——と言つても矢張り馬來人だが——者が五、六名宛隊伍を組んで、鐵砲擔いで市中を巡邏してゐる。王様は賭博が好きで、政府の収入中、賭博税の占める位置は相當高い。賭博と言つてもピンからキリまである譯だが、此所のは何んでも御座れの八百屋式で、水牛を闘はせてそれにかける。犬を闘はせてはかける。鶏は勿論のこと、豚にまでかけると言ふに到つては驚いて物が言へなくなる。しかも公設の鬪争場を設け入場料をとつてゐる。王様も何かある毎に缺かさず見物する。勇將の下弱卒なしで、王國住民の賭博好きなこと、他に仕事もなし、文化施設もなし、刺戟もない事故無理もないが、朝からゾロ／＼多勢の人出、何事かと驚いて聞いて見ると今日は鬪豚があると言ふ。吞氣と言へば吞氣だが日本にゐる私達には想像

も附きかねるところだ。皇軍はこゝを僅か一日で完全に占領した。親日家の王様はどんなに喜んで皇軍を迎へた事だらうか。

皇軍馬來上陸の情景を偲ぶために、現地特派員の報道を少し摘記して見やう。

「六日未明南支那海の波濤を蹴つて堂々〇〇艦隊の威容に護られて進發したわが輸送船團は天祐と言はるか南海特有のスコールに囲まれた航路を辿つて一路泰灣に向ふ。皇國の斷呼たる決意の下、大日本帝國のため東亞解放のため一億國民の輿望を擔つて、この歴史的世紀の聖戦に覺ゆる感激を胸一杯に眼ませ乍ら南海を肅々と進む。司令長官は一刻も艦橋を去らない。潜水艦の潜望鏡は敵艦の微かな姿も見逃さじと嚴重な監視を續けてゐる。七日午後二時三十分突如「敵機見ゆ 總員配置に着け」のけたたましい擴聲器の聲、ロッキード・ハドソン偵察機と覺しきイギリス飛行機が飛來するのが見える。間もなく南方の方に飛び去つたが遂にわが上陸作戦の企畫は發見された。よし、かうなれば決戦は望むところ、帝國海軍の眞價を今こそ見せて呉れるぞと元氣百倍一同敵のわが輸送船團襲撃を待ちかまへる。緊張に包まれた。しかし遂に敵艦に遭遇することなく八日いよいよ上陸となつた。この朝低く垂れこめた暗雲は遂にもものすごいスコールを呼んだ。

氣象掛將校の報告に依ればシンガポール附近は幸運にも視界零である。これを天祐と言はずして何ぞや、敵機との決戦を怖れはせぬが出来るなら無事輸送部隊を上陸させたあとにしたい。折柄〇〇附近でイギリス機が友軍に撃墜されたニュースが飛込んできた。正午長くも聯合艦隊に對し優渥なる勅語を賜つたことを拜し、艦隊將士一同恐懼、士氣ますく昂り、滅私奉公を誓ふ。眞劍に望遠鏡を覗いてゐたと言ふ兵隊も、罐の傍で百三十度の高熱と戦ひつゝ頑張つた機關兵もおどり上つて嬉し涙を精顔に浮べるのだ。あゝ銘記すべき八日！ 陸軍部隊は一兵残らず偉大な威容を輝かしつゝ、續々と馬來半島に上陸する。帝國國民すら豫想もしなかつたであらう。この歴史的な馬來半島の上陸を、椰子の葉影に見えかくれする日章旗を、司令長官も幕僚も水兵もそして私も勞苦を忘れていつまでも見つめてゐたのであつた。

〇コタバルよりコーラ・クライまで

ケランタン王献上の飛行場

コタバル市外にある飛行場はシンガポールから一週一面の定期飛行の終點であつた。最近は空軍基地として使用されてゐたらしい。上陸した皇軍は最先きに、これを占領し我軍の飛行場とし

た。この荒鷲基地こそ我軍が、今後の作戦を有利に導くに絶対に必要だつた航空部隊の活躍基地として殊勳甲を齎したものだつた。この飛行場はイギリス皇帝ジョージ五世の銀婚式を祝するために、ケランタン王が献上したと言ふ因縁附きのものである。

泰國から馬來に入る鐵道は東西二線ある。東のものは國境を入つて間もなくパシマスで支線を岐つ、それがパレバンを経てツンバに到るものである。本線はパシマスから右折して、ケランタン河の左岸を南下し、テマンガンの少し北方で河を渡り更に南下して約四十哩でコーラ・クライに達す。コタバルより道路で来れば四十八哩、幅員三間位の坦々たる全部アスファルト舗装のよい道である。水田のつきるところからゴム園ありジャングルありで、心地のよいドライブ路である。由來ケランタン州は護謨、コブラ、米を産し、滿俺鐵礦を産し、漁獲も豊富であるので財政も豊か(隣りのトレンガヌ州に較べての話)である。従つて道路もよい譯である。半島を旅行すると道路の良し悪しでその州の貧富が判ると言ふ位である。

コーラ・クライは人口約六千、殆んど支那人で何れも附近にある護謨國關係者である。従つて排日空氣の濃厚なこと當州第一で、在留邦人一人もなし。道路はこゝで終り、それから南下するに

は鐵道によるより仕方がない。ケランタン河を廻ることも出来るが仲々大變である。皇軍はこゝからどうして南下したであらうか。敵は鐵道や鐵橋は破壊して退却した事だろうし、難路を冒した事と想ふ。一部は鐵道に沿ひ大部は北方に二十哩許り引返し、そこから東海岸に出て、先發の本隊に合し南下した事と想ふ。

テマンガン驛の傍からケランタン河を一キロ半遡つて、そこから二キロ許り山に入ると、我南洋鐵鑛會社の經營するテマンガン鐵鑛山がある(詳細後記)。マラリヤの猖獗する土地であり、人里離れた奥山暮しで困苦缺乏に堪えつゝ、我國鐵鑛獲得のため奪鬪さるゝ邦人の姿には涙なきを得ないものがある。

○コタバルよりトレンガヌまで

十萬弗の強制獻金

コタバルより東南百十哩にトレンガヌがある。州境には兩方に税關ありて旅行者の荷物を検査す。トレンガヌ州は馬來人の王様を戴き非聯邦州で、政府官吏も皆馬來人で、イギリス人官吏九名居り監督に任じてゐる。實權は勿論イギリス人が掌握してゐる。州の財政は年額二百萬弗位で、

その三分の一は日本人經營の鐵鑛石の輸出税で賄つてゐる。だから住民はこの事實を承知してゐて政府の高官でも皆日本人に感謝してゐる。私達の月給は半分は日本人のお蔭だと言つて禮を述べる者もある位である。イギリス人でそんな事を言ふ者は藥にしたくもない。住民の純朴さを知るべく、その親日の情も眼に見える様だ。當州には、日本鑛業株式會社の經營するヅンゲン鐵山と石原産業海運株式會社の經營するケマン鐵山とがある。前者は少くも年産百萬トン乃至百二十萬トンを、後者は二十萬トン位を日本に輸出し、輸出税トン當り三十仙乃至五十仙納めてゐる。こんな苦しい財政の中から、第二次歐洲戰爭が初まつて一年位の間は王様は五萬弗宛二回英帝に獻金をして忠誠を誓つた——その實は強制獻金を命ぜられたものらしい——。

この州にも馬來人の兵隊は居ない、英兵も來てゐなかつた。ケランタン州と同様に巡察に鐵砲を持たせて兼務させてゐる。

コタバルから南下して州境を越すと間もなくジェルテと言ふ人家にして二・三十軒もあらうか位の小村のところまでベスー河を渡船で渡るのである。それから暫くの間は割合に坦々とした平地で護謨園があつたり、椰子が點々と植えられたり概して農耕地になつてゐる。更に十哩位も南下

してジャビー村に入れば、もう密林地帯だ。道の両側に山が迫り密林が晝なほ闇く蔽ひかぶさつてゐるところもある。道路も精々九尺位で舗装はもとよりなく曲りも多く、自動車に乗つてゐても乗心地はよくない。それでも東海岸の道路はこの道一本でありこの邊はまだ上への部である段々南下する程砂道となつてひどくなる。トレンガヌ河に近づくと密林は遠く視野の彼方に去つて、また椰子その他の農耕地になる。此所の渡し場は河口にも割合に近いので河幅も一キロ位もあつて、水上機でも着ける位に廣い。河口右岸に遙か樹間に見える建物はトレンガヌである。こゝはトレンガヌ州の首府で町の中央に王宮もあり、それに續いて、王宮専屬のゴルフリンクがある。更に煉瓦造りの洋式王宮をも新築してゐた。附近には英人専用のゴルフリンクもある。何の事はない、これ等の廣大な地域を町中に占めてゐるので一般住民の住む區域は片隅に押し寄せられた格好である。その代り私達旅行者が通る通路は、廣潤であり、樹木もほどよく鹽梅せられてそこに見苦しからぬ建物を眺められる。人口約三萬、五割は馬來人、四割八分は支那人残り二分位が印度人その他である。日本人は三十名ほどゐた。雜貨商、寫眞屋、齒科師等である。電氣もなければ水道もない。井戸を使つてゐる文化の遅れた町だ。沿岸航路船が寄港する。潮が低い時は

沖に着く。潮待をしてそれから河に入つて來ることもある。荷物の多寡にもよるのだらうか。

○トレンガヌよりツングンまで

海龜の産卵場

四十七哩、自動車で二時間乃至二時間半を要する。郵便バスが午前午後各一回通つてゐる。この道は一九四〇年一月に完成したもので、それ迄はボン／＼船に乗つて海上を行くか、海岸の砂濱を二日もかゝつて歩いたと言ふ。ボン／＼船でも、波靜かな時で六時間以上もかゝつた。少し波でもあると交通社絶は勿論のことだつた。現在の道路は九尺位の幅員で砂の多い處では車輛が減り込む。それを頃合ひの丸太を横に列べて防いでゐる。旅行者としては決して愉快なものではないが、そんな事を言ふと案内して呉れてゐた邦人に叱られた。道の無かつた當時の不便さと苦痛を知つてゐる人にとつては、現在のこの道は都大路の坦々たる舗装路にも勝るものがあるのだらう、尤もなことと思ふ。支那人經營の自動車屋があつて、タクシー四臺と、バス四臺ある。タクシーも客があれば乗合ひで二人當り二弗五十仙、バスは一弗五十仙、海上のボン／＼船は一弗で貧乏人の多いこの地では今尙一日一回通つてゐる。二弗五十仙のタクシーは勿論のこと、一弗

のボン／＼船にも乗れない連中がどれ位澤山ある事か、そんな連中は一家親子連れでぞろ／＼と海岸を歩いてゐる。

皇軍の占領でこれ等の民草も皇化に浴する日が近いであらう。

トレンガヌより南へ四哩も行くとコーラ・イバイがある。ほんの十軒にも足らぬ寒漁村であるが、その傍で渡し場を渡らねばならぬ。それからすつと道の右側は山でジャングル地帯であり、左側は五十米位を距て、海濱である。コーラ・マランで再びマラン河を渡船で渡る。此邊の渡船は大概大型で一度に自動車二臺を縦に並べて積む事が出来る。それを馬來人が浅い所は竿で、深くなると岸から岸まで展張してあるワイヤーロープを傳つて船を進めてゐる。自動車に乗つた儘で渡船に車を移すのだが、これは餘り愉快な安心の出来ることではない。船の前後には車輪止めがない。有れば乗せ卸しに困るかも知れないが、開閉式にしておいて乗せる時は前方のものを閉めてでもおいて呉れると安全でもあるのだが、そんなものは何もない。横には少し高い舷があるので一寸氣安めにはなる。先づ船を適當なところに纜つてあつて、それに板を渡してある。それで自動車を乗船させるのだが相當の熟練と度胸が要る。やつと渡板を通つて前車輪が船に乗つた時



は大した感觸もないが後車輪がゴトンと移つた時には船はグラ／＼するし、一寸不安ないやな氣持がする。曾てイバイの渡しでこの儘バスが河中に落ちた事があつた。この邊の河は流れは表面靜かで緩かであるが底流は相當に急であり、水深も大であるおまけに罅がある。段々と狩り取られて少くはなつてゐるが罅の棲んでゐる事は確かである。だから住民でも河には絶對にはいらぬ。皇軍の勇士が裸で背中に日本刀を負つて鐵砲を高くさし上げてこれ等の河を泳ぎ渡つたと言ふがその勇士たるやさすがに皇軍なればこそと思ふ。斷じて行へば鬼神も避くと言ふことが、こゝにもあて嵌まるのである。イバイのバスは斷じて突進した譯

ではなかつたが、兎に角死者を少し出して大部分の乗客は助けられた。その中に日本人もあつたと聞く、死んだのは奥の方にゐて逃げ出せなかつた数名で、直接罅にやられたのではなかつた。楔形の材木を置いて前後を止めた程度では渡船上の自動車は全く不安全でヒヤ／＼するものがある。馬來でも西海岸は交通も多く文化も開け道路も整然と完備してゐるが、東海岸は誠に百年の遅れがある。ジョホール州東海岸を除いては、バハン州でも、トレンガヌ州でも、ケランタン州でも河に橋の架つてゐるところは殆んどないと言つてよろしい。斯ふした渡船で渡る事は不便の上もない。雨期で少し水量が増し流れが急になるともう渡船は出ない。旅行者が一・三臺連ねて行つた自動車でも渡し了るに相當の時間がかゝる。それを思ふと皇軍はどうして渡つたであらうか、行軍するだけでも並々ならぬ勞苦があるのに。

マラン河を渡つて十哩も南下すると右側の密林山は少し遠のいて丘陵となり、所々が濕地でも知れぬ灌木が繁茂してゐる。その眺めは目を樂しますものがある。道は相變らず砂道である。道から海岸までは雜草が生え繁つてゐてその間に小さな川があるのかと思ふとそれは數哩も續いた。ほんといふ帯よりも細く長い入江であつたり、河水が眞直ぐに海に注ぎ込めないで汀に浴ふて

ほんの十米も離れたところを恰も鬼ヱツコをしてゐるかの様に二哩も三哩も逃げ廻つて、鬼の見てゐない所に来て、ソット海に注ぎ込んでゐるあたり一寸愉快である。地質と北東モンスーンの関係でもあらうが、この附近の海濱には海龜が群集して産卵に來るので名高い。政府は海濱を入札で拂下げる。それも海濱それ自體の拂下げではなく、産卵期一シーズンの場錢をとる意味で産んだ卵を採取する権利を拂下げる譯である。入札者は支那人が多い。その卵を採つて食糧品として、シンガポールその他へ送り出すのである。これによる税収入も、當州としては、よい財源である。

こんな話を聞きながら自動車を走らせてゐるとお尻の痛いのも案外苦にならず、二時間か三時間たつて、いつの間にかツングン河の左岸に着く。渡船で河口を渡ればツングンの町である。

○コーラ・ツングンとその附近

州第一の近代都市、日鏡町

コーラ・ツングンは以前はさほどの町でもなく、寧ろツングン河口の小漁村であつた。それが大正の末に日鏡がこゝから約三十キロ奥に所謂ツングン鐵嶺山を初め鐵嶺石搬出の準備を始める



(影撮者著) 町のソグソグ・ラーゴ

と共に労働者が集まり更に昭和五年に至つて全設備が完成して稼行が開始されるや、税關その他の役所も設けられ町は段々と立派になり遂に現在のものとなつた。それでもその程度は知れたものでコタバルとは桁違ひでありトレンガヌにも遠く及ばぬ。人口も勿論一萬なんてない日本人は町に五十名近く居るがその中三十名位は日鑛關係者であり、残りは宿屋、寫眞屋、床屋などをしてゐるが何れも日鑛の庇護に與らぬ者ではない。

こゝから海上十七哩距て、テインゴール島がある。全島聳立する山で人跡未踏の密林が鬱蒼としてゐる。西側に少し灣入した入江があり、その海岸に僅か許り白砂の濱があつて椰子樹が生えてゐる。馬來人は椰子の實が熟れる頃とりに行く。その時に宿ると覺しいアタツプ葺きの小屋が一軒ある文であるが、日鑛の連

中は大型曳船を持つてゐるので、それに乗つて折々海上ビッグニックに出掛けるらしい。途中で鯉でも釣つて、島に着いてそれを肴に一杯やつて歸へるのは他に行きどころのないツングンとしては誠に手頃な愉快な行樂に違ひない。私もその行樂に加へて貰ふ榮を得たが、當日は少し波が荒くそれに連日の旅行で疲労してゐたせいもあつて、船に酔つて折角の鯉の刺身も見ただけで咽喉を通す勇氣がなかつた。今でも我ながら残念と思つてゐる位である。その代りよい想出となつて懐しくもあり、馬來を思ふとテインゴールの島が眼前に浮び出すのである。

日鑛のツングン鐵鑛山については別項で詳記するが、同鑛山はこゝからツングン河を溯つて殆んど眞南にあつてゐる。今では約二十哩の輕便鐵道がジャングルを切り拓いて通じてゐる。道路は數年前から政府で作るかゝつてゐたが途中で止められてゐる。金も莫大に要することだし、工事も相當に難しいし、財政の貧弱な當州としては大變な負擔であらう。日鑛としては道路があれば尙便利で結構であらうが、無いからとて立派な輕便鐵道があるので一向に不便はない。内地で言ふと雲仙に行く時に乗る島原鐵道をもう少し立派にした程度のもので、鐵鑛石の運搬が主であるが毎日何本かの列車には必ず客車を一・二輛附けて關係者の乗降に資してゐる。鑛山事務所

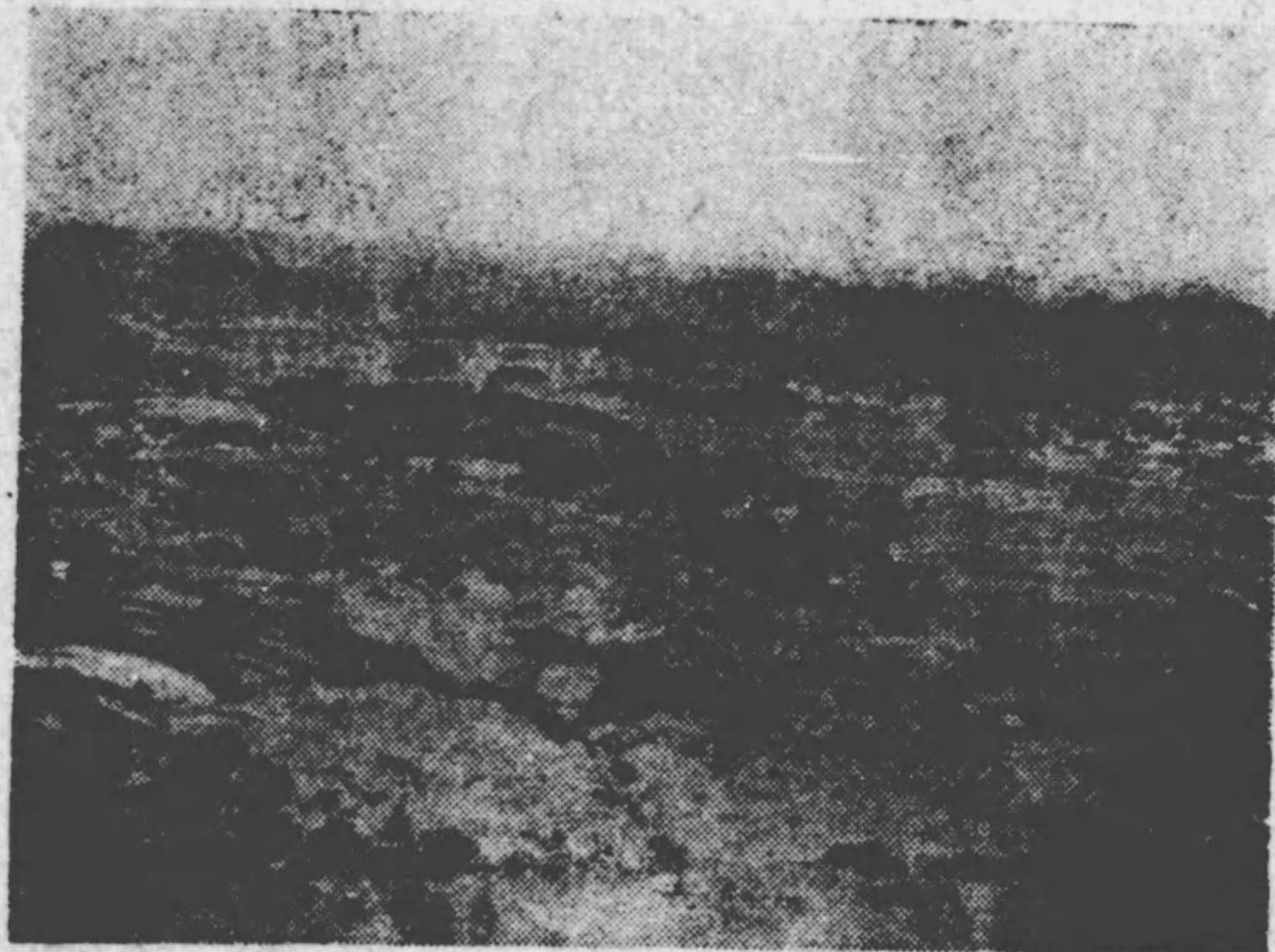


む望を隻三船本と舳りよ端橋棧込積石積ラス
(影撮者著)(す望遠を島ルーゴソイテに央中)

所在地を元山と言つてゐる。そこには日本人の社員でも百六十名も居り、苦力は五千名以上も居る。印度人、支那人、馬來人、その家族を加算すると相當な數になる。元山の住宅地はトレンガヌ州第一の文化施設の完備した近代都市(?)と言つても過言ではない。第一、電燈のあるのはトレンガヌ州廣しと雖こゝ丈だ。水道のあるのも、汽車のあるのもこゝだけだ。町にある一般施設だけでも大變なものだ。警察署がある。巡查住宅がある、森林官住宅がある、税關が四ツもある。それに附屬した税關吏の住宅が三ツあり、郵便局あり、その局員の住

宅がある——是等は政府の仕事をしてゐる所ではあるが政府が作つたのではない。みんな日續で作つて提供してゐるのだ。言はゞ何れも請願巡查であり請願税關吏である——更に俱樂部があり、來客宿舍あり、旅館あり、市場あり、小學校あり、コーヒー店あり、理髮店あり、豆腐屋あり、共同風呂あり、停車場ありで、つまり日續で一つの日續町を作り上げてゐるのである。その他に特筆すべきは、レントゲン設備や手術室まで完備した病院と、それに附屬した病棟が八棟もある事だ。白人の酷使の下に働いてゐる苦力なんか病氣をしたつて、怪我をしたつて誰も診ても呉れねば手當もして呉れぬ苦力どころか馬來兵でさへ、その程度にしか扱はれてゐない。イギリスの權益を護るために強制的に戦線に立たされて傷いた馬來兵、印度兵の如きでさへ、痛がつてゐるとイギリス人軍醫はうるさいのか面倒なのか、無慈悲で血も涙も無いのか、何等の手當もせず注射を一本打つて殺して了つたではないか——之は皇軍がイポーに入城して九死に一生を得て救出された邦人老婆今村よしさんの英兵に監禁されてゐる時の目撃談として特派員の傳へるところである——。

斯る人間であり乍ら人間の取扱ひを受けてゐなかつたアジアの不幸な人々を英米人の手から救



標高四百呎の鑛石採取場から元山町を俯瞰す

(中中央手前は邦人住宅、白建物は社長宅)
(右端は邦人妻帯者住宅、中央は苦力小會)

日鑛の輕便鐵道の海岸終點はコーラ・ツングンの南二哩位にあるスラと言ふ所で、そこに長さ

出して御仁慈浴き皇化に浴せしめるのこそ
今次大東亞戰爭の眞目的である。その大東
亞戰爭の以前でも、しかも白人の領有して
ゐた馬來の人里遠く離れた山間僻地でも日
本人の下に働いてゐた住民達は完く思ひも
よらぬ皇恩に浴してゐたのだ。それを考へ
ると日鑛のこの設備この取扱ひこそ以つて
範とするに足るものではあるまいか。

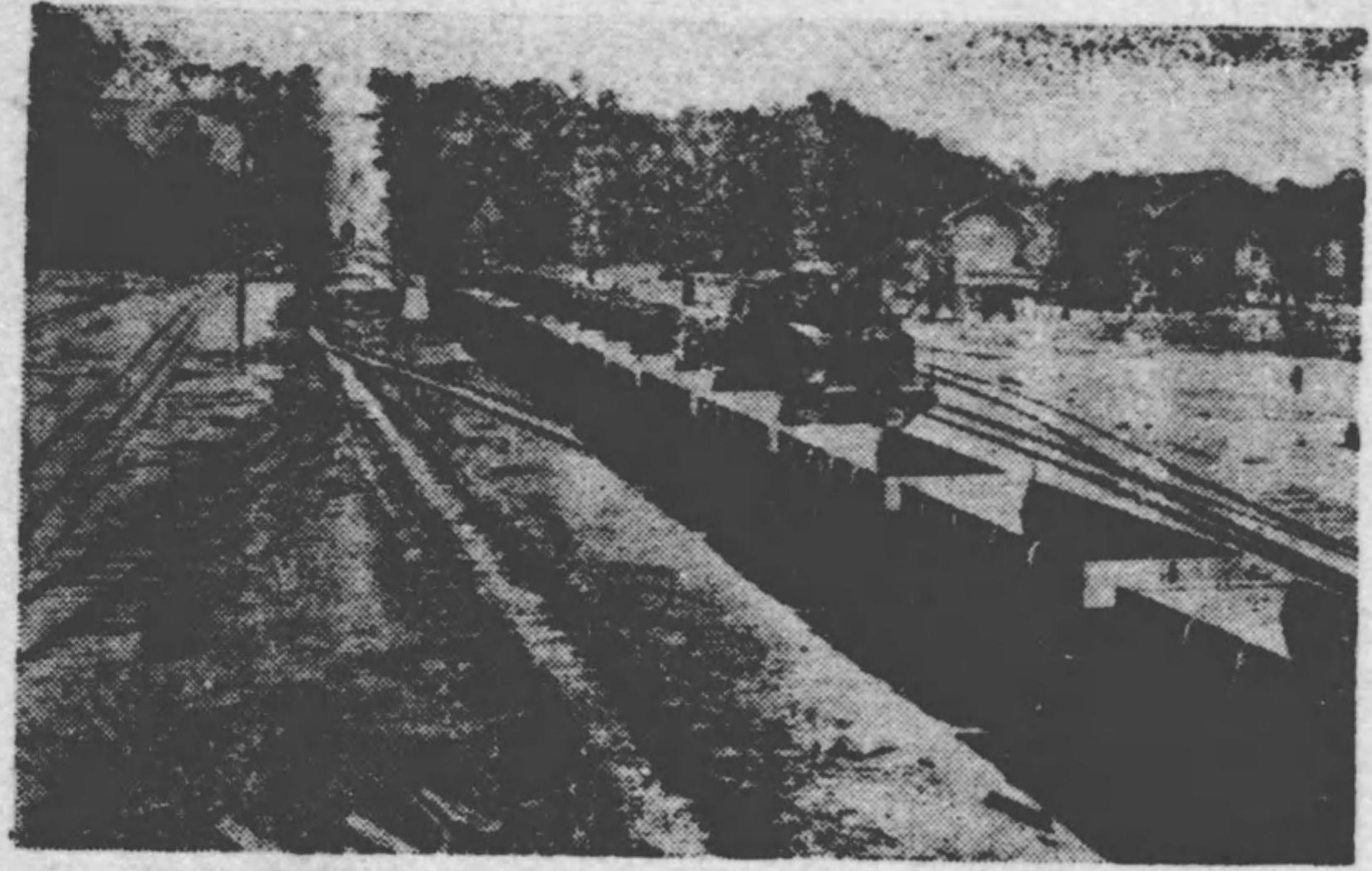
朝の下り列車で盛裝した印度人の妻君が
喜び騒ぐ吾子の手をひいて、ツングンの町
に出掛けるのを見ると、私も旅の心を忘れ
て自然と微笑の浮ぶのを禁じ得なかつた。

百五十米幅十米位の棧橋があつて、その突端まで導かれてゐる。こゝで鑛石は軌道を通りながら
看貫せられて棧橋の兩側に着いてゐるライターに移され更に二・三哩沖に碇泊する日本船に運ば
れ、一船に八千トン乃至一萬トン宛積まれて日本内地に輸出されるのである。スラ附近は一面の
砂地でところどころに芝草のやうなものが繁茂してゐる。椰子も見えるが数は多くもない。ちら
ほら散在する民家は竹の柱に椰子の屋根でアンベラのやうなものを壁にしてゐる。ティンゴール
島まで行かぬ時はこのスラ海岸に出て海水浴をしながら水平線上遙かに家郷を偲ぶと聞く。海水
浴場とするにはあまりに殺風景な海岸ではあるが、元山町以外に日本人が浩然の氣を養ひに行く
手近なところとしては他に何處もないのである。

○コーラ・ツングンよりクマセまで

此處より道路盡きる

道路は海岸沿ひの一本道で距離にして約三十哩だが途中に渡船二ヶ所あり、自動車で二時間半
はかゝる。シンガポールは言ふ迄もなくジョホール州から西海岸諸州の道路は舗裝完備の一等道
路であるので、よい車で走ると七十キロから八十キロは出せるのが普通である。その計算で行く



日鏡の輕便鐵道ニボツ停車場

と此間位は四五十分で澤山である。それが二時間半もかゝる。そこに東海岸の文化の遅れが見える橋もなければ道路も悪い。一説に依るとイギリスとしては馬來も西海岸だけで充分なのだ。錫や護謨はみんな西海岸から出るので、何も出ない東海岸などに手を付ける必要が無いとの事だ。丁度、和蘭が東印度で三百年かかつて開拓したのは瓜哇一島で、スマトラには少し手を附けた丈で、あのボルネオとかセレベス、ニューギニアには、まだ殆んど手を附ける餘裕もなければ暇もなし又その必要もなかつたと同様に馬來に關してもイギリスはケランタン、トレンガヌ、バハン等の東海岸には未だ一指も染めてゐないと言つてよい。私がコタバルから南下して來

た道路の如きも一九三九年に今の總督シエントン・トーマス——一月十一日にシンガポール危しと見て、逸早く家族を纏めてカルカッタに逃避し、そこから臆面もなく馬來に向け英兵諸君は最後まで任務に忠實に任地を死守すべきだと放送したその總督である——が軍艦でクマセに來り、そこから上陸して東海岸を視察するために作つたものである。恐らく道路の新設で總督の威光を土着住民に誇示したかつたのだらう。しかもトーマスは夫人と令嬢を伴つてこの道を自動車で北上したと言ふ。白人女性の心臓や體格の強度は全く私達には計り難いのを今更の如く感じた事であつた。この令嬢はその後間もなく空軍將校と結婚して印度とか南阿とか本國とかに居る由に聞くが今尙心身共に健在なりや否や。この車輪の半ばを没する砂道を通つて四年前の颯爽たるお身の姿を想像して、いささか感なき能はず、よつて茲に一筆記したる迄。

スラの砂地々帯を過ぎると急峻道路をはばみて樹木密生し、一瞬にして千古の密林に入る。野痕のキ、と鳴きて樹間を渉るを見乍ら行けば、程なくパカ河に到る。例の渡船で渡れば民家百戸許りのコーラ・パカの町あり、これを過ぎ行けば相當廣き椰子園あるも、その椰子樹は貧弱にして葉の色赤く、實の如きもこの樹に一つあつた椰子樹に二つと言つた鹽梅である。それから又一寸した

密林地帯を抜けてケレテ河を渡船で渡り更に南下すれば丁抹人經營の椰子園に入る。此園内の椰子はバカのよりは少し成績よろしき様なるも大したものにあらず、聞けば此附近は砂地にて一般に椰子には不適當なる由。

こゝに來て道路はつきたかと思はれた、それ程一面の砂で道路の標識がない。初めての人であれば方向を見失ふこと必定である。その代り馴れた人にとつては椰子樹の間を勝手に縫つて行ける便利がある。こゝを抜けるとクマセ町だ。本道路の西側は七・八キロの丘陵地帯を距れば山嶽地帯で斧鉞の入りぬ密林である。住民の話では象も居ると言ふし、その他、虎、野牛、犀等の猛獸が棲んでゐると言ふ。

○クマセとその附近

快男子 西垣仙造氏のこと

クマセは馬來人の小寒漁村で戸數百に満たず、地方行政官吏駐在す。街は海濱に面した片側街で戸數四・五十軒もあらうか。他の家は雜然として椰子樹の間に四散してゐる。海濱は一本の直

線で港とは言ひ難いが、沿岸航路は無風期だけ寄港してゐる。

在留邦人は十名位であるが、その中に西垣仙造氏とて當年五十五・六歳の岐阜縣出身者がある。クマセ在住三十年で、現在の商賣は、その名刺に書かれてゐるところに依ると「クマセ縣會議員 護謨栽培、自動車運輸業、官許質屋業」とある。馬來に在住する日本人は戦前で六・七千人もあり、その仕事は千差萬別であり手腕、力量、人物に至つては更に更に玉石混淆たるものである。その中で西垣さんは一種特異な存在である。青雲の志を抱いて渡南してから今日迄三十年の歴史は立志傳記として優に立派な大冊をなすものである。私はこゝにそれを述べやうとは思はぬ。また思つても資料もない馬來に關するいろ／＼な方々の旅行記やその他は随分澤山ある。その中には何處で誰に會ひ御馳走になつたとか、ゴルフに伴れて行つて貰つたとか、見物に案内して貰つたとか、そんな事は必ず書かれてゐる。従つてその案内役として登場する人物も地方々々で略定まつてゐる。西垣さんが今迄さう言つた旅行記の中に書かれてゐないからとて、それは何も西垣さんのせいではない。従つて西垣さんの特異な存在を否定するのではない。却つて安易な旅行許りをして——大抵の馬來旅行者はシンガポールから西海岸を北上してピナンを経て泰に入る。飛行

機旅行者はシンガポールとピナンの二ヶ所だけより見物しない。汽車旅行者は沿線の町々や富林の姿を窓越しに眺め乍ら、途中下車して見るのはせい／＼コーラ・ラムプール位なものであらう。自動車旅行者は日數もかゝり途中も大變だから特殊な用事の人丈がやる。これであるとシンガポールを出てジョホール・バル、メトバハ、ムア、マラツカ、スレンバン、コーラ・ラムプールと言ふ具合に比較的精細な視察が出来る。更に北上してコーラ・クブ、タンジョン・マリム、タツバ、イポー、コーラ・カンサ、タイピン、ピナンと行く。こゝで大低の人は馬來の旅行を打切る。時には商用その他でアロスターまで旅程を伸す。従つて東海岸の旅行者は皆無と言つてよい位に少い。東部線の鐵道で泰から入國する人でも汽車の都合（急行列車は一週二回よりない）等でコタバルの視察も出来ない。だからケランタン州を知つてゐると假定してもそれは汽車の窓からの展望に過ぎない。況してヤトレンガヌ州、パハン州の如きは汽車も通らねば道路も無かつた位のところ、日本人の旅行者の人跡未踏地であつたのも無理からぬ事である。西岸旅行を安易な馬來旅行と言つたのは斯ふ言ふ次第であるからだ——西垣さんを知らなかつた旅行者こそ残念がべきであらう。

私は幸ひにも西海岸も東海岸も旅行したので、あんまり日本人が知らな過ぎる東海岸を御紹介したいと言ふ念願で本書を上梓したので、その手前から申しても、馬來で「日本人此所に在り」の特異存在たる西垣さんを少し御紹介せねばならぬ義務ありと思つたのである。さて前にも記した様に當州は非聯邦州であつて土着住民の王國である。その事が西垣さんの存在に非常に關係がある。私は西垣さんに、クマセ縣會議員と言ふのは一體どんな事なんでしょうか、實はシンガポールの長老から一寸あなたの事を承つたが、その時もその長老自身があなたの縣會議員を疑問にしてゐましたよ。と、無様に聞いて見た。するとその返事に「この邊一帶はクマセ・デイスツリクトです。これは日本式に翻譯するとクマセ縣となります。クマセに居る馬來人のデイスツリクト・オフィサーは即ち縣知事です。縣には縣會があり、縣會議員は民選と官選があり、昔は馬來人許りであつたが數年前から支那人が民選された。その時支那人と馬來人丈では信用ならぬと言ふ王様のお考へで王命によつてこの西垣が任命された、だからクマセ縣會に於ける立場は王様の腹心の目附役と言ふ譯で一寸大久保彦左衛門格です。縣知事なんか私の機嫌を損してはと何かあると先方から足を運んで挨拶に來ますよ」と言ふ。縣會の官制の事などいろ／＼と聞いたが一寸



(橋垣画) つ一の慢自御んさ垣西
(影撮者著)

の説明に依ると最初は西垣さんと支那人二名がその仕事を命ぜられたらしいが、何か事があると支那人の方はすぐ利益に走つて買収されてしまふ。それに反して西垣さんは負けぬ氣の正義派で常に正論で渡り合ふ。おまけに在住三十年が物を言つて土地の事情にも精通してゐる。それで案

不確かな記憶になつて了つたが何んでも行政の諮問機關で、それも住民が馬來人だけならお上も馬來人だけで處置が着くのだが、支那人が相當多數居り、それが經濟的實權を握つてゐるので何か問題が起ると馬來人丈では風俗習慣も違ひ、考へも違ふので適當な判斷で押し切る譯に行かない(土着王國の弱い處である)また税金その他の問題が多いらしい。そこで支那人を諮問機關に登用した。しかし支那人だけでは信用出来ないで西垣さんをそれに加へたと見るのが本當らしい——以前から王様の侍醫をして王様の信任篤かつた邦人某を介して西垣さんも王様の知己であつたのだ——更に西垣さん

件の實狀を調査して見るとすぐ問題の是非善惡が判る。だからいつも二名の支那人が敗けてゐたそこで二年程前に支那人を四名に増して別に馬來人を二名新たに任命した。現在では西垣さんは馬來人二を配下にして支那人四を對手に、日本人此處に在りを實地に示してゐる。支那事變始まつてこの方の奮闘は實に目醒しいものがあるらしい。私は此話を聞いて大正十四年に海南島海口で初對面した勝間田善作氏を想起したのであつた。しかし勝間田老は海南島の草分けとして數奇に富んだ半生を送り皇軍進撃に當つては軍屬として、案内役の重責に當り、後故山にあつて不幸病歿されたと聞く。

南洋に多くの邦人が在住してゐるが西垣さんの存在は誠に特異と言はねばならぬ。皇軍の進撃に當つては西垣さんも大いに案内役の重責をつくされた事と思ふ。しかし王國主腦者との親交による今後の活躍こそ更に祖國へつくされるどころ大なるものがあらう。

西垣さんの話はまだつきない。少くとも、もう一つ記さねばならぬ事がある。それはクマセからケママン對岸に行く十九哩の國道建設のことである。政府は少い財政の中からこの道路の新設を計畫し、着手したところが、途中にある山越しのところが案外の難工事であつて、そこへ計畫

も少し杜撰なところがあつたらしく、兎に角豫算は無くなるし、工事は遅々として進まないと言ふに立至つた。これを見た西垣さんは義侠心を出して日本人の面目にかけて完成する事を誓つて乗出した。それからと言ふものは、毎日自分で現場監督に出掛け、手辨當で六ヶ月間自然と闘つた。一千弗以上の金を自分で支出して遂に完成した。實地檢證に來た政府の係官もその出來榮えに驚愕したと聞く。途中には木造の橋を設けそれに西垣橋と名付けてある。道路の名を西垣路としやうか仙造路としやうか考へ中だが、どつちが宜しいでせうか？ と、私も相談を受けた。私は直感的に「西垣路」がよくはありませんかと答へたのであつた。何んと名付けたか、その西垣さんが、日本人此處に在りの意氣で造つた路を、先頭に立つて皇軍を案内して行つたかと思ふと私も胸に熱いものこみ上げて來るのを感じる。當の西垣さんの喜びは、どんなであつたであらうか。

西垣さんは更に語る、「完成までに自分で支出した千弗の金なんか問題ぢやありません。日本人として、日本の存在を少しでも認識せしめたかと思ふとそれだけで充分です。仕事に對する代償として、政府はこの道路の專用權を私に呉れました。道路の維持費が年に五千弗は要るのです。

政府に願出て千弗補助して貰つて残り四千弗は通行料と郵便運送料で支辨しようと思つてます。通行料と言つても、この邊は土着民が多いので人間が歩いて通るのは自由として、自動車一臺に付て二弗徴收する積りです。バスは運輸業を家業としてゐる關係で手持のものを使つてそれで郵便を運びます」

「これで結局クマセとケマン間の交通權を握つた事になります。私の將來の望みは更にクマセからトレンガタに至る間の交通權と經濟權を日本人として、どうしても掌握したいのです」と言ふ。以つて彼の面目を窺ひ得やう。

○クマセよりケマンまで

ニツバ椰子と石原の鐵山

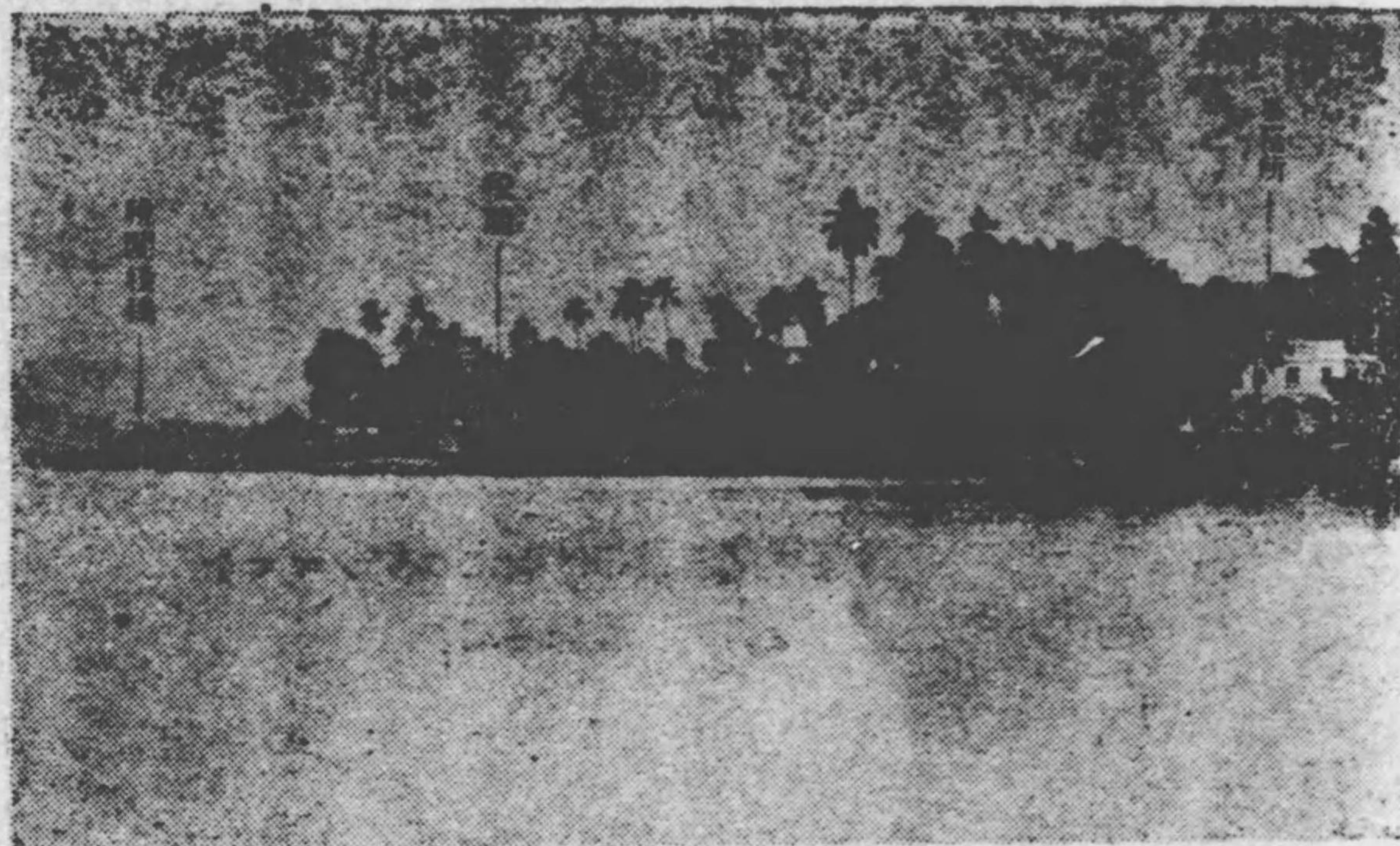
西垣道路がまだ使用初めになつてゐなかつたので、クマセからヤヤに行く道をとることにした。十五哩許りの道で護謨園の中を抜け密林を潜るのである。田舎道で登り下りが多く、しかも雨水が道を流れるので真中が堀れてゐて、唯さへ歩きにくい。それを自動車で行くのは相當なものである。ヤヤはチユカイ河の河岸にあつて支那人經營の製材所と、そこに働く苦力の小屋が三・四

軒あるだけだ。チユカイ河を渡つてケママンの奥に出る道があるとも聞くが私の地圖にはない。私の今来た道は兎に角ヤヤ迄でそれから先きはなくなつてゐる。この製材所へ通ずる道なのだ。こゝから小舟に乗つてチユカイ河を下つた。この小舟はケママン河の河口にあるチユカイから備ふたものである。クマセから連絡をとつて(チユカイからクマセ迄は政府専用の電話がある。それを西垣さんの顔で借りて貰つた)迎へに来て貰つたのだ。十五哩許りも熱帯特有の曲り曲つた河を下るのである。河水は殆んど流れてゐる様には見えない。浮いてゐるゴミは動かうともしない。小舟の波で僅かに動くだけだ。それでも河の底には相當な流れがあるらしい。遡る時よりも下る時の方が速いことは確かだ、河幅は案外狭くヤヤ附近では五米位それが下るに従つて十米となり十五米となる。兩岸はニツパ椰子(この葉で屋根を葺く。そして出来た家を所謂ニツパハウスと白人共は言ふ)が密生してゐる。それも根元の方は全部水漬けでどれ位の高さがあるか一寸測り難い。葉軸には、物凄じいと思はれる位のトゲが生えてゐる。この椰子の間をかきわけて上陸することは六ヶ敷く思はれる。これも皇軍の勇士にとつては譯なく解決された問題かも知れぬ。ニツパ椰子が無くなるとマングロープの様な樹が密生してゐる。これも水中に生えてゐて幹は水



河岸に生ひるニツパ椰子

からヌツト出てゐる。河水が横に擴がつてゐる範圍はどの邊までなのか一寸想像も出来ない。こんな所に鰐が居るのだと言ふチユカイ河でも鰐を見かけたと言ふ。日本人もゐたが、私は見たいと思ひ乍ら、とうとう一度も見ることがない。チユカイ河は河口でケママン河に合流する。その左岸に山の様に赤土を盛つてあるのを遠望して何をしてゐるのかと驚いたが、聞けば石原のケママン鐵鑛山で北東モンスーン期に掘つた鑛石を此所に運んでおくのだと言ふ。北東モンスーン期には馬來の東海岸は連日荒れて風破高く、鐵鑛石積取船が日本から來ない。だからその間に掘つたものを成る可く船積に便利な近くのところ迄運んで来て貯へておくのだと言ふ。チユカイの町はケママン河の河口から五キロ許り上流の左岸にある。



町のイカエチの河口ソママケ

(る廻に右てつ廻を橋棧關税は河、りな所務事運海業産原石は端右)

る道路がある。
ケマン山から露天掘で採取した鑛石は山からトロツコで五哩運ばれ、そこから舟に積み取つてケマン河を十二哩下江して河口に到るのである。

○チユカイよりクワンタンまで

英主力艦撃沈の名所

チユカイはトレンガヌ州の最南端の町で、それから十キロ許り南下すると州境に達し、それから南はパハン州となる。クワンタンはパハン州東海岸の北部にあり、交通の要衝に當る。

チユカイから渡船でケマン河を渡り、それから海岸沿ひに南下すること四十哩位でクワン



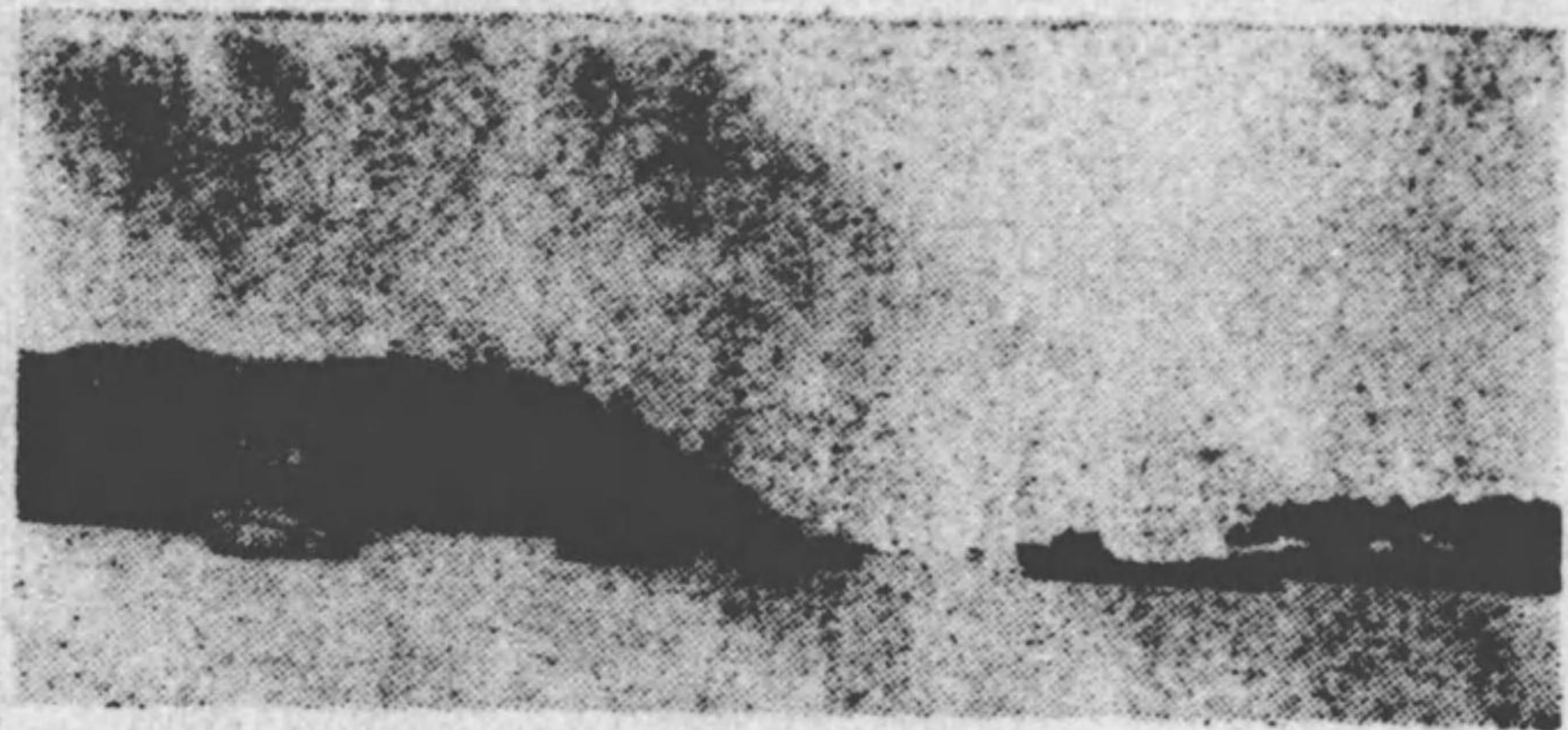
(影撮者著) 町のイカエチ

この地方をケマン縣と言ひ、チユカイに縣知事もゐる。政府關係の建物は椰子林の間に疎散してゐる。何れもニツパ葺きの小屋に少々毛の生えた程度のもので、見た眼に甚だ貧弱である。

石原鑛山事務所が税關のすぐ側にある白堊の二階建が堂々として、此町第一の建物である。他は推して知るべしである。電氣もなく、水道もないところから西北十三哩のところに石原のケマン鑛山がある。更にそれから五哩奥に支那人經營の錫山がある。そこまでチユカイから自動車の通へ

○チユカイとその附近 石原産業のケマン山

チユカイ町は人口二千位で大半支那人の様だ。相當な棧橋もあり、それに續いて税關もある。



静用搬運石積るけおに口河ソママケ

(影撮者著)

タンに到る。途中に渡船場二ヶ所ある。砂道で相當の悪路である。自動車で三時間はかかる。郵便バスとタクシーが通うてゐるがその車體たるや恐るべき代物である。支那人は殆んど使用出来なくなつた古自動車を入手して来て、それを毀れて動けなくなる迄ユキ使ふのだ。どうせそれ位の代物だから、いくらインチキなお上でもライセンスを出さない。と言ふよりライセンスを取上げられた古物を探し出してそれを安く買入れて來ると言ふ方が事實に近いかも知れぬ。それで縁いで儲けやうとするのだから乗客こそ迷惑至極で、乗つたが最後全く命がけである。支那人の經營側に言はすればよい車を使つたら一日でガタ車になつて採算が取れないと言ふ。何れが是か非か、それ程に道の悪いことは通つた者でなければ想像出来ない。

チユカイとクワンタン間には、この他に小型船による海上交通の便があるが、これとて相當な難行である。イギリス極東艦隊の主力艦プリンス・オブ・ウエールズとレパルスの二隻が我が海

驚の好餌となつて開戦三日後の十二月十日に轟沈されたのは實にこのクワンタン沖五十哩の地點に於てであつた。

○クワンタンとその附近

クワンタンが交通の要衝たる所以は實に東海岸より西海岸に通ずる道路がある點にある。地圖を繙けば判る様に約六百哩に亘る長い馬來で東海岸から西海岸に通ずる道路は二つしかない。その一つはクワンタンから西行してゼランツウで鐵道東部線を横切つて更に西行してゐるもので、他の一つはジョホール州のメルシンからクルワンを経て、こゝで鐵道を横切つて、アイエルヒタム、パトバハに至るものである。メルシンから南下して、コタテンギを経てジョホール・バルーに至るものはあるにはあるが、これはもとゞ軍用道路として完成したものであつて、事實戦前に於てはその一部が一般の交通を禁止してあつた。

泰との國境からケランタン州トレンガヌ州と長い距離の間に唯一つの西行道路もなく始めてクワンタンに至つてそれがある。と言ふ事を考へると、この道路の意義の深いことが判る。ゼラ

ンツウ迄百哩餘りの半分以上は舗装してあり、曲り角を改良して道幅も十五呎位あり相當な道である。途中パハン河を二度渡船で渡らねばならぬ。支那人經營の郵便バスとタクシーが通つてゐる。二弗三毫あり一日一往復する。二弗五十仙で約五時間はかかる。タクシーならば三時間である。排日の盛んな頃は支那人は日本人をバス等に乗せないものであるが一般に郵便バスは政府の命令線で補助を貰つてゐる關係上日本人を乗せない譯には行かない。乗つてゐる日本人としても不愉快であり不安であるが、歩くわけにも行かず、これを利用するのである。石原ケママン鑛山へ行く人は殆んど此の道を利用した。即ちシンガポールを夜行列車で出で、ゼランツウに朝早く着く。それからバスでクワンタンへ更



ルグンヤジ車行急の線部東-レマ
(車列るせ車乗の者著)

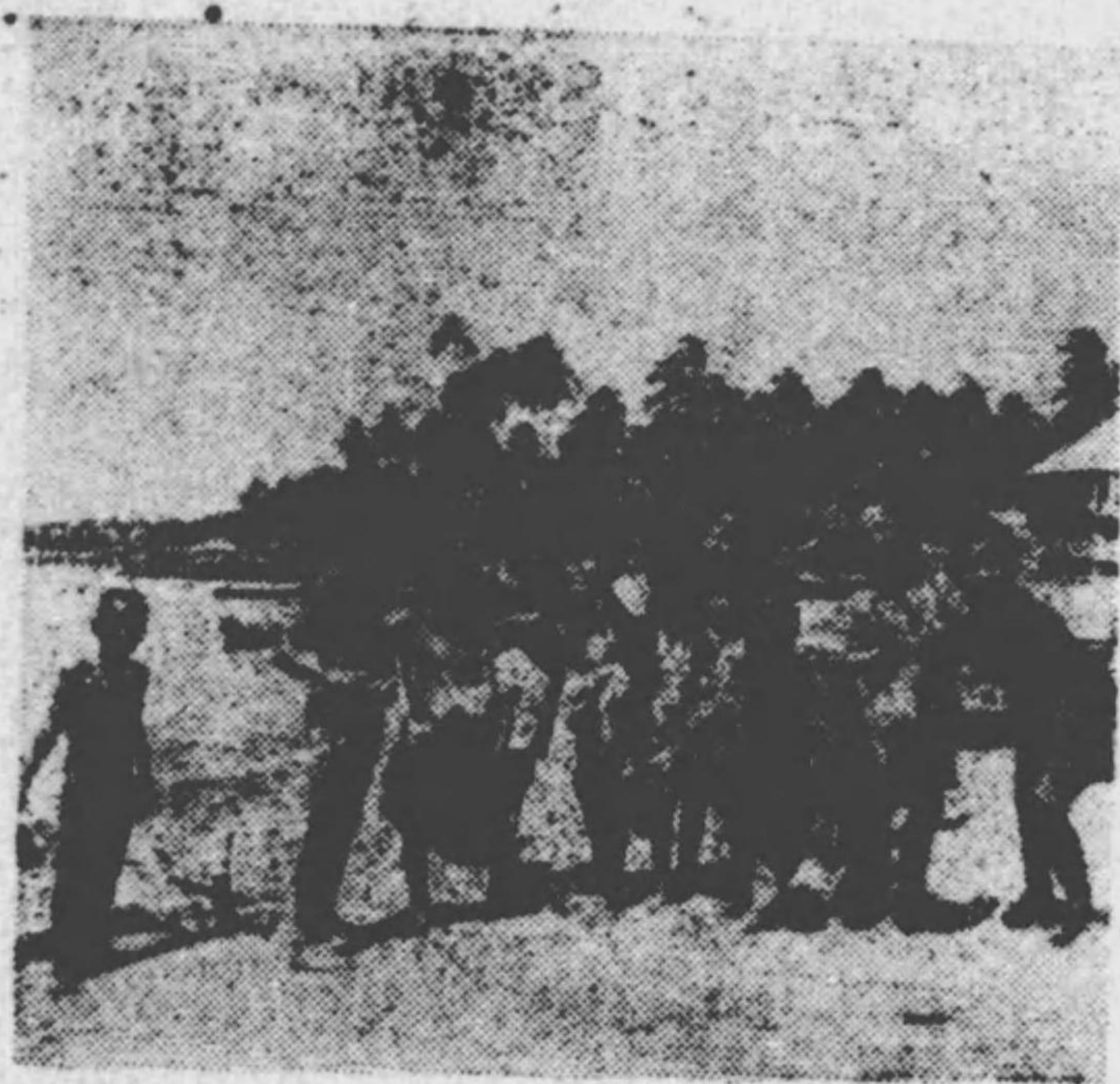
に、チュカイに行くので、ケママンに着くとガツカリして了つたと聞く。クマセの西垣夫人が一昨年日本から歸つて来た時シンガポールの東洋ホテルでお目にかかつたが、シンガポールからクマセ迄は沿岸航路のイギリス船であつた。日鑛のツングン鑛山行の人々は何れも一週二回の急行列車を待つて東部線でコタバルに出て、それから自動車で南下するのである。鑛山から日本へ歸へる人々は出國手續等の關係もあつてこの道順を逆してシンガポールに出たのであるが、シンガポール迄の往復と船待ちで無駄に空費する日時が餘り澤山なので、最近では便法を願出て出國手續をシンガポールの事務所豫め代行させて、本人はスラ沖から鑛石積取船に乗ると言ふ。

○クワンタンよりペカンまで

クワンタンからゼランツウに至る道路を八哩許り西行して左に折れ更に二十二哩南下するとペカンに達する。舗装のない相當な悪路である。ペカンはパハン河の河口にあつてパハン王の居るところである。渡船でパハン河を渡り道路は更に南方に二十哩許り延びてゐるが、テラがパハンで終つてゐる。そこからジョホール州のエンドウまでは道路がない。強いて行くには海岸の

砂浜を歩くか自轉車で行けば行けるのだ。

○エンドウより南



(供子の人—レマため集に濱砂)口河ウドンエ
(影撮者著)

エンドウはエンドウ河の河口にあつて小さな漁村である。附近に飯塚鐵鑛山がある。ジョホール州東海岸の最北端でイギリス側としてはその南二十三哩にあるメルシンと共に最重要な軍事要點であるらしい。イギリス人の考へでは、日本軍の馬來上陸作戦は、必ずや東海岸から行ひ、シンガポールから餘り遠くない所を選ぶだらうと思つたらしい。いろ／＼考へて研究してみると、どうしてもジョホール州の東海岸である。こゝを防備さへすればよろしいとして、軍用道路を設けて、いざ日本軍來ると言つた時は

シンガポールから援軍を急送出来るやうにといろ／＼準備したらしい。海には一面に機雷を布設したらしい。メルシンの西方五十哩のクルアンには有力な空軍基地も作つた。ところがいざ鎌倉となつて見れば、日本軍はもうコタバルに上陸したと言ふ。こんな筈ではなかつたと思つてもそれはあとの祭と申すものである。結局いろ／＼と準備した事も、大してイギリス側に役立たない中に日本軍は東西に分れて半島を怒濤の如く南下して來た。あの機雷も無駄であつた。あの鐵條網も日本軍を防ぎ得なかつた。せめては道路を破壊して退却しやうと、それをしたに過ぎぬ。そんな事が果して精銳無比な日本軍の進撃をどれだけ阻止し滯滞せしめ得るかなど考へる餘裕など毛頭もなかつた。その周章狼狽の退却振りには富士川の平家の水島に驚きし退却にも似て、永く戦史に醜名を残すこととなつた。

○東海岸南下の皇軍の進撃振り

東海岸の各地の旅行記を終結するに當つてこの道を南下したのであろう皇軍將士の勇戦の模様を記して、その勞苦を偲びたいと思ふ。マレー前線の同盟特派員の報告を拜借すれば「去る八日マ



部一の町ギソイテタコ

(影撮者著) (し多國ムゴ人本日近附)

レー東北岸コタバルに敵前上陸して以來ケランタン河流域に獨立第八旅に屬する一萬五千の印度兵を撃破しつゝ一路南進し、去る十九日コーラ・クライを占領、餘勢を驅つてマレー半島の背柱山脈を越え、一氣に東岸防衛軍の後方を脅かして反轉こゝに〇〇部隊は完全に覆面をとり東南方に進撃を開始し眼前に聳ゆる峨々たる山嶮を攀ちて雲上行軍を行ひ或は濛濛とスコールに煙る溪谷を渡り、更にトレンガヌ州に入つては大樹海の道なき道に進入、生ひ繁る熱帯樹の枝を拂ひ猛獸の咆哮を聞き、晝夜なき前進を續けること十日皇軍精銳にして初めてなし得る難行軍の末、遂にバハン州境を突破クワンタン前面に驀進した。クワンタン防備軍約二千は北方シヤグル地帯の自然の要塞に據つて、わが精銳のシヤグル地帯進攻を夢にも描かず、海岸線のわが敵前上陸をひたすらに警戒、戦々恟々として、水平線にわが船團の出現する日を待つてゐたのであるが、卅日深更わが覆面部隊は敵

の背面より不意を衝いて決意の夜襲をかけ、更に卅一日黎明の攻撃を決行、狼狽なす處を知らぬ敵軍はわが空陸相呼應する猛攻に忽ち混亂に陥り逃げ場を失つて死物狂ひの反撃に轉じたが、見る／＼うちに敵装甲車輛を四十擱坐せしめた。斯くて覆面部隊十日間の難行動は遂に酬ひられて東岸最大の標點をこゝに完全に占領し、西岸進撃部隊と相呼應する南部マレー攻撃態勢確立の赫赫たる戦果を樹立したのであつた。他の特派員はクワンタン占領を次の様にも記してゐる。「卅日夜主力はチチリーの正面から夜襲を敢行した、二百の敵は周章狼狽忽ち殲滅された。ただ装甲車のみは快速を恃んで逸早く逃走を企てた。行手にわが迂回部隊の待つとも知らず一本道を驀進して來た。とたんに兩側の頭上から兩霰と降る手榴彈に前五輛は忽ち殲滅、この奇襲に歡聲をあげたわが部隊はクワンタン目指して進撃をつゞけた。卅一日遂にクワンタンの一角に突入市内を掃蕩してから更に一部は同地南方を流れるクワンタン河の線に進出、直ちに轉出の準備についた。明ければ紀元二千六百二年の元旦である。正月を祝ふ間もなくその夜クワンタンから引揚げ西北方四キロの地點に銚を休めた。そこはクワンタン飛行場西方十キロの地點で、二日は周到な偵察に過し、三日夕刻から再び行動を起し、一部はガントンに進出、主力は他方からまたしても得意の

夜襲を敢行して同日ゴウゼウに突入完全にこれを占領した。敵の遺棄死體二百、捕虜三百、鹵獲自動車五十、クワンタン攻撃の戦闘は廿七日以來三日まで元旦と二日を除いてあとはすべて夜襲戦で殆んど彈藥を使はずに占領したのである。これは後方に自動車を残して補給が出来なかつたためである。ベンコ河からクワンタン南方四キロに達する廿數キロの海岸線にはわが部隊の上陸に備へて嚴重な防禦線が敷かれてゐることが判つたが、その陣地は先ず海中に鐵條網を張り波打ち際に地雷仕掛けの糸を張り廻らし、廿米位隔てて二線の鐵條網と地雷を敷き、その兩側にはトーチカを、更に五十米後方に鐵條網を張り繞らすと言ふ實に丁寧すぎるほどの堅固なものであつた(シンガポール島のもはこれより更に嚴重なものである)その方面の敵兵力は約三千、十二榴重砲廿四門を有してゐたが牽引車を有し逸早く全部退却した。わが戦果は遺棄死體五百、捕虜五百、自動車五十臺、重爆撃砲三、輕砲撃砲一、對戰車砲二、機銃輕機十七、自動小銃十、小銃卅四、裝甲輕車五であつた。

○邦人献身の作戰協力

一月廿五日前線、同盟特派員の報道に依れば

トレンガヌ州に決死的に残留した邦人の東岸進撃部隊への協力は我が進撃に絶大な便宜を與へ、その貢獻振りは皇軍をして感激せしめてゐる。

當時トレンガヌ州に残留した邦人は日本鑛業株式会社社員初め三十餘名であつた。これ等の邦人は皇軍がコタバル上陸と共に馳せ参じ情報蒐集、部隊への協力、道案内等に當つたのである。

中にもコタバルに二十餘年活躍してゐた早川龜雄氏は宣撫に協力各地の治安回復に努めた。また日本鑛業株式会社小畑支店長は自らマレー人に扮し我が斥候の案内役を受けジャングル内を苦心して將兵を導き遂にケママンにおいて負傷、また山尾社員はトレンガヌで船を騙り集めケママン間の輸送に敵潜水艦、飛行機の攻撃下を決死的に協力クワンタン進攻を有利に導いたのであつた。

これ等はコタバルの激戦に續くいばらの道を進んだ東岸進撃部隊に取つて得難き助力であり、その功績は輝かしいものがある。

私は東海岸旅行の時早川さんにも小畑さんにも、いろいろお世話になつた。日本の既得權益を護るため最後まで敵地に残留し、皇軍上陸すと聞くや、直ちに馳せ参じて、或は宣撫に、或は道案内に挺身、粉骨砕心、皇軍の作戰に協力された事は銃後一億國民として感謝感激措く能はざるも

のがある。小畑さんがあの端麗な相貌をどうしてマレー人に扮されたか——尤もマレー人は日本人によく似てはゐるが——日鏡の元山町に日本人社員の護身用にと警察諒解の下に秘藏されてゐたと聞く鐵砲を持つて残留社員は警戒しながらコタバルに行かれた事であらう。勇敢な日本人小畑所長の下、残留社員は一騎當千の健氣な勇士許りであつただろう。それにしてもケママンで負傷されたとある。輕傷ならんことを祈つて止まない。一日も速に全快して、再び大日本帝國のため、大東亞共榮圈のため、諸君の御奮闘を期待してやまないものがある。

皇軍奮戦の跡を訪ねて（西海岸旅行記）

○アロー・スター及びその附近

サルタンは親日家

ケダー州はマレー非聯邦州で土着人のサルタンが統治してゐる。現サルタンは親日でその政府の高官連中も親日家が多い。アロー・スターは當州の首府で人口八千位、そのうち華僑は八割で残り二割が馬來人である。インド人は極く少い。日本人は十六名で雜貨商、寫眞業、齒科醫、理髮業等を營んでゐる。更にケダー州の他の地方に十五名位、主として雜貨商をしてゐる。日本人會は州全體を一纏めにしてアロー・スターにある。在南四十年長老で雜貨商の椎葉さんと在南三十年で齒醫者さんの飛石さん、この二人がスクラム組んで會長副會長を交互にやつて、日本人此所に在りの意氣を示してゐる。飛石さんの如きは面白い位話の持主で、ゆつくりと齒醫者さんになつた動機やその修業振り、トレンガヌのサルタンの知己である話等を聞くと、俺も一旗擧げ度いな

アと思ふ位である。在住邦人はみんなさうであるが、この二人は特にサルタンや高官連中と親交があり、萬事うまく往つてゐる。日本人會で營んでゐる墓地も出來て自慢してゐられたが、土地を選定して、入手する迄の苦勞と努力は充分買はねばならぬ。幾柱かの墓碑のあるのに參拜した。政府關係のイギリス人は理事官以下三十五名ゐる。總理大臣は土着住民であるが警察署長と裁判所長はイギリス人である。しかし馬來人の裁判にはイギリス人を關與させない様にしてあるとのことである。町は相當立派なものである。ケダー州の主要産物は米と護謨で、米は灌水の關係で一毛作、灌溉排水の便を設くれば二毛作は容易である。州の財政は相當よいと見えて道路は大變立派である。町の北郊に一寸した建物があるので何かと飛石さんに尋ねたら、これが三年ほど前に出來た義勇兵の兵舎ですよ、丁度出來た時だ。馬來人の知つてゐるのがやつて來て立派な兵舎が出來たが、これでも日本の爆撃で毀れるか？ と、訊ねられましたね、おかしくもあるがその無智振りも憐れになつて一寸からかう氣になつて、日本の爆撃なら一發で跡形もなく吹き飛んで了ふよ。と、言つてやつたら、その馬來人は眼を丸くしてたまげてゐましたよと言ふ。この程度の知識しか持つてゐないのだ。ケダー州の馬來人は泰國境から南下した皇軍のイギリス軍を蹴

散らす猛撃に、さぞ天地の引つくり返へる思ひがした事であらう。アロー・スターは附近に飛行場があつて、それが國際航空路の不時着場として設備されてあつたので、その點で相當有名であつた。

○バター・ウオース

ウエルスリー州は、すぐ前面のペナン島と共に海峡植民地に編入されてゐて、マレー總督の直轄植民地である。バター・ウオースはペナンのすぐ前にある町で、ペナン行の浮船はこゝから出る。ペナン水道は一番狭いところで三湮位であるが渡船は斜めに、丁度關門の渡船が斜めに往く様に進むのでその舟航の長さは五湮もある。大型渡船二隻あつて毎三十分に出る。お客も積むし自動車も積む。料金はいくらだつたか忘れた（私は旅行の時いろ／＼の見聞したことを手帳に筆記してあつたのだが、シンガポールで乗船の時イギリス官憲に全部沒收された。その點で細かい數字などの正確な材料がない。残念であるが御宥恕に與り度い）

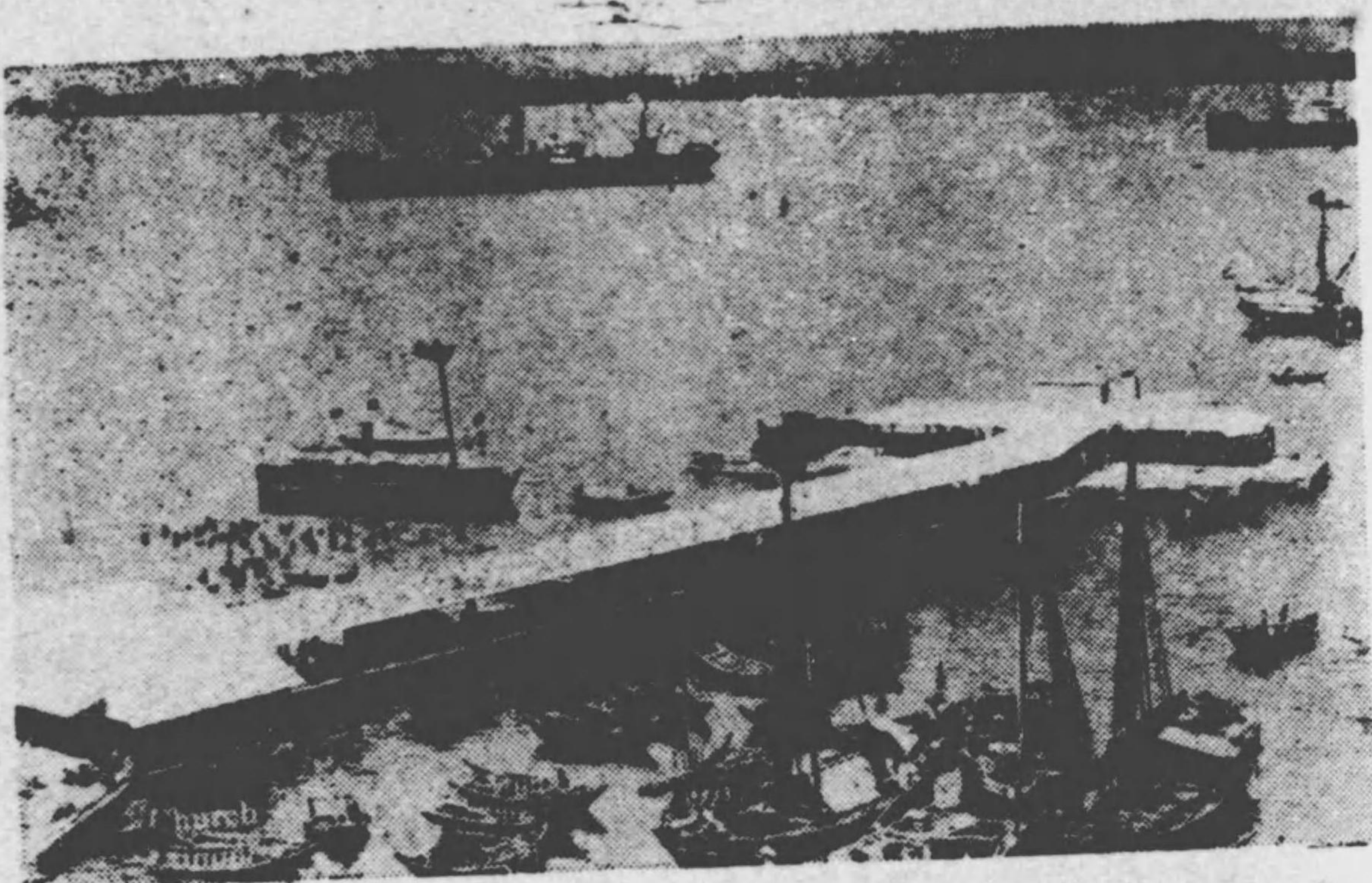
マレー聯邦鐵道の連絡船は、この渡船よりも少し南方にある。半島側ではプライが鐵道の終點

(縦貫鐵道西部線の分岐したもので、そこから連絡船が出る。ペナンでも鐵道専用の橋がある。その橋の入口が即ちペナン停車場の入口である。)

○ペナン島とジョージ・タウン

極樂寺と蛇寺のこと

イギリスがマレーに手をかける前にこの島を手に入れて、それを基地としてマレーに伸びた。丁度支那を狙つて先づ香港を手に入れたのと似てゐる。この島はマラッカ海峡の北部に位して如何にも交通上軍事上の要地と見える。旅行者としてこの島を訪れた者にはその風光の明媚なことが、いつ迄たつても忘れられない。總督の別荘もあり、その他イギリス人が半島の炎暑を避けて浩然の氣を養ふためにいろいろの施設をして週末に飛行機で家族を伴つてやつて來るのも此の島である。クラブホテルの設備は完備してゐるし、その食堂からの眺めは特によくペナン島の東半分は手にとるやうだ。ジョージタウンは足下にある。半島は左はアロー・スターの方から右はセランゴール州の方まで一望の中にある。斷雲の間に見える高い山は中央山脈である。今はこゝにも日章旗が翻つてゐるかと思ふと涙が出るほどうれしい。



(るえ見が脈山中央にか遙で島半は岸對) 橋棧道鐵ソナベ

ジョージ・タウンは人口十七萬三千、その七割は華僑で、インド人は割合に多く全島に四萬位、マレー人は三萬位、歐洲人は三千と言つたところである。新生支那の汪主席夫人のお里はこゝに在る。日本人は百六十名位で雜貨商、寫眞業、齒科醫、旅館、藥房その他いろいろの仕事に従事してゐる。支那事變後の華僑の排日貨は相當猛烈で今次皇軍の入城直前までは相變らず邦商と取引をしない有様であつた。邦人も度々の排日貨に悩まされつつも東亞新秩序完成後の共榮を唯一の希望として商權維持に奮闘してゐたのである。日本人會長稻置さんの統制の下に桂木さんあり山田さんありその他皆さんは一

致團結してよく堪えられ、よく忍ばれた。山田さんなど朝日ホテルの経営だけでは、宿り客が一週に一人あるかなしで如何にもこれぢや喰べて行けないとあつて、タイピンに雜貨商を出して奥さんがそれをやる、山田さんはホテルをやりながらタイピンの方も見廻はると言つた調子で、それ文でも大分苦しかつたらしい。郵船會社の食糧納めをやつたり國際汽船の代理店をやつて、しかもホテルが大繁昌だつた當時の事を思ふと今昔の感に堪えぬものがあつたに違ひない。たゞ明朗な性格だけに、しかも日本人であつた許りであれだけの辛棒が出来たのだと思ふ。皇軍の占領でクラグホテルの経営でもしてお國のために更に／＼奮闘されてゐることを信ずる。私ももう一度往き度い。さうして山田さん許りではない、ペナンの舊知の方々と手を握りあつて話し度い、泣き度い、喜びたいと思ふ。ペナンの名所であり、一面世界の名所でもある蛇寺や極樂寺を見物しながら、いろ／＼語り合つたのも想へば昨日の様である。私達はこれが日本のためだと思へば最後まで、どんなことがあつても頑張ります。しかし考へて見て下さい。トーチカが毎日の様に數を増す、兵舎も出来る、砲臺も出来る。イギリス兵が印度兵がやつて来て日本が敵だと言ふそんな空氣の中で商賣もなく、居喰ひしてゐる事はどんなに辛いか、一日も早く何んとかして貰

ひ度いと言はれた皆さんの顔があり／＼と見える。事實私はペナンを見物して今頭に残つてゐるのは斯うしたお話と皆さんの顔と蛇寺の青びかりする蛇と極樂寺のいやになるほど長かつた石段だけだ。更にと言へばケーブルカーとクラグホテルの眺望だけだ。大東亞の運命は來るところまで來た。あの苦しみはこの百年待望の共榮圈を作り出すための陣痛だつたのだ。私の記憶を繰つて見てもペナンだけではない。半島到るところの邦人に接しこの眼この耳で見聞したことは皆一つに歸する。イギリス官憲特にジャラン・パス關係で到るところ面刺であり不愉快だつた事も實際胸糞が悪い位である。しかしそれも陣痛の一瞬だつたのだ。今となつてはこれ等の不愉快なこととは一切忘れやう。そしてアジア十億の民のために、理想の共榮圈建設のために、肉弾以つて人類の敵たるイギリス人驅逐に當つてゐられる皇軍に協力してお國のために盡さう。ペナンの景色を賞するのもそれから後としよう。私達の理想が實現される事は今では夢ではないのだ。架空ではないのだ。既にその緒に就いてゐるのだ。だからこれが達成される迄に蛇寺の蛇も死に絶えずすまい。ペナン丘の樹々の緑も枯れはすまい。美しい花は四季を咲きつゞけるだらう。小鳥の美しい囀りも何にかにも物の憐れを解さぬイギリス人の治下にあつた時よりも、皇化に浴して一層

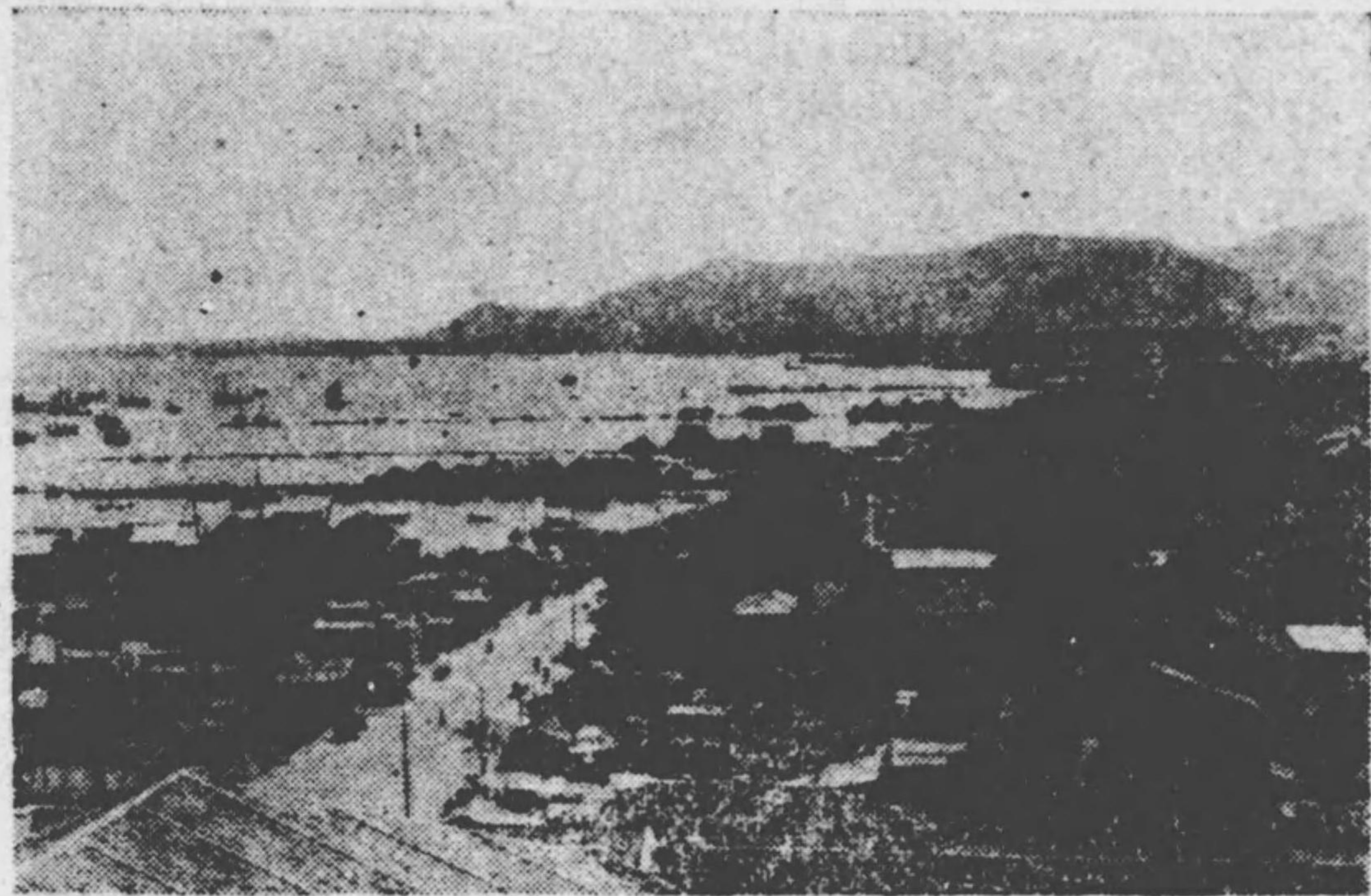
空は澄み、花は美を増し、鳥は楽しみ囀ることであらう。それからゆつくりと私達は丘に登り汀に遊んで此島を見物する事にしやう。

皇軍の爆撃機に同乗して、アジア解放戦の一日、ペナンを上空から見物した特派員の記事を拾つて見やう。「皇軍航空部隊の大編隊は見渡す限りのジャングルの大樹海を越えてマレー西海岸沿ひに南下した。國境線を越えるや遅しい友軍の進撃の姿が蜿蜒として續いてゐる。開戦に當つてイギリス軍が橋梁といふ橋梁を破壊したので進撃は容易ではないらしい。赤道下の炎熱下、一本の鐵道線路を除いて地平を蔽ひ包んだ魔のジャングルを征服しつゝ大東亞戦争の聖なる歩武を進める皇軍の勇姿こそ威激の涙なくては見られぬ。脚下の白浪が岸を嘯む海岸沿ひに南下した爆撃隊は飛翔〇〇時間、目指すペナン港に進入した。見れば港狭しと敵大船團が犇めき合つてゐるではないか、豫期しなかつたこの大好餌を發見した陸鷲は狂つた様に撃ち出す敵の防空砲火を衝き得意の急降下爆撃を敢行、必中の巨弾を叩きつければ船舶と言はず地上施設、石油タンクなどから一齊に黒、赤、青色とりどりの火炎を噴き上げ、宛然お花畑のやうな華麗な景觀を描き出した。繪のやうに美しいこの情景の中で敵が如何に混亂を極めてゐることか」

○ペナン島の無血占領

老日本人忽然と現はる

ゲダー州北部に構築してあつた大防禦線ジツトラ線が皇軍の猛攻に敢なく崩壊するやペナンにあつたイギリス軍は早くも逃走して了つた。そんな事とは露しらぬ皇軍は「今度はペナンだそこには敵の誇る要塞があるから相當手強いぞ」と、言ひ乍ら一番乗りの快速部隊が南下して來ると、そこへ忽然と一人の老人が現はれて、はつきりした日本語で「ペナンのイギリス軍は逃げてしまつた。早く來て下さい」と、いつたままワツと地に泣き伏してしまつた。この夢のやうな話は張り切つた皇軍將士の度膽を抜いた。祖國遙かなこの土地で思ひがけぬ同胞と奇遇、鬼神のやうな將兵達も手を取り合つて泣き出すやら喜ぶやらであつた。この老人は蒲田實といふペナン在住數十年といふ正直銘の日本人であつた。その話によると同島には五十三名の邦人がゐたが開戦と同時に逮捕監禁され、いつ救ひ出されるか當てもなく、みんな萬一の場合の覺悟をきめてゐた。然し、イギリス軍は數日前から遽かに逃げ支度を初め交通機關や、その他の施設何一つ破壊する間も惜んで、あたふたと迎への船で印度洋に逃げてしまつた。一刻も早くこの有様を日本軍に知



ソウタヂーヨジ都首のソナベ

らせたいと敢然危地を脱してボン／＼船を買収して海を渡り、夜を日についで歩き通し漸くここに辿りついたといふ。かくしてペナン島要塞は一兵をも損せずして皇軍の手に歸した。そして監禁中の邦人は全く思ひもかけぬ皇軍に救ひ出され、涙にかきくれたのであつた。

○バター・ウオースから

タイピンまで

時速百廿軒のドライブ

自動車にて途中の風物を見ながら出掛ける。二哩許り行くとフライ河に出る。こゝの橋は長さ百五十米もあり幅はせい／＼二間位の筏橋である。「時速五哩以下」との制札を掲げてある。

この河口左岸にプライ停車場があるわけで、河は相當うね／＼してゐる。兩岸は濕地のやうであつた事から想ふと皇軍も渡るに苦心したのではあるまいか、バター・ウオースからタイピンまで五十七哩、道路は曲り少く舗装完備して良好である。十哩以上も一直線のところがある。自動車は知らぬ間に速力を出して時速百二十キロも出してゐる。驚いて運転手に注意すると、ニタリと笑つただけで一向速力を落そうともせぬ。ままよ、車に乗れば運転手任せと度胸きめて、なる可く遠くの方を見てゐる。道路でも見やうものならその快速振りにヒヤツとする。

道の兩側には水田多く、處々にゴム園あり、椰子の樹も多く、馬來人の小村點々す。タイピンにあと十哩位から密林に蔽はれた山間に入り、さほど高しとも思はぬ峠を越すとまた道は坦々たる直線にて左右にゴム、椰子、水田を見る。

ビルマ道路（ラングーンから重慶に通ずるもの）の軍事輸送に使ふ貨物自動車の運ちゃんはこの附近の華僑が多いといふ。それらの運ちゃんや月の月給や手當はみんな出身地の華僑籌賑會で受持つてゐる。蔣介石としては南洋華僑にトラックを寄附しろ、運転手も出せと言つてゐる譯で全く蟲のよい話であるが、蔣介石を神様か何かの様に思つてゐるこの邊の華僑にして見ればお安い御

用と言つた譯で、大いに祖國のために働いた心算になつてゐるのだ。出かけて行つた運ちゃんも何千といふ大量ださうだが歸つて來る連中も多い。病氣で歸へるのもあれば、山崩れくで惡路の運轉に愛想をつかして歸へる者もある。日本軍の爆撃に恐れをなして歸へるものもある。しかし不思議なことに歸來した連中はどれもこれも異口同音に、日本軍はお話にならぬ程弱い。それに反して中華軍は強いといつて盛んに宣傳する。歸へる前に蔣さんに何か吹き込まれたせいかといへば、さに非ずで萬一眞實のことを言つて日本軍が強いとでも漏らさうなものなら月給は貰へぬ許るか死ぬ様なヒドイ目に遇はされるからだと言ふ。

皇軍がこの邊を、イギリス軍を壓倒して猛進したのを見て、始めてその強さを知つた事だらう。こんな連中は皇軍の強さが判り、皇軍に制壓されて、もう仕方ないと思ふと案外親日(?)に豹變するのが早いものだ。今頃は一生懸命日の丸の旗を振つて轉向振りを示してゐるだらう。この邊を旅行して聞かされる事は、あまり遠くもない頃のことだが、この邊に馬賊が澤山居つて旅行者が心ず襲はれた話だ。箱根山の雲助程度ではなく、頭目の下に集團をなして鐵砲や、ピストル位は持つてゐたらしい。狙つた獲物が近寄ると、自動車をパンクさせて、それからズドンとやつ

て強奪するといふ。もう最近ではゐないといふが、丁度此邊が一番被害が多かつたと聞いた時はあんまりよい氣持もしなかつた。それ程眺え向きの淋しいところが處々にある。

○タイピン(太平)

火の消えた紅燈街



密林の中の道を歩く

海拔二百六十呎にて稍々涼しく氣候よし。ペラ州の理事官の所在地であるが、イポーの町が完成したら理事官始め政府機關はそちらに移るといふ、多分現在では移轉を完了したのではあるまいか。人口四萬、そのうち九割は華僑である。日本人五十名足らず雜貨商、齒科醫、寫眞屋、藥店、コーヒ店、ゴム栽培業等を營む。天草娘子軍の盛んな頃はこゝも大變だつたといふその殘黨といつては如何かと思ふが、それらしいのがそれらしい商賣をしてゐる。

戦前にはパンチャップ聯隊の印度兵が駐屯してゐたが彼等は町に出ては一仙の無駄費ひをせぬので、紅燈街は火の消えたやうに淋しかった。林泉の配置日本式の公園がある。また相當立派な博物館もあつて馬來人の昔の武器や織物が蒐集されてゐる。これは半島中何處へ行つても見られぬ品物である。私の行つた頃は一般に公開を禁止してゐた。イギリス人が天下の形勢のただならぬに何か感じて公開禁止した事であらうが、そんな事は大河の流を堰止める役には立たぬものである。タイピン飛行場は町の西方二哩のアサム・コンパンに在る。

○タイピンからイポー（一保）まで

ペラー王も親日家だ

イポーはタイピンの南東三十哩位にあるのだが、道路は東に走りコーラ・カンサから北にさへも走つてそれから南下するので道路上では五十二哩もある。タイピンから二十一哩でコーラ・カンサの町に入る。戸數にして百戸位か、日本人の商家三あり雜貨商と寫眞業と藥房であつた。二年程前に火事があつて寫眞屋さんが焼けたと聞いた。昔の首都で今でもサルタンの住居がある。回教寺院式の圓塔型の屋根のある立派な王城で私達は入口まで行つて、サインブックに御領下通過

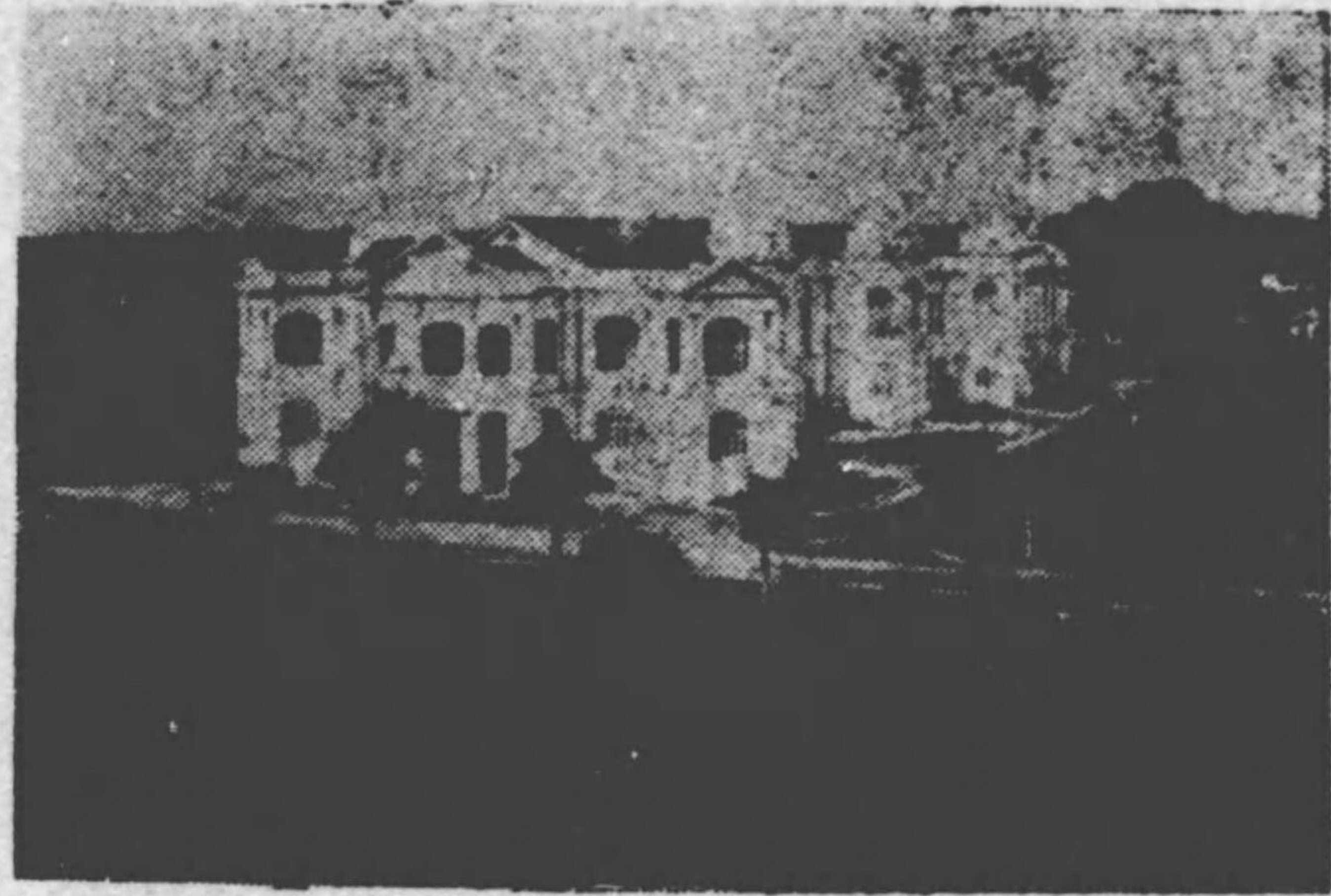
の敬意を表する記帳をして來た。こゝの現王はまだお若い元氣な青年だがイギリス軍の退却のときジャングル中に逃れてゐて、皇軍が進撃するや眞先きに出て來て協力を申出て來た。

畏れ多い話であるが先年秩父の宮様が歐洲にお出でになる時、シンガポールにお立寄りなされた時のお寫眞が新聞に出た。それをペラーの現王が見て自分が宮様にどこか似たところがあると言つて、その喜び方は大變だつたといふ。日本人の寫眞屋の店頭に飾つてあつた寫眞を見て成程と思つた。その前からも親日であつたのだらうが、この時から一層親日に拍車をかけたやうに見受けられたとのことである。コーラ・カンサはペラー河の右岸にある河に沿つた町である。

町を抜けるとすぐペラー河で、この河は馬來としてはバハン河に次ぐ大河だから、この邊でも相當な河幅である。長さ二百五十米もあらうかと思はれるコンクリートの立派な橋が最近出來上つてゐる。珍らしい事に通行料を取つてゐた。自動車一臺で片道三十仙だ、車に乗つてゐる人は別に取らない。従つて人が歩いて渡る時には一人當りいくら取るのか聞き漏した。道路の兩側には處々にゴム園がある。その他は名も知れない雜木が生えてゐる。割合に廣濶でイポーに近付くと錫山が澤山にある。

○イポー及びその附近

日蓮宗温泉寺の由來



イポーに新築された政廳

錫山の中心地で町は廣くもあり建物も立派であるが、矢張りどことなしに新興らしくて争へぬものが残つてゐる。タイピンに現存する役所もここへ移轉さすとのことで、目下盛んに役所を新築してゐた。所謂官廳區域を作つて地所も思ふまゝに廣く取り、青い芝草に美しい花など植ゑてその整備に大童であつた。裁判所の如きは既に移轉を完了してゐた。

停車場のすぐ前にかうした立派な建物がある。停車場の二階だつたか三階だつたかが、鐵道ホテルで私もそこに一泊したが一寸氣のきいたホテルであつた。たゞこの地はずつと排日の熾烈な所で、今でも馬來第一の排日熱がある。ホテルの食堂で夕食を攝らうとしてテーブルに

附いたのだが、イポーがウロ／＼するほど居るのに一人としてやつて來ない。ジロ／＼と私の顔を見る許りだ。手を擧げて呼ぶと誰かやつて來る。メニューを示して料理を注文するとそれは無いといふ。ぢやその次だといふとそれもないといふ。一體料理があるのか無いのか喰はずのか喰はさぬのかと聞き直さざるを得ない。すると老人のイポー頭がやつて來てメニューにある料理なら何んでも出來ますといふ。至極當り前の話なのだがそれ見ろといふ氣になつて注文をした。今思ひ出しても何んとなしに割切れぬものがある。それもその筈でイポーは全部支那人であつた。これでも一時よりは餘程よくなつたのですよ、と日本人會長の下山さんが説明して呉れる。成程これぢや排日の猛烈であつた時分はどんなだつたらうかと想像される。この邊の支那人には海南島人が多く皇軍が海南島を占領してからの空氣の悪さは餘程ひどかつたらしい。日本人は市内に七十名位あり、市外を合して日本人會の會員は百二十名位である。雜貨商、齒科醫、寫眞業、ホテル業、洗濯業、理髮業、洋服屋といったところである。齒科醫はどこへ行つても少くも兩三軒はある。中には齒科醫としての専門の教育を受けたものもあるやうだが大體は獨學でいつの間にか腕に自信をつけて(?)その道に進出したものらしい。お客は金の入齒の好きな支那人や馬

來人がうよくしてゐるので、門前列をなすといふと少し大袈裟かも知れないが、兎に角客の無
い心配はない。従つて儲けもよいらしい。齒科醫で大金持になつたといふ話も聞かないが、その
代りどこへ行つても喰ひはぐれはなく、呑氣に小金は貯まるとみえる。尤も支那人の排日の時は
相當に痛手を蒙るらしいが、それも一時的の事であるからさう／＼心配する必要もない。この邊
の話はアロー・スターの飛石さんにも聞くとザツクバラに物語つて呉れる事と思ふ。しかし
以前は免狀なしで出來たといふ齒科醫も最近は免狀を必要とするやうになつた。

皇軍が占領してからはどうなるか、お客である支那人や馬來人の金の入齒の好きなことは、今
も昔も變りなくイギリス人の搾取がなくなつて、皇化洽く生活が樂になればなるほど金の入齒に
浮身をやつすかも知れないが、お上の取締は日本式に強化されることは請合へる。だからこれか
らの齒科醫を志す人は先づ正式の教育を受け免狀を持つてゐる事が、何んとしても先決要件だ。

この邊の町の貸家は殆んど家主が華僑である。だから、排日のひどい時は店子の追出しをや
る。追出すといつてもすぐは出ないから先づ家賃を上げる。それも五弗あげるとか十弗上げる程
度のなまやさしいものではなく、一度に倍にすると言つた調子である。それも家主からの一方的強

制通達である。いやなら出ると來る。それや不當だといつて頑張つたら大勢仲間を連れて來て、
それこそ追ひ立てる。大勢に小勢で、泣く兒と地頭ならぬ家主には勝てぬといつた鹽梅である。
華僑の態度は老人がまだよい。青年は特に悪く不穩な事もやりかねない。しかし青年よりも少年
が更に悪い。華僑學校の教育が、所謂排日教育だからで、教室で教はつて來た事を學校の歸へり
がけにすぐ實行する。日本人の子供いぢめをやる。窓に投石する。落書をする。その少し長じ
たのがホテルのボーイのあの態度である。イギリス人は見ても知らん顔してゐる。或場合にはむ
しろ裏で排日を勧めてゐるといつた方がよい位である。

イボ一の飛行場は市の南方三哩位にある。シンガポールから毎日定期航空便がある。地盤は砂
地であんまりよくなく、それに狭くもあつて大したものではない。皇軍の爆撃でひとたまりもな
く吹き飛んだ事であらう。日本人會で營んでゐる日本人墓地は土地の割合にお墓が澤山あつた。
一番多いのは矢張り無縁の婦人の墓である。イボ一の繁昌、それは錫の繁昌である。直接錫事業
に關係のない日本人の、こゝでの繁昌があつたとすれば、錫への間接の關係によつてである。昔
は天草娘によつて、今は齒科醫とホテル業によつて。

イボ一の東八哩位の郊外にタンブンといふところがある。峨々たる山が聳立してゐる。それは鐘乳洞のあるので有名で、蟻が塔を築いたのに似せてその洞を利用して形面白い支那式のお寺がある。何處から上つて行くとあんなところに行けるのかと思ふやうな高いところに忽然と朱塗の欄干が現出してゐて一寸珍しく面白い。そんな鐘乳洞の一つに日蓮宗の温泉寺といふのがある。

今の住職は須賀さんといふ坊さんで第二回目である。初代の名は忘れたが偉い坊さんでこゝを開山したと聞く。そこにはどうした加減でか洞の根元から温泉が湧く、以前は湧き出すに任せて放つてあつた。イボ一の日本人が時々散歩しては入浴に行つたものらしい。その當時は支那人や馬來人など振り向きもしなかつた。それを初代の坊さんが、板圍ひをして一寸した體裁を整へ、病氣にきくと宣傳したのが當つて入浴客が日増に殖えた。一回の入浴料として十仙を徴収して、それを寺の維持費に當てる事にした。これが温泉寺の始まりである。お寺は温泉のすぐ上に洞窟内に建られてあつて晝尙暗い。蝙蝠が澤山巢喰つてゐて、その糞がそこらに散亂してゐる。その中を馴れない私達は手にローソクを持つて危なかしい足付で、おそる／＼階段を登つて行くのである。須賀さんは馴れてゐるのでどん／＼先きに立つて案内する。本堂ともいふべき處を通り抜

けると六疊敷き位の廣さの座敷がある。そこを左に曲つて明りのさす方へ行くとバルコニーともいふべきところに出る。岩窟の割目を利用して作つたもので四疊敷きもあらうか、すぐ頭の上には榕樹のやうな大樹が枝を垂れてゐる。脚下十米には温泉の湧き出る池がある。岩山の肌を浸み出る涼氣がゾク／＼と感じられて、炎天下百三十度の日中でもここ許りは別天地である。この應接間の岩には内地の名所古刹で見られるやうに訪問者が勝手／＼に署名してある。内地のそれと稍々異なるのは日本人よりも支那人、馬來人、印度人等國違ひの人々の署名の多いことである。

數年前、須賀さんが内地で奥さんを貰はれて始めてこの地へ同伴された時に、奥さんは吃驚されて、どうしてもこの岩窟内に同居されることを承知しなかつたとか、それ程に蝙蝠が多く、それ程に涼氣身に浸みて寧ろ鬼氣迫る思ひがするのである。今ではお子さんもあり、奥さんはシンガポール日本人小學校に職を奉じてゐた。また温泉の儲けのよいに目を附けた支那人がお寺のすぐ横下に別の洞窟を穿つて温泉を引さ込んで別の入浴場を作つてゐる。支那人式のチャッカリしたやり方には驚く。その側に一寸した茶店がある。これは須賀さんの了解の下に出來たもので、いはば須賀さんの輩下であるらしい。實直な支那人とかで須賀さんは月のよい晩など、この茶店

のおやちに温泉客の入浴料取立てを頼んでおいてイボアの町まで磐若湯を求めに行くらしい。

どうせ支那人の事だから、少しはクスねるかも知れないが、これで安心して行けるとは氣のよい坊さんである。近々に錫の採取場のあるのもイボアらしい。馬來に皇軍が進撃して治安が回復し皇化洽く行き渡つた頃ともなれば、この温泉寺は日蓮宗馬來總本山となる事は必定であり、それこそ初代開基の願望であると共に二代須賀さんの宿望でもある。温泉は日本人の浴客で賑ひその上りで寺を維持するのも誠に面白い事といはねばならぬ。國違ひ人の考へは別として日本人としてはイボアに於ける名所として忘れることが出来ぬ。須賀さんの御健闘を祈る。

○イボアからタバア(打吧)まで

殆んど南下の一路、距離にして三十六哩。右は遠くベラー河を、左は近く中央山脈を控へその間を坦々として南に走る。イボアを離れるとすぐ一面の錫産地である。この邊の錫は山からでなく平地からとれる。砂地に見上ぐる許りの高い櫓を組んで野天掘したのをそこで水洗してゐるのや、ドレツチを使つて新式の採鑛をしてゐるのなど遠く或は近く道路の兩側に眺められる。二十

哩ほど南下するとカンパーといふ一寸した町がある。住民は全部支那人といつてよく、その中に一軒の日本人雜貨商がある。その近くにフランス人とアメリカ人の經營する大規模な錫山がある。ゴム園も時々は見かける、錫を掘つた跡だといふ廣い砂原が一面の草に蔽はれてゐるのは何んとなし物寂しい感じがする。タバアの町は戸數にして百戸足らずのものであるが、町の四周にはゴム園や錫採取場があるので、その關係者への物資の供給地となつてゐる。町の割合に商店などの多いのもそのためといふ。日本人十名で雜貨商、コーヒ店を開いてゐる。

○タバアからカメロン高原まで

カメロン高原と日本人の入植

本街道はタバアから南下してセラングール州に入るのであるが、カメロン高原の入口がこのタバアであるので、ここで道を外れて見たい。道を北東にとり密林の中を往く、十五哩のところから山にかゝり九十九折の登りに入る。カーブは驚くほどに多いが勾配は割合に少く、アスファルト舗装の立派な道である。二十九哩でリンググレイに着く。標高三千七百呎、山また山の眺めよく人家十軒ばかりの淋しいところである。

この登山道はあと十三哩も続く。一九三〇年に建設さる。高原の開拓を政府が奨励してからは開墾をして畑を作ると、そこ迄政府で道路をつけて呉れる。人家が出来るとタクシーが通ふ、バスも通ふ。一日一二回の郵便車も通ふ、その頃には道路も舗装されると言つた工合で、その點開墾もし、道も自分達でつけねばならぬのと較べると開拓も樂だし、はかどりもするといふ。

リングレーから更に九哩登ると標高四千八百呎となりタナラタの町がある。ここにはレストハウスもあり、歐人専門の學校が二つ、その他に病院、農事試験場、ホテル等がある。イギリス人の住宅や別墅が澤山ある。町は短い一本通りで一棟五軒位の煉瓦造り長屋が五つ許りある。割合に新らしくその一軒に山口さんが寫眞業を営んでゐる。家賃がベラ棒に高いといふ。山口さんの家賃も聞いたのだが失念した。しかし高いのは尤もだとも思ふ、タバーにだつて建築材料がないのでコーラ・ラムプール邊から、この山阪をトラックで運ぶのだ。従つて材料も高からうし、手間だつて高く附く譯である。たゞ驚くのはそんなにしてもこの山を開く價值があるのかといふことだ。一九三二年に出來たといふ警察署がある。十名ほどの馬來人巡査がある。私達はこゝに來ても、旅行査證を貰ひに警察へ出頭せねばならない。この邊は行政區劃で言ふとバハン州に屬す

るのだがバハン側からは一本の道路もついてゐない。だからこの警察は特にベラー州の管下に置かれてゐる。この警察のところから一哩ほど行くと歐人ホテルがあり、その傍にゴルフリンクも設けられてゐる。それから四哩ほど登つた標高にして六千呎附近に日本人の移民が七家族ほど野菜の栽培に従事してゐる。移民といつても南洋協會が斡旋して入れたもので一番の先達は竹内泰平さんといふ五十三歳位の人である。竹内さんは長野縣人で、馬來に渡つたのは明治四十四年で、その後各地を経てタバー附近でゴム栽培をやつてゐた。昭和の初め頃からカメロン高原に着眼し、弟さんの繁次さんと共に昭和七年に日本人としては最初のカメロン入りをした。

それから粒々辛苦、今日の成功を得た指導者である。見るからに素朴な典型的ともいふべき日本人農業者である。その熱心なる努力と日本人の協力が南洋協會の指導と相結んで始めて結實したものである。リングレー一泊の夜竹内さんから聞いた話である。「私はタバーにゐる時にカメロンで野菜をつくるのはよい事だらう。やり方一つでキツと成すと思つた。それで弟と二人でやつて來て始めた譯なんです。最近では支那人が澤山入り込んで來てその數ざつと二千でせう。私達の作つた野菜が遠くシンガポールの市場にまで出荷されるやうになつて一層支那人の入り込

み方が多くなりました。カメロンの気温は日中ですと最高九十度（華氏）位にもなりますが夜中は冷えて五十度位になります。野菜もいろ／＼試作しましたが仲々良い結果が得られません。只今成功してゐるのはトマトだけです。果物もよくありません。一番よろしいのは茶です。政府でも茶の生産には腰を入れて將來は馬來の全需要を満す迄生産さす豫定で、今から茶園の開拓と植付には許可制を採つてゐます。勿論イギリス人の資本が最大でボス會社の如きは一萬英反（一英反は日本の四反廿四歩）の拂下げをして貰つてジャングルを伐つて焼き拂ひすぐその跡へ茶を植ゑるのですが現在二千英反から茶を生産してゐます。苦力は二千人もゐませう。茶園の眞中に製茶工場を作つてあります。そして現在は製品をロンドンに送つてゐるのでカメロン茶の相場はロンドンで決められてゐる譯です。一封度九十仙位の卸値です、私達も茶をやらねばほんとうの意味の成功は出来ません。しかし茶をやるには大規模にしなければ駄目です。それには資本が要ります。私は只今約五十英反の茶畑を所有してゐますが日本人としては私だけです。支那人は誠にずるいものです。日本人のやるのを見てその通りやるのですから假令野菜で成功したとしてもすぐ支那人の數の多い侵入で横どりされて了ひます。トマトの作り方には一寸秘傳があるのです。

日本人同志は七家族がまるで一家族のやうに團結して苦樂を共にしてやつてゐますので、誰もその秘傳を教へません。だからいくら支那人が眞似ても、いざといふところで失敗してゐます。トマト作り文が日本人七家族を支へる唯一の綱です」と、先驅者の苦心の並々ならぬに敬服する。大東亞共榮圏が完成すれば茶はさし當つてインドネシア（元の蘭領東印度）から澤山採れるからカメロンの方はまた別の考慮を拂ふ必要があるかも知れない。しかし何れにしても竹内さんはこの主であり、この開拓には是非竹内さんの知識を土臺にする必要のある事を強調する。カメロンはその南方にあるフレザーヒルと共に馬來に於ける唯一つの高原避暑地である。爪哇には山が澤山あり、ところによつては温泉も出るので海岸の町から自動車でも二時間もドライブすれば山の避暑地に達する。この點爪哇は甚だ恵まれたところといはねばならない。しかるにマレーではそんなところは殆んどない。殊にシンガポールに居ては、週末旅行に出掛ける場所は一つもないと云つてよ。強いて求むればフレザーかカメロンであるが、遠くはあり交通不便なため片道に一日以上かかる。これでは週末旅行の範圍に入らぬ。カメロン高原に飛行場を作つて、日發の航空便で新鮮な野菜をシンガポールに送る。週末のお

客もそれで運ばうなどと考へた事もあつて六千呎の高原に飛行場の豫地定もあるにはあるが、實現されぬ内に今度の戦争となつた。

兎に角カメロンは高原避暑地である。熱帯に働く私達にとつても毎週末にはちと無理であるが月に一度とか病後の静養のために贅澤な意味でなしに、この高原によい保健地をつくつてよいのではあるまいか、輕井澤式になるのは眞平であるが、それにはよき計畫の下によき指導が要ることであらう。

カメロン道路は山にかかつてから廿八哩の間を五百萬弗で請負はせたといふ。一哩當り十八萬弗見當で甚だ高價なものについてゐる。一番もとの請負はイギリス人がやつた。その下を更に支那人に請負はす、長さ二間幅二間位の眞四角なコンクリートの小橋が山の一寸した清水の流れてゐる谷にかけられてゐるがそんな小橋一つで一萬弗も儲けたといふ。更に長さを誤間化して儲けてゐるのだといふ。その法は道路の長さを測るのを誤間化す譯でリングレー迄の十七哩の間で二哩位縮まつてゐるといふ。袖の下を使つて道路を喰ふ譯で、砂利を喰ひガスを喰ふのと同じで、何處も同じの感なきにしもあらずだが彼等はこれを常習にしてゐたのである。

○タバーからコーラ・ラムプール（吉隆坡）まで

世界戦史不朽の殲滅戦のあと

中央山脈寄りに一路南下するこの道は舗装も完備し哩程標も完備して立派である。距離にして百二十哩位、その途中に皇軍奮戦の跡たるトロラック、タンジョン・マリム其他のコーラ・ラムプール外廓陣地がある。道路の兩側見ゆる範圍に澤山の錫産地がありゴム園もまた時々には椰子の密生したところがある。道路は割合に屈曲多く、その餘りひどいところは削り取つてカーブを緩かにする普請を到るところでやつてゐる。自動車の速力を増すに必要な措置で、想へばこれも對日防備強化のためになされた一つの重要な化事であつたのだ。

由來イギリス人は道路を作るに當つては最初は自然に抗さずに起伏、曲りをつける。そして使ふだけ使ふ。そのうちに不便なところも判る。そこで高い處は切り下げて曲りも緩かにする。いまや馬來各地でこのやうな道路普請が到るところで行はれてゐる。トロラックの少し南方にスリム河があり、この邊で僅か九時間で二個旅を屠つた大殲滅戦が行はれたのである。

前線特派員の報道に依れば世界戦史に不朽の名を止めるスリム附近の大殲滅戦はジツトラ・ラ

イン攻略以上の大戦果の裡に終りを告げたが、この戦闘において敵は西北地區ケダー州防衛軍と海岸中部地區防衛軍の第十一師團敗殘兵、それに第三軍團の一部を加へて砲四十門、約三萬の兵力(主として濠洲兵)を、この一線に集結約廿キロにわたる縦深陣地を構築し、馬來における敵野戦軍最後の抵抗を試みたのであつた。これに對し一月七日午前四時猛攻の火蓋を切つたわが軍は正面攻撃の部隊と側背進出の部隊との巧妙なる作戦を展開、歩兵、戦車、工兵、空軍の緊密なる協同の下に僅々九時間にして、この縦深陣地を蹴散らし、敵二個旅團を包圍殲滅、敵將第廿八旅團長ベネット少將を戦死せしめたのであつた。わが馬來作戦軍では、本戦闘を「スリム附近の大殲滅戦」と聲明したが本戦闘における鹵獲品は左の如くである。野砲十三、對戦車砲廿、高射機關銃四、迫撃砲十五、自働砲廿、輕装甲車五十、自動車類五百四十、捕虜投降兵千二百名。

トロラクからスリムへかけて天然の要害に二ヶ旅團約四千の部隊を七段構へに分けて堅固な陣地を布いた。何しろ軍隊の進撃し得る道と言へば馬來街道中、最も狭いとされてゐる一筋道があるだけである。誠にこの邊は護るに易く攻むるに難いところで、皇軍將兵の勞苦察するに餘りあるものがある。ルーター特派員は次のやうにも報じてゐる「主要道路に對する日本軍の攻撃は日

を經る毎に熾烈化し、イギリス軍の苦戦は言語に絶するものがある。馬來のジャングル地帯は鬱蒼として暗く、或ひは敵の、或ひは味方の血に染つて悽慘な密林を日本軍の前進は一刻の猶豫もなくジリジリ押し進められてゐる。日本軍戦車隊が、イギリス軍の堅固なる第一線防禦陣に向つて潮の如く押し寄せて來る情景を密林の蔭から眼のあたり傍觀したが、イギリス軍の直射砲は時を移さずこの大部隊に火の矢を放つたが、右に左に方向を轉じ、砲彈の中を縫ひつゝ襲ひ來る日本軍戦車の勇敢さは、また形容を絶する壯觀さであつた。コーラ・ラムプール附近は日本軍主力部隊が攻撃力を集中してゐる丈にイギリス側は甚大なる被害を受けてゐるが、射ち交はされる砲彈の硝煙とイギリス軍が燒き拂つた貯藏ゴムの強烈な臭ひは、われ／＼に一刻も耐へ難い宛ら修羅場の雰圍氣を味はせた。イギリス軍の物資、軍事施設破壊工作は日本軍の急追により豫期の効果を擧げ得なかつた事は認めねばならないが貯藏錫の破碎、鑛山道路、橋梁等の破壊は日本軍の進撃阻止にかなりの效を奏したことも事實である」この勢でタンジョン・マリムを陥れ、コーラ・クブを經て、コーラ・ラムプールに突入したのである。

○コロー・ラムプールの及びその附近

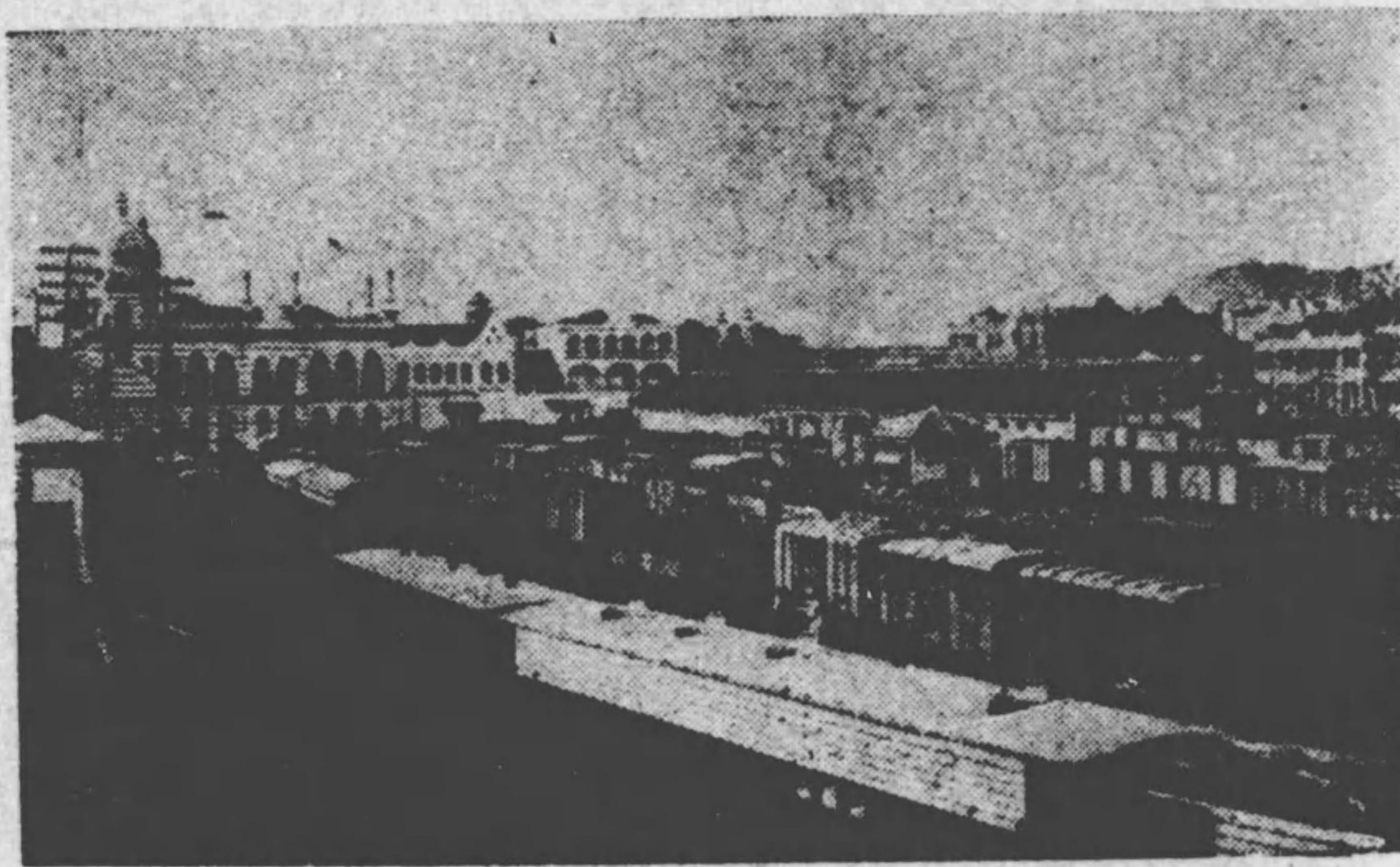
日本人此所にあり、馬來十人男

コロー・ラムプールは馬來半島の中央部に位し、セラングール州の首都であり、マレー聯邦政廳の所在地である。政治上、軍事上、經濟上において馬來半島の中心で、人口十五萬位、シンガポールに次ぐ第二の都會である。住民は大部分が華僑で馬來人、印度人、白人これに次ぎ、日本人は市内に約八十名、市の附近に合計二百名位在住す。雜貨商、醫者、寫眞業、理髮業、ホテル經營等で商賣の種類は各地と大差ないが何れも數が多く仲々盛大である。長老佐竹逸藏の如きは六十四歳で、渡南したのが明治四十年といふ名實共に大先輩で、永年日本人會長として名聲を博し今では名譽會長として盡されてゐる。人徳のある好々爺である。今後の當市の施政に當つてはその蘊蓄を参考とせねばなるまい。當地には放送局がある。飛行場は市の南方六哩にあり、そこへ行く途中に日本人會で營む日本人基地とそれにつづいて吉隆寺といふお寺がある。佛教婦人會なども成立して活躍してゐる。

カランの町はコロー・ラムプールの西方二十三哩にあつて、カラン河にまたがる落付いた靜か



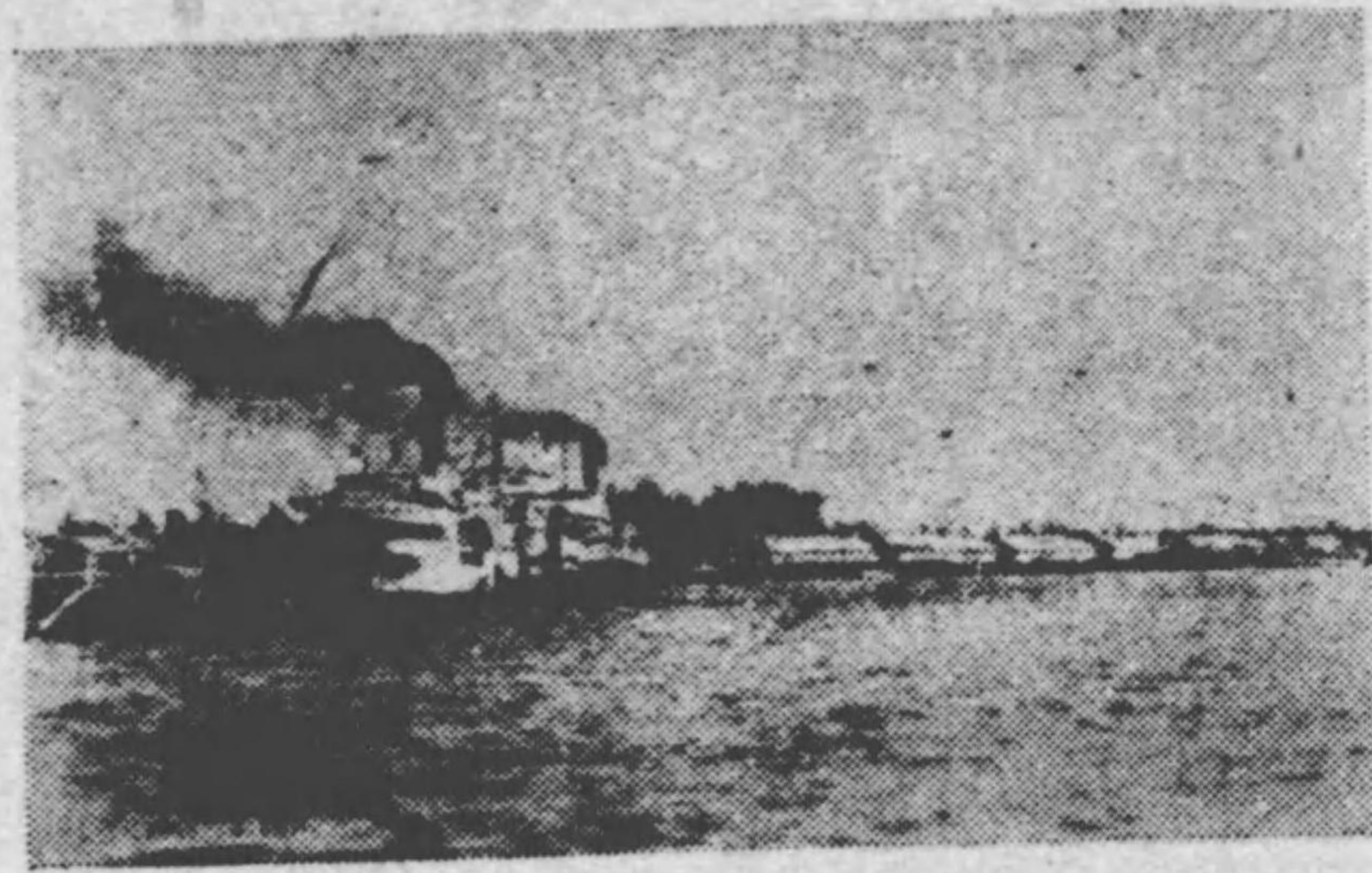
マレー聯邦政廳に於ける馬來聯邦政廳



(貨車發着場……東京の留驛に當る)
マレー聯邦政廳の一部分

な當州の舊都である。サルタンの居城もある。人口約一萬でその八割は華僑で印度人(キリン)一割五分、は馬來人と言つた工合で、日本人は八十名位、雜貨商、醫者、寫眞業、ホテル經營業で、日本人會長の桑山定省氏は六十三歳、鹿兒島縣出身で大正六年に渡南し七年に同地に醫者として開業した面白い人物である。その話を聞いてゐると日本人此所に在りといつた鹽梅で誠に愉快で時のたつのも忘れる位である。桑山さんも半島十人男の一人であらう。コーラ・ラムプールからカラン迄の間はゴム園の中を道路が通じてゐて處々に椰子樹が見え、錫をドレッチ式で採取してゐるところが數ヶ所ある。カラン河の河口にスエツテン・ラム港がある。道路を往くとカランから西へ六哩、スエツテン・ラム港はイギリスや和蘭その他の歐洲船(目下邦船の寄港するものなし)の寄港するもの多く、港灣施設はシンガポールに次ぎベナンに優るとも劣らぬものがある。

中部馬來即ちコーラ・ラムプール方面への物資の輸出入港となつてゐる。鐵道の支線がコーラ・ラムプールからここまで延びてゐる。港内の見える附近は立入禁止であつたので見る事が出来なかつたが、棧橋には一萬トン級商船が同時に三隻は横付け可能であり、起重機も十臺許り並んでゐるのが望見された。港といつてもカラン河々口で前面には三角洲帯とも言ふべき島嶼がいくつ



頭埠の港ムハンテツエス

もあり、雜木が密生してゐて、水は揚子江下流の様に濁つてゐる。深さはどれ位か判らないが一寸見た目には、ここに大型船が入港出来るかと疑はれる位だ。それ程四周が港らしく見えない。しかし浮標に繫留されてゐる船が八千トン級なので成る程と感心した次第である。船舶の荷役苦力は殆んど華僑で一千名位、鐵道の荷役苦力は印度人で一千名位、日本人は五名ゐる。桑山さんの話では、第一次世界大戰當時には、スエツテン・ラム港に日本の驅逐艦が殆んど常時碇泊してゐた由であるが、再び日本の軍艦旗がこの港に翻へることも、遠いことではあるまじ。

○コーラ・ラムプールからスレンバン(芙蓉)まで

米作移民失敗のあとを訪ねる

車をコーラ・ラムプールに返して南下の旅を急ぐこととする。市を出て十哩ほどシンガポール

への本街道から少し右にそれて行くと、セルダンといふところがある。町といふ程の町ではない。そこには有名な農事試験場がある。馬來には農事試験場が二つある。一つはコーラ・ラムプーにあるもので、ここではゴムに関する研究を主としてやつてゐる。他の一つはこのセルダンにあるもので、ここではゴム以外の馬來の熱帯植物に関する研究をやつてゐる。又、ここには農學校がある。入學順位は馬來人、印度人、華僑である。曾て日本人で入學を希望した者があつたが受付けても呉れなかつたとのことである。油椰子を廣い地域に植ゑて試験してゐるのが遠望された。

セルダンから南東に向け五哩許りも行くとカジャカの町に出て、ここでシンガポール本街道に合する。それから少し行くと、セラングール州に別れを告げてネグリスンピラン州に入る。州境から十哩餘りで當州の首都スレンバンに着く。ここは美しい町で、町の中央に政廳關係の一劃がある。大樹鬱蒼として、池あり、芝生あり落付いてゐる。人口二十五萬で八割は華僑、二割は馬來人、印度人である。州内にあるイギリス人は全部で三百名位といふ。日本人は約二百名であるが、天草娘子軍在住當時の大正中期の全盛時には在留日本人六百四十名といふ記録があつた。

この土地には日本人ゴム栽培の開祖たる笠田直吉氏が明治卅六年に斯業を始めた歴史がある。その後よく日本人結束して事に當つたがためにこの日本人會は半島隨一である。敷地も購入済みであり、そこに立派な俱樂部と附屬の國民學校を設けてある。基金も潤澤である。光徳院といふお寺もある。その墓地は整然たること南洋隨一である。先驅者の無縁塚はよく祭られ、數十基と列ぶコンクリートのお墓を見、その掃除のよく行届いてゐるのを見ると、我儘勝手かも知れないが故國を離れて三千里、南洋の異郷ではあるが此處でなら死んでもよい、骨を埋めるに惜しくない青山の地であるといふ念が湧然として起つて來る。私も充分各地をめぐつたがこんな氣を起したのは此處が初めてである。それほど日本人會のいろ／＼の施設が整然と完備してゐる。賢明な先輩のお蔭と共にそれを繼承した日本人の努力の賜物である。私が行つた當時の會長は長野縣出身の小岩井靖氏で、副會長は香川縣出身の中田繁氏であつた。小岩井さんは東大醫科出身の半島隨一の立派な醫學士で、大正五年渡南、スレンバン開業は大正八年である。醫者として儲けてはゴム栽培で失敗されたやうにいはれてゐるが最近では兩方共大成功である。温厚の紳士中田さんも小岩井さんにまけないほどの好人物で、笠田直吉さんの始められた馬來ゴム公司の支配

人として大正十五年入社以來活躍してゐられる。中田さんの渡南は大正元年と言ふから相當な古参株である。五十一歳位の働き盛り、中田さんは庭球の名手として半島に鳴り渡つてゐる。スレンパンではイギリス人、日本人、華僑、馬來人等を含めた全州庭球選手権大會が毎年行はれる。レストハウスのある中央官廳區劃の心地のよいローンコートで戦はれるのだが、その選手権はここ數年來毎年中田さんに占められてゐる。シングルもダブルも中田さんだ。その點で中田さんの名前を知らぬ者はない。

當地に馬來隨一の最古参者吉兼直次郎さんがゐる。今は島屋ホテルを經營してゐるのだが、本年六十三歳愛知縣出身で明治二十九年十六歳の若さで渡南した。それは日清戦後で何んでも榎本武揚子が外相の時とかで日本からジョホール州に米作移民を五十名位も送つた事がある。その時の生存者の唯一人である。ムア河の上流で移民達は自然の猛威と闘ひながら奮闘したのであつたが、當時の日本人の馬來に關する智識は丸でお話にならず雨期にはどれ位の雨が降つて、河川がどの程度に氾濫するものやら、マラリヤといふ病氣はどんなものやら少しも判つてなかつた。熱い處で土地が肥えてゐて水があるから二毛作でも三毛作でも出來ると思つてゐた。

今から四十五年も昔のやつと日清戦争に勝つて、そんな國も世界には在るのかといふ位に思はれた許りの日本としては、これが當然であつたかも知れない。だから調査も計畫も充分でやるにはやつたが雨期にムア河が氾濫すると折角作つた稻がみみな水浸けになつて了ふ。それも一年ならまだ辛棒も出來るが雨期は毎年來る。その度びにやられたのではいくら努力家の辛棒強い日本人でもやり切れたものではない。遂々失敗して解散した。マラリヤで斃れた者も多かつたので、解散した時は随分と人數も減じてゐた。中には日本に歸つた者もゐるし、中には半島に居残つて他に仕事を見付けた者もあつた。吉兼さんはその居残り組の一人で、それから半島附近を轉々して、仕事もいろいろと變へたことであらう。四十年の星霜は遂に吉兼さんを移民唯一の生存者として了つた。吉兼さんと語つてゐると記憶も確かで、あの時はこうだつた、誰々は何處へ行つたといふやうにいろいろと想出の昔語りをして呉れる。私が調べたところでもこの移民についての文獻は別段何も残つてゐないやうだ。吉兼さんに會つてその話を聞く人は誰でも移民歴史の記録を残して置かねばならぬと感ずると見えて、私はその事を話すと賛成して呉れる人が多い。だが未だに實行されたとは聞かぬ。皇軍の進撃に従つた特派員諸君も多い事だから誰か實行して呉れ

る事を祈る。外務省としても記録を残して置く必要があるのではあるまいか。吉兼さんの健在を祈るの情、誠に切なるものがある。スレンバンはいろ／＼の意味で半島旅行中の一番想出の多い土地である。私ももう一度行き度い。さうしてお世話になつた皆さんと皇軍の手に歸したレストハウスで再會したいと思ふ。吉兼さんにレストハウスの經營を依頼する私案などは如何なものであらうか？

スレンバンの西南二十一哩にポート・デイクソンといふところがある。馬來人聯隊の所在地として有名であるが、私の行つた頃は外來者の立入を極度に嫌つてゐた。防備強化等の關係であらうが、その地も敢なく皇軍の威風に懾伏してしまつた。

○スレンバンからマラツカ(馬六甲)まで

征服者の寄合世帯マラツカ

道は坦々たるアスファルトの舗装路で、その距離五十二哩、兩側にはゴム園椰子樹が澤山ある。マラツカは歴史の地である。ポルトガル人に占領されてゐた事もある。それからイギリス人に征服され、和蘭人に征服され、更にイギリス人の手に取返へされた。それから百二十年餘の間イギ

リスの治下にあつた譯で、今度皇軍に占領されて始めて東亞の一地としてアジアに歸つたのである。ポルトガル人が居つた當時は今の町からも少し東の方に町があつたらしい。町の中央海岸寄りに聖ポール丘あり、丘上の古い教會は頽廢して微かに四壁を有するのみで、誠に雨露日月に含み、翠苔その面に生じ、屋蓋朽ちて屋内より高く天空を仰ぎ得るに至る。敷石は總て墓碑であるが、その面に刻する碑文は磨滅して讀む事が出來ず、中央に石壘みの空穴がある。ジェスイットの僧ザビエルが、日本よりの歸途この地にて歿病しこの處に埋葬してあつたが、その後掘出してこれをゴアに移したその跡だといふ。何だか數世紀の昔に蘇返つたやうな氣になる。その傍の壁に凭せてある墓碑の中に日本人のものがある。見るとそれは、倒様に置かれてあつて讀み難い。案内の日本人の説明に依れば「此碑下にジェスイット教派日本第二の法官ピートルを葬る。師は一五九八年二月シンガポール海峡にて逝けり」と。

聖ポール丘の東方指呼の處に聖ジョーン丘あり。頂上にはポルトガル領有當時の城砦の跡がある。更に少しく東方にはポルトガル人の子孫がゐるといふ部落がある。町の海岸通りはオランダ領有當時に造られたものらしい。この町は誠に奇妙な感のするところである。それは町には今尙

ポルトガルとオランダとイギリスが生きて居り更に華僑が浸潤してゐるところから發生する何とも言ひ難い雰囲気依るものらしい。或る部分は四百年の舊蹟であつて、而もそれが死滅しつくしてはゐない。何處かで生きてゐる。最も繁華であるべき海岸通の立派な華僑の商舖は、正しく生ける屍である。この矛盾は一體どこから來るのか、その穿鑿はあと廻しにすることとして旅の筆を進めやう。マラツカ州は海峽植民地で、州の人口は二十二萬位、マラツカは五萬位で九割は華僑、残りは馬來人を主とし、イギリス人は四百名、日本人は四十名位で、その商賣も他と大同小異である。華僑の多いせいもあつて、イポーに次ぐ排日の猛烈な土地である。

○マラツカからバトバハまで

トーチカは日本のセメントで出來た。

マラツカの東郊には水田が少しある。そこをすぎると比較的海岸寄りの坦々たる舗装路は東南に走つてゐる。距離三十哩位にしてジョホール州ムアに着く。その入口にムア河の渡船場がある。東海岸では渡船は毎度のことであつたが西海岸では珍しい。私の今度の旅行では、このこと、これから少し行つてバトバハに入る時との二度であつた。しかし氣のせいかわ渡船も東海岸のものより

も少し設備がよい様に思ふ。

ムアは相當な町である。日本人は八十名位もゐた。ムアからまた海岸に併行した立派なコンクリート舗装路を東南に走る。兩側は椰子とゴム園が多く、處々に雜木が生えてゐる。その間に簡単な馬來人や支那人の民家が點々としてゐる。田園の風景は旅行者を喜ばして呉れること夥しいものがある。あんまり自動車の上り具合がよいので、つひ好い心地になつて目をつぶつてゐると此の道の舗装に使つてゐるのは日本のセメントですよといはれて、はつとして我に歸へる。

この道許りではない。シンガポールの要塞を築いたセメントも、セレターの軍港を築いたセメントもみんな日本製なのだ。澤山なトーチカ築造に使つたセメントも日本から來たものなのだ。日本のセメントだつて海外に輸出されて外貨を獲得することは本望だつたらう。しかしそれでトーチカを築かれて、日本の兵隊さんに恩を仇で返へすのは嫌であつたに違ひない。そんな事をする位なら、セメントが足りない足りないと言つて、大切に呉れる日本に残つてゐたかつたに相違ない。何かそこに割り切れぬものがあつた。しかし大東亞戦争の進展した今日では、その矛盾も無くなりそうだ。皇軍よりも一足先きに此地に來てゐたセメント達はイギリス軍が逃げて了

つた今日からは懐しい故郷の兵隊さんのために働ける譯だ。バトバハの入口にまた渡船がある。それを渡ると對岸はすぐ町の繁華街である。

○バトバハ及びその附近

姿を没したスリメダン鐵山

バトバハの名は私達日本人には馴染が深い。半島を南下してここ迄來ると、神戸から東海道を旅行して大船に來た心地がする。ここは石原産業海運のスリメダン鐵鑛山がすぐ奥にあつて、そこから出る鐵鑛石はスリメダン河を舁に積まれて下江し、バトバハの沖で日本から來た本船に積み込まれる所である。石原廣一郎氏兄弟三人が困苦缺乏に堪え、喰ふや喰はずの苦心慘愴、遂に今日の石原コンツエルンを築き上げたのもこのスリメダン鐵鑛山あればこそである。標高三百七十呎と言はれた山が、露天掘で上から段々と掘り下げられ、今では、もう地上にいくらも残つてゐない。ある處では既に地下まで掘り下げてゐる。この間に廿數年は経過した。一番盛んな頃には年に百萬トンも出した。最近でも年六十萬トン位は出してゐるといふ。スリメダンの鐵山が姿を没した時に、馬來が皇軍の手に歸したといふことは何か因縁があるのではあるまいか。内南洋の成



バトバハ市の街の一部

功者といへば先づ、松江春次氏を推さねばなるまい。同じ意味で表南洋の今日迄の成功者といへば石原廣一郎氏を推さねばなるまい。石原さんはこの山のためにジョホール王國の財政上寄與するところが大きかつた。そのためか兎に角ジョホールの王様から勳一等を貰つてゐるとか聞く。これから表南洋で大いに働いて大東亞共榮圈の一翼を如實に擔いで行かうと志す者は、須く石原さんのやうに標高何百呎といふ位の山を無くして失ふ位のことにはやらねばなるまい。最近バトバハの町續きのところでポーキサイトを掘り出してゐる。

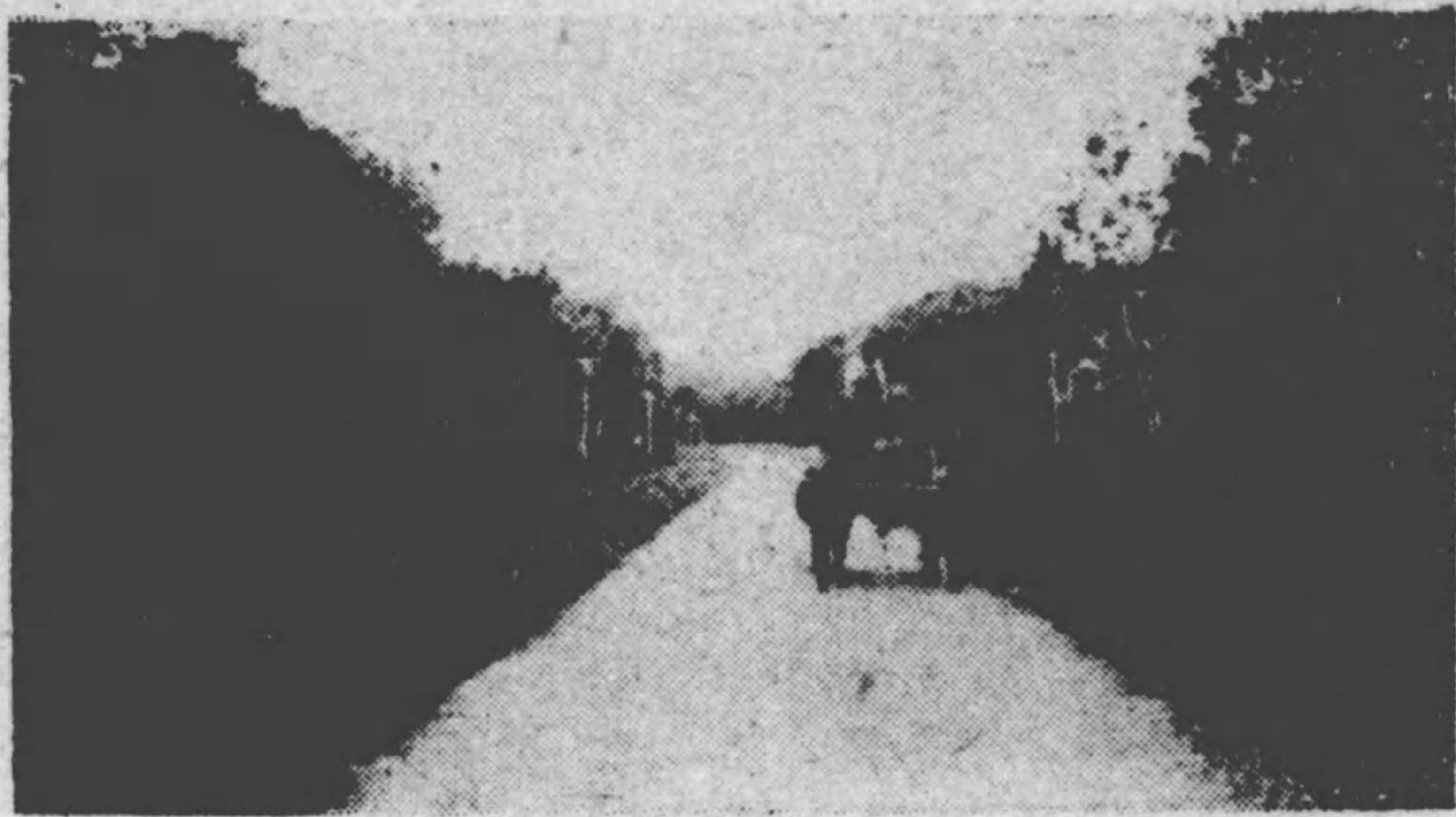
芳陽館といふ日本人の宿屋がある。石原鐵山

の指定宿のやうなもので、鑛石積取りに來た船の連中が泊る。

○バトバハからジョホール・バルまで

親日ジョホール王のこと

街を出るとすぐゴム園の連続である。五哩も行く道路の兩側に立派なゴム園が數哩に亙つて續いてゐる。これは日本人經營の三五公司のゴム園である。十哩餘り行くとアイエル・ユタムに出る。人家とてない十字路で右すればシンガポール、左すれば再び半島を北上する事になる。眞直ぐ行くとクルアンの町に出る。これを更に行くとも東海岸のメルシンに出る。だからアイエル・ユタム（黒い水の意）は交通の要衝といへる。私達は右に折れる。それから五十哩許りも亦ゴム園の中を走る。處々にパイナップルを植ゑたなだらかな丘が見える。密林も思ひ出したやうにある。クライで鐵道線路にぶつかり、しばらく併行して走るとセナイに入る。ここには日本人經營のセナイゴム園がある。シンガポールに入港した歐洲行のお客が、船の碇泊中に何處かゴム園を見學したいがよろしく頼むと言ふと、大體ここに連れて來る。その意味で今迄一番多くの日本人を迎へたゴム園はここである。高貴な方々の御成の榮に浴したのもこの園である。一番近くつて



ジョホール州のゴム園

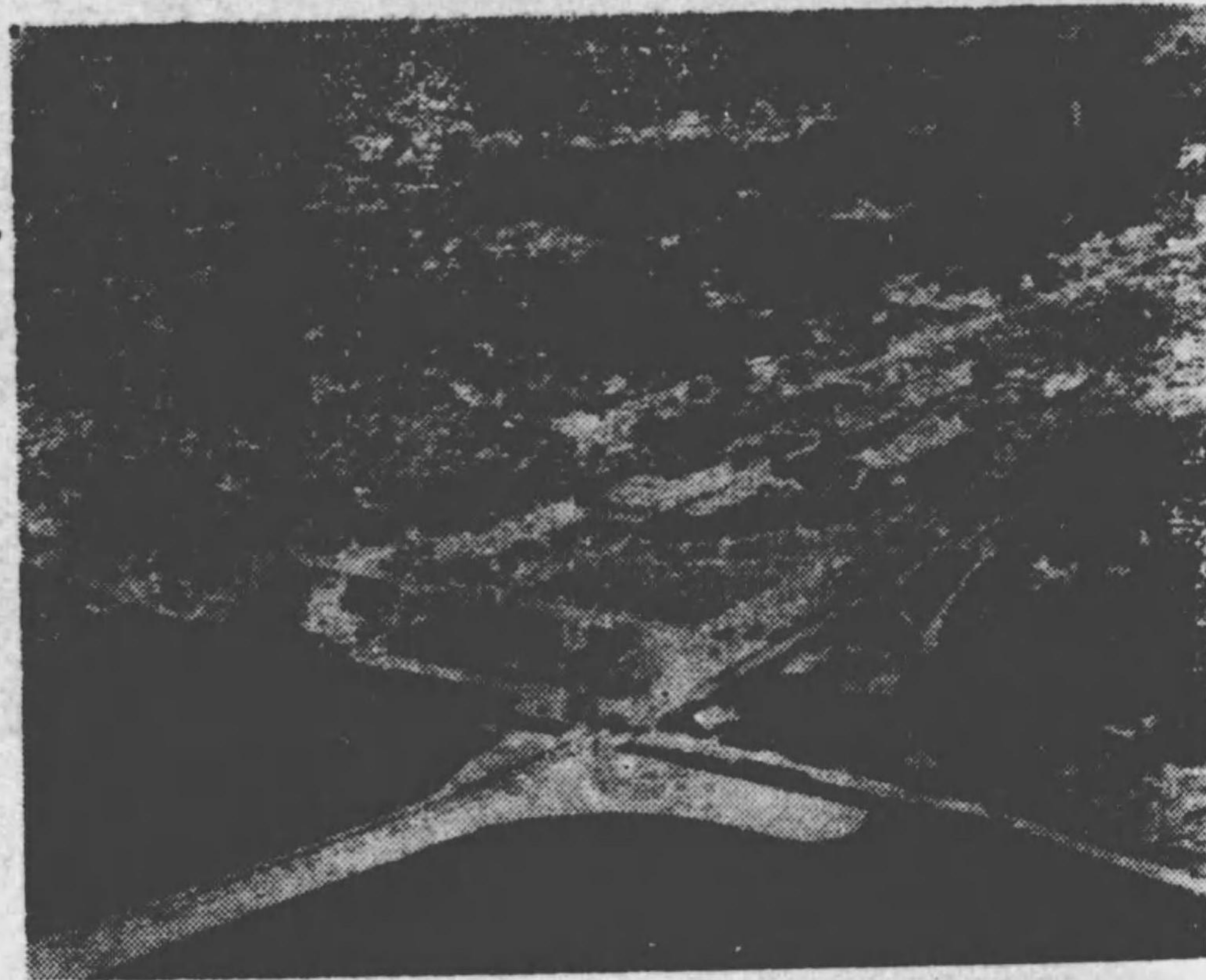
道路もよいからに外ならぬ。それからシクダイを通つて南下すると程なくジョホール・バルに着く。

シクダイには華僑經營のパイナップル罐詰工場が三軒許り見える。パイナップルはハワイに次いで馬來は世界第二の産額がある。その多くはシンガポール島とジョホール州から産するのである。ジョホール・バルに近づくと道路の側にマッチ工場や石鹼工場等あり、極く最近では飛行機の組立工場も出來てゐた。サルタンの新築された王城が、入口の左手にある丘上に立派に出來上つてゐる。ロンドンに行つておられたサルタンも若いルーミア美人を妃とされて最近歸國されたといふ。この新王城で皇軍の進撃を迎へられた事であらう。攝政トク・マコタは、先王とイギリス婦人との間に生れた方であるが、背の高い、一寸見た目

には西洋人としか見えないう方であつた。

ジョホール・バルーでは舊王城を見學するのが普通である。殊にサルタン祕藏の寶物は大變な數に上り、日本に關するものも澤山ある。いづれゆつくり見學して書くこととしたい。町の東郊ジョホール水道に面して、二葉といふ日本人經營の料亭がある。活洲いけすで生かしておいた魚をすぐ料理して呉れる。昔はシンガポールから二次會にもしけ込んだらしいが今ではジャランパスが八釜しくて、すぐには行けない。それだけに商賣もさびれたらしい。昔を知つてゐる連中はよくこぼす。それから察すると二次會のジョホール行は相當收獲もあり面白かつたらしい。戦争前はイギリスの防備狂躁で多分「二葉」も立退かされたことであらう。皇軍の進撃と共に歸つて來て、ジョホール水道の魚を日本人の手で料理して兵隊さんを喜ばして上げて欲しい。今迄の苦闘もこれで愈々報いられるといふものだ。

ここから陸橋を渡るとシンガポール島である。シンガポールの町までは十七哩、三十分行程である。ジョホール・バルーは人口一萬位で勿論ジョホール州としては首都であり、第一の大きい町である。ジョホール州は財政状態も一番よく馬來における名實共に充實した王國である。イギリ



ジョホール・バルーの鳥瞰圖
(橋陸のヘルボガンシは下左、ゆ見部一に端の左は宮王)

ス側はジョホール州に金があるのが頭痛の種である。歳入よりも歳出を多くしやうと苦心してお目附役のイギリス人も一生懸命である。一番金を喰ふのは第一は道路の新設改修であり、第二は土着民の兵隊である。ジョホール州の道路は馬來で最も完備し充實した模範的のものである。舗装もよいし、道幅も廣い。哩標も多く完備し起伏高低少く、カーブも削られてよくなつてゐる。量も多い。またジョホール州には馬來兵の固有の兵隊がある。これも王様は親衛隊がなくてはならぬとか何ん

には西洋人としか見えないう方であつた。

ジョホール・バルーでは舊王城を見學するのが普通である。殊にサルタン秘藏の寶物は大變な數に上り、日本に關するものも澤山ある。いづれゆつくり見學して書くこととしたい。町の東郊ジョホール水道に面して、二葉といふ日本人經營の料亭がある。活洲いびすで生かしておいた魚をすぐ料理して呉れる。昔はシンガポールから二次會にとしけ込んだらしいが今ではジャランパスが八釜しくて、すぐには行けない。それだけに商賣もさびれたらしい。昔を知つてゐる連中はよくこぼす。それから察すると二次會のジョホール行は相當收穫もあり面白かつたらしい。戦争前はイギリスの防備狂躁で多分「二葉」も立退かされたことであらう。皇軍の進撃と共に歸つて来て、ジョホール水道の魚を日本人の手で料理して兵隊さんを喜ばして上げて欲しい。今迄の苦闘もこれで愈々報いられるといふものだ。

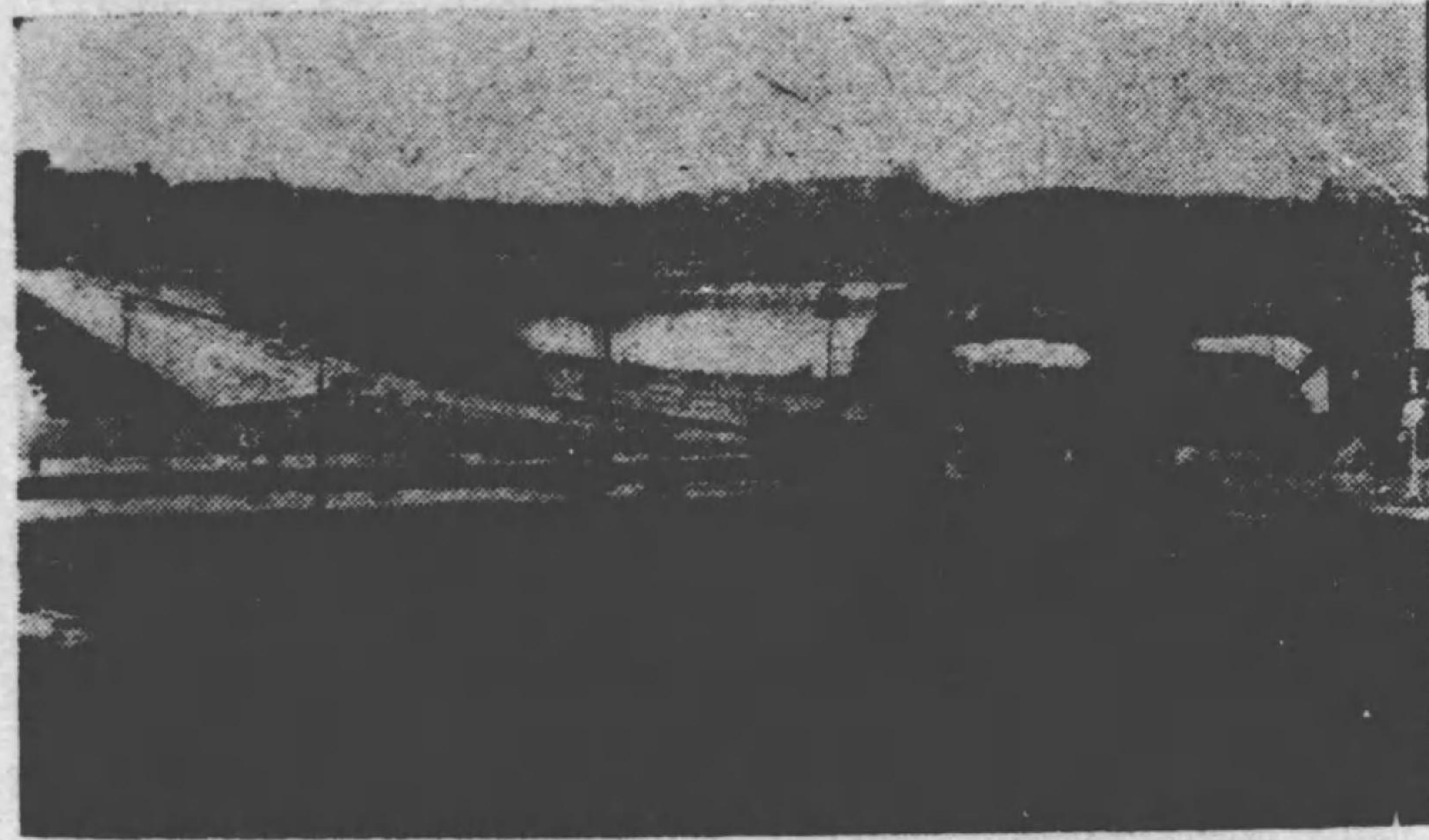
ここから陸橋を渡るとシンガポール島である。シンガポールの町までは十七哩、三十分行程である。ジョホール・バルーは人口一萬位で勿論ジョホール州としては首都であり、第一の大きい町である。ジョホール州は財政状態も一番よく馬來における名實共に充實した王國である。イギリ



ジョホール・バルー島の概圖

(橋陸のヘルゴガンシは下左、ゆ見部一に端の左は宮王)

ス側はジョホール州に金があるのが頭痛の種である。歳入よりも歳出を多くしやうと苦心してお目附役のイギリス人も一生懸命である。一番金を喰ふのは第一は道路の新設改修であり、第二は土着民の兵隊である。ジョホール州の道路は馬來で最も完備し充實した模範的のものである。舗装もよいし、道幅も広い。哩標も多く完備し起伏高低少く、カーブも削られてよくなつてゐる。量も多い。またジョホール州には馬來兵の固有の兵隊がある。これも王様は親衛隊がなくてはならぬとか何ん



陸橋のールパルホヨジ

(方の左てつ向は地基軍海、島ルーボガンシは岸對)
(ゆ見割堀の用行通舟小に前手、リな線複は在現は車汽)

とか言つて無理に造らせて置いてゐるので、その本心は支出を多くせしめるにある。一事が萬事で、事毎にイギリスが斯うした態度に出るので少し硬骨のサルタン・イブラヒムは面白くないこと夥しく、癢に觸つてたまらない。さりとてジヨホール州だけで、イギリスに對して何が出来るといふのか。それを知つてゐるのでサルタンは餘計不愉快である。イギリスは王様のこの様子を見て、少し骨を軟くすることが必要だ。それには女を近附けさそうとイギリス婦人に旨を含めて半強制的に妃とさせた。しかしそんなことではサルタンを軟骨にさせることは出来なかつた。數年前あとを攝政に任せてロンド

ンに行き妃を離縁してしまつた。今度連れて歸へられた妃は、獨英戦争が始まつて獨逸の空襲が盛んになつた時、避難した防空壕で花が咲き實を結んだローマンズのルーミアニア美人である。

サルタンがロンドンを發つて歸國しやうとするとは何かイギリス政府が邪魔をする。それが今度歸國されたと聞く。どんな経緯であつたか、兎も角も皇軍がジヨホールに進撃した時に、あの親日家のサルタンがお伽噺の様な立派な新王城で、皇軍を迎へられることは曠本望であらうし、私達も何とはなしに喜びを禁じ得ない。ジヨホール州内は孤立した山が處々にあるが一體がゴム園とジャングルと椰子の林である。だから皇軍がジヨホール州へ足を一步踏み入れればその進撃を阻む天然の障害は少い。イギリス側が半島における最後の一戦として、人爲的防備を整へて反撃することは想像されるが、それとて何程の抵抗が出来るであらうか、真ん中の平地には鐵道に沿つて坦々たるアスファルト道路が一直線にシンガポール迄走つてゐる。敗走するイギリス軍が何處に據つて抵抗しようといふのか、今にして想へばイギリス一流の老獪な「道路政策」が却つてわれとわが咽喉を締めあげる結果になつたのだ。彼等は未開な國を手に入れると先づ豪壯目を奪ふやうな道路をつけ、それが出来る、その傍に賭博場とバーと遊女屋を開くのだ。酒と女と賭博

で、無智な住民や華僑を釣るのだ。さうして人が集れば税金をあげ、ほかに移ればまたほかに道をつけバクチ場を開き、女をおき酒をおいて住民の膏血を縛るのが常套の手だ。その爲につけた道が、州の財政を枯渇させたために手入れさせたその道路が、今皮肉にも皇軍の怒濤の如き進撃路となつてゐるのである。現にその遺物として州内には「フアンタン」と稱する政府公認の賭博場が澤山ある。日本軍上陸の虞れが多分にあると言ふので、東海岸には道路らしい道路をつくらなかつた。コタバルの道路ですらコーラクライで行き詰りである。それに反して西海岸は日本軍の上陸する心配もなく道路は縦横につけ、鐵條網なども殆んど手を抜いて完備してゐなかつたのだ。その夢想だにしなかつた裏の方へ日本軍に廻られたのだからやり切れまい。ジョホール州内のあの町を、あの道を、あの河を怒濤の如く進撃する皇軍に追はれて夜も日もなく南へ〜と敗退するイギリス部隊の様子が手に取る様に見える。これが天の配劑といふものなのか。南へ〜と逃げるのよいが如何に馬來は南に長い半島とは言へ、ジョホールまで来ればもうあとはない。逃げるに逃げ切れず、皇軍の進撃が急なため、シンガポール島内に袋の鼠となつてしまった。

○西海岸の旅を終るに當りて

戦争、忙中閑の朗かな夜景

馬來西海岸は將にゴムと錫と椰子の連続で、その中を旅行することは單調でやり切れない。

ああ景色が好いなと思ふ様な所は殆んどない。ベタンの様なところは誠に珍しい。中部は錫また錫であり、南部は行けども行けどもゴムの林である。そして聞く話は馬賊の出たことか、夜道には虎が折々道路まで出て来るとかいふ話である。町は華僑の町であり、邦人は彼等の排日には閉口してゐると訴へる許りである。

ゴムと錫馬來の旅の暑さかな

これは私が西海岸旅行中にもした唯一の駄句である。何とかせねばと心に誓つたものであつた。御稜威の難有さには、皇軍が奮戦また奮戦、遂ひに悪鬼のイギリス人を此地から追出すに成功したのであつた。もう馬來の何處へ行つても華僑の排日の執拗さを訴へる人もあるまい。光明に満ち溢れつゝ、大東亞の建設に挺身してゐることであらう。

馬來を、涯なきゴム林を進撃する皇軍の姿をジョホール州前線の特派員の報道に偲んで、この

旅行を終ることとする。

行けどもく、ゴムまたゴム、兵隊さんの唄ふ即興詩が聴える。思へばすでに馬來戦線八百餘キロ兵隊さんのあるところ必ずゴムの木があつた。ゴムの林、ゴムの森、ゴムの突撃路、これが大切な東亞の資源だと思へばしばし前線をはなれて行く間も朗かなゴムの替へ歌を口ずさむ武士である。決戦をあすに控へた自轉車部隊はバンク直しに早速機轉の手腕を利用してゐる。手近のゴムの木にちよつとナイフで疵をつければほとぼしる白いゴム液を鼻唄まじりで、チエーブの破れにちよつとなすりつけるると立派にタイヤの修繕が出来る。「陽が暮れないうちに俺のもやつてくれや」戦友に頼まれ即製自轉車屋さんはきばき捌いてゆくのだつた。やがて夕陽がジャングルの彼方に落ちる頃、涼風とともに登の群がゴム林に流れ出す。まるで豆ランプが飛び交ふのかと思はれるやうな大粒の光りが、フワ／＼兵隊さんの肩にとまりながら流れをかすめていく。インデアンの頭のやうに椰子の葉で擬装したトラックの葉にも鈴なりにとまる。兵隊さんの夢は七夕の思ひ出でもあらうか。すつかり馴れ切つた猿は眠りにつく兵隊さんの肩のあたりにチヨコなんとまるまつてお先に白河夜船をきめこんでゐる。ドカン／＼と戦線から響いて来る砲聲に驚いたかトラックに繋いだ鶏が頓狂な聲で鳴いた「畜生ッ！ うるさいおかずだ」もう寝たと思つた兵隊さん達の枕許からドツと笑ひ聲が聞えた「見えた見えたよ椰子の葉越にシンガポールの灯が見えた」誰かが小聲でまた即興する無邪氣な兵隊さんの寝顔をサヤサヤと夜風が渡つてゴム林に螢の花が咲いてゐる。

恐日病の本體を突く

○特高課日本人係の正體

ブレットとモルガンのこと

シンガポールにおける情報局の内容について、詳知する機会を逸した私は、これを系統的に間違ひなく皆さんにお傳へすることは残念ながら出来ない。断片的のものであり、多少の誤謬ある點は御有恕に預り度い。然しそれは絶対極秘を保たれてゐる内容であるから、日本人で中央警察の特高課に永年勤務してゐる某や某でなくば、或る程度の真相を知る者はあるまい。或は彼等でも知らない點が多々あるかも知れない。然し私が述べる對日本人の活躍振りの一端に至つては、將に實話とも申すべきで、尙述べ足りない位のものである。

情報局の表看板に駈引のない仕事は情報の蒐集と發表である。ここの情報局は陸海空の軍部と行政の警察に含まるべき特高課が一體となつてゐる。情報の蒐集網はイギリス本國の諜報網と緊

密なる連絡がある。本國の諜報網は勿論廣さから言つて全世界の隅々まで及び、深さから言つてこれを人體に例へたならば、皮膚を貫き肉を徹し血管を浸潤して血液の中にまで入つて、それが一分間に幾十回と人體の隅々までかけ廻つてゐるのである。シンガポールは東亞における中樞であつた。その下に西してはビルマあり印度あり、東しては香港あり上海ありといふ形であつた。その豫算の如きも百五十萬磅とも言はれてゐた。最近ではもつと／＼増額してゐたことは必至と窺はれる。由來イギリスの諜報機關は十六世紀に完備したと記録されてゐる。その後更に研究され改良され第一次世界大戰で大いに活躍、磨きをかけられて將に入神の域に達したといつてよいであらう。かけ出しの者の速く及ばぬことは勿論その入口から内は一寸も窺知出来なかつたといふのが實情かも知れぬ。あの手この手の手練手管の數々は、その昔シンガポールで五十四の異人種を相手にして、ひけを取らなかつたといふ娘子軍の姐御でも遠く三舍を避けるものである。組織の内容はブラックチェンバーとして藏つておくとして、第一金を湯水の如くふんだんに使つてゐる。どうせイギリスのことだからいくら使つても自分の腹の痛むやうな下手なことはしない。轉んでも只では起きないといふ式で、植民地の現地で調辨してゐる事は申す迄もあるまい。



地心中の人本日留在路央中ルーボガンシ
(をき多の旗章日るた翻圖よ見)

ビルマで監禁されてゐた永井日蓮宗師の記事を見ても、國防警察の盲滅法の彈壓振り、國防警察の豫算のペラ棒に尨大な事と、それがビルマ財政に占むる割合の非常に大きい事を述べてゐたと思ふ。印度でもさうだが、馬來においても同様である。シンガポールは特に東亞の中樞であつただけにその内容は驚くべきものであつたと想像される。特高課員の養成にしても如何に金を使つてゐるか、彼等は先づ語學的にも智能的にも性格的にも適格者を選んでこれに必要な準備教育のために少くとも數年間を費さしめる。内藤英雄氏著はす所の「シンガポール」のシンガポール日記の三月十一日の項にブレット氏との會見なる記事がある——警察本署の二階の廻廊の欄を排して奥の部屋に行くとその特高係長なる人が居る。机を前面にして前かがみに書類

に目をやつてゐた此の人は、鬚髯をチョツピリと生やした背の高い瘦せ形の人で、これが日本人係りの有名なブレット氏であつた——といふ書出しで大分いろ／＼質問されたことを述べてゐる。またシンガポールを出帆する直前に、出國の許可を貰ひに行つて挨拶を交したことをも述べてゐる。このブレットの前身とか日本に來ての勉強振りとかさういふ事は少しも判つてゐないが、兎に角彼は内藤氏も書いてゐられるやうに日本へ語學生として四年許り留學してゐたのは事實である。京都に滞在してゐたとの説もある。中學の先生をやつてゐたとの話もある。漢字を知つてゐる位の事は當然である。彼等留日學生はみんな漢字も知つてゐる。片假名は無論のこと變體がなにもよく知つてゐる。漢字を知つてゐる點では私達日本人でも、とても追付かない位である。私の知つてゐるバタビヤの和蘭官吏でも、日本關係の仕事に従事してゐる東亞局の連中は、専門的の日本語知識を持つてゐて、中には読み難い苗字や地名を筆記したノートを澤山持つてゐた。

その中には我孫子とか東海林とか言ふやうな、日本人でも初めて出遇つた時は面喰ふ六ヶ敷い讀方のもを蒐集してゐる。また東京で、アメリカの語學生と會食した事があつたが、その時は園遊會で廣い庭のあちらこちらに壽司の屋臺とか、おでん、天ぶらの屋臺などが設けられてあつ

たが丁度天ぶらやの店先きでのことであつた。彼は看板を見てゐたのだが突然「この天ぶらの婦の字は婦人の婦の字をくづしたものですネ」といふ。如何にもさうなので、さうだと答へたのであるが私はビックリした。それほどに彼等は日本關係の仕事をする者には、先づ語學生として數年の間日本に留學させてゐるのである。シンガポールの日本人係りは、戦争前からすつとブレットであつたが彼が一九四〇年日本の留學を卒へて着任する迄、その位置に居たのはこれまた日本人には有名なモルガンである。

メイジャー・モルガンといへば、あゝあれかと想出す人は多いであろう。彼は陸軍少佐である印度に駐屯する本國聯隊の少佐だとのことである。それが日本に留學してゐた。その留學は軍事研究にあつたらしい。日英同盟が出來た時に、日本は印度に陸軍將校を公式に駐在さす権利を得た。それが同盟が廢棄された後も、兎に角その儘繼續されて今度の戦争勃發當時も大佐級の武官が駐在してゐた筈である。これと交換的に印度からイギリス武官が日本に派遣されてゐた事であろう。或は、モルガンもその交換的駐在武官であつたのかも知れない。何んでも熊本の聯隊附となつてゐたことがあると聞く。それが日本語に堪能であり、日本を知つてゐるといふ意味でシン

ガボールの日本人係特高課長となつたのである。現役のままであるとか、いやさうでないとかいふ噂されてゐるが、兎に角メージャー・モルガンとして自他共に許されてゐた。

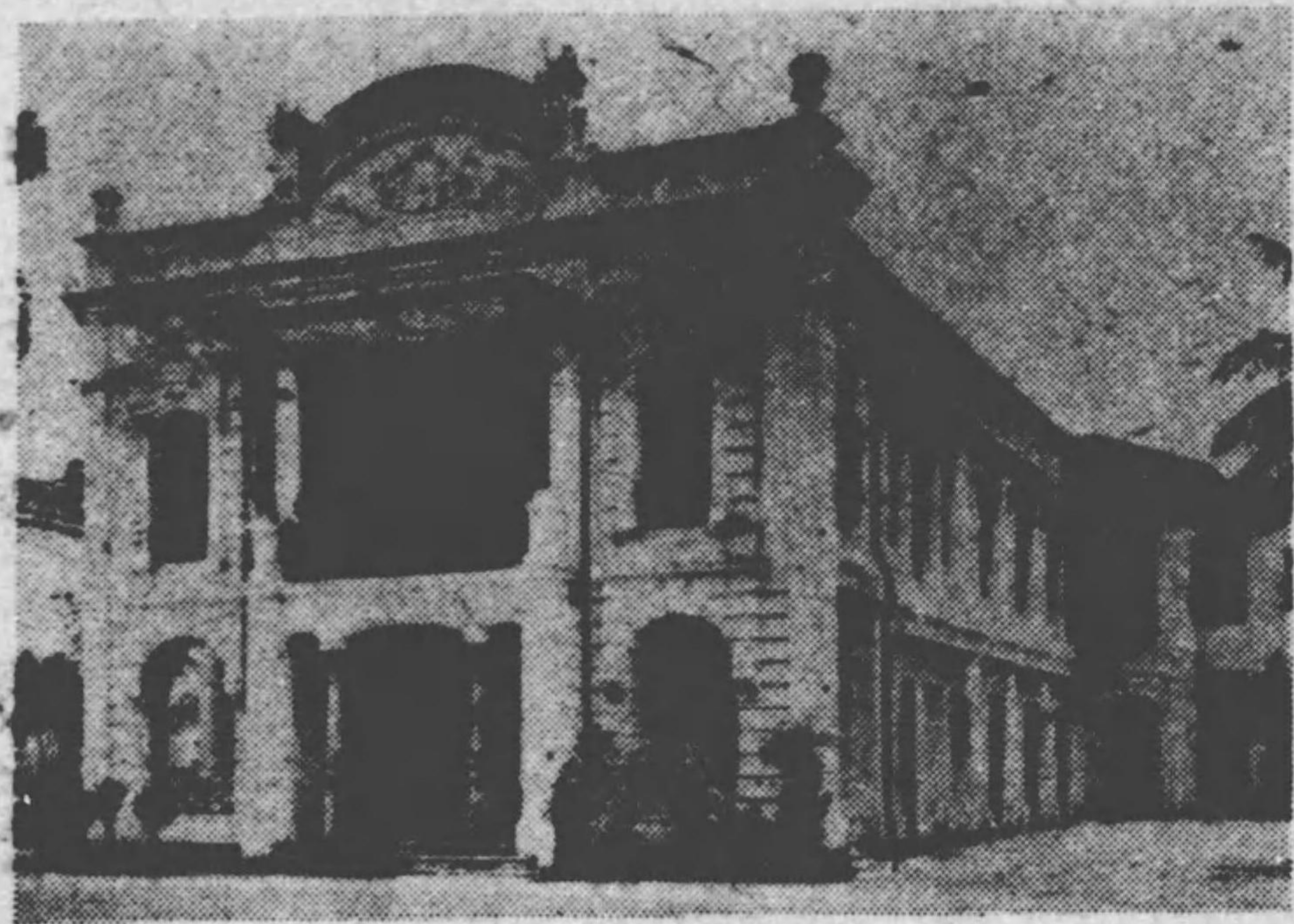
大川周明博士の事を半可通に知つてゐて、今でも日本の思想即ち大川思想といふやうな論理で片付けてゐるといふ。兎に角斯ふして先づ語學を初め政治、經濟、思想、軍事、人物その他日本の一般について數年の留學を通じて勉強させ、然る後に初めて特高課に勤務さすのである。警察事務の専門的訓練は、ブレットの如きは恐らく日本に留學する以前から受けてゐたと見るべきであらう。

所謂山羊髯を生やして、頭髮が割合に薄く、年寄りなのか若いのか一寸判断しにくい様な面をして、猫撫聲を出すあたり相當な海千山千である。日本語を使つてゐるかと思ふと肝心の急所や勝手な熱を吹く時は、すぐ英語でやつてのける狡猾さも相當なものである。

日本人係りの特高課は最初サウスブリッチ路の一角にある中央警察署内にあつたが、その後それからずつと西に行つたタンジョンバガー近くの建物へ日本人登録係と一緒に引移つた。一階が日本人のジャランパス（旅行登録査證）係りで、その二階がブレットのゐる特高課である。しか

もジョホールでも行く時は、すぐジャランパスに何日の何時に、乗物は何で、何の用事でシンガポールを出發して何處へ行く。歸へりは何日の何時頃で乗物は何と申告して査證して貰ふのである。その申告を一階でやつてゐると、それがそつくり二階に聞えるやうにしてある。受付のテーブルの下に受話装置を忍ばせてあつて二階に擴聲器があるらしい。日本ではこんな設備がないから、まさかと思ふかも知れないが装置としては簡單である。たゞ要は装置のある事を登録に来る日本人に感付かれない様にする事である。内密に話を捕へてそれから金の鑛脈でも掘り出さうといふのであるから、外部に漏れない機密室にする必要があるのである。ブレットが來て課長になつてからモルガンはやめたのであらうと思ふが顧問格で残つてゐたと推される節もある。その下に印度人のチャンドがある。日本人某（特に名を秘す）が如何にパンの爲めとは言ひながら或る意味に於て賣國奴的行爲をする事によつて、イギリス側に官吏宣誓をして忠勤をぬきんでゐるのもここである——こんな種類の人間はどこにも一人や二人はゐるものらしい。ジャバのバタビヤにも國違ひの夫を持つてゐる日本の女で警察の手傳ひをしたり、裁判所の手傳ひなどをして、日本漁船の密漁問題などの時通譯となつて、漁夫の言ひもしない事を勝手にオランダ官憲

が喜ぶやうに喋舌るといふ。自分が恰も官憲であるかのような態度で勝手に訊問的な事を言つて勝手に答へてゐるといふ。その結果は日本漁夫に不利であることは申す迄もない。白いものを黒いと言はさねば密漁者として捕へたものが密漁者にならない。そんな事でもしようものなら日本の總領事館からすぐ抗議が来る。あんまりへまをやらうものなら東京でオランダ公使が叱られて、その餘波がすぐ電報で飛んで来る。不法に發砲して日本の漁夫を殺しておき乍ら、その漁船を曳航して裁判をする。こゝではどうしても白いものを黒いと言はさねばならぬ。そんな時には必らずその河原撫子が通譯となる。本來なら公平に調べるのであつたなら、日本の總領事館員を立會はすべきである。然しそんな事はしない。それが既に腹に一物の仕業である。おまけに漁夫は沖繩縣人でその固有の言葉で話すのだから河原撫子には判りつこはないのである。それを勝手に通譯して無辜の同胞を罪に陥れて、自分は得意然としてオランダから手當を貰つてゐるのだから驚かざるを得ない。こんなこと今に勳章を貰つて得意になつて日本に歸つて来るかも知れない。兎に角シンガポールにもこの類似的人間のおゐることは確かである——更にチャンド以下の所謂岡つ引き連に至つては無數といつてよい。馬來人あり支那人ありインド人ありジャバ人ありア



新嘉坡日本人クラブ

ラブありババあり混血兒ありで、それこそ五十四種の異人種を網羅してゐると言つて決して過言ではない。それが思ひ／＼の服装をして、商人に化け、サイス（運チャン）に化け、車夫に化け、勤人に化けてゐるのだから驚く。そして日本人に對して、ダニの様に、鷹の様に、隼の様に、番犬の様に、狐の様に狸の様に、遠く近く、間接に直接に網を張つてゐるのだから、やり切れたものではない。何かの拍子で、これは少し怪しい等と思はれやうものなら、もう運のつきである。

日本人經營の自動車屋の車の出入れにはみんな尾行がつく。晝間だけではない。眞夜中でもさうなんだから大變だ。電話は日本語のものはみんな盜聴さ

れ、場合によつては録音される。空氣の緊迫が甚くなつて來た時は、電話に日本語を使ふのを禁止してしまつた。東洋ホテルとか碩田館、櫻ホテル等の日本人のホテルの前には特高課の手先が網を張つてゐて、出入りの客を監視する。内地から新規に來た者でもあるとその者には特別見張がつく、そしてその者がホテルを出ると必ず尾行する。いろ／＼の種類の尾行者があるのでは、それがどれだか判断出來ない。澤山の中にはヤマな奴も居つて、尾行が附いてゐるなど感付く場合もあるが、感付かない場合の方が勿論多いのである。二年程以前だつたか相當空氣が悪化してからのことである。陸軍參謀本部から少佐が四名一緒に泰から飛行機でシンガポールに來て、東洋ホテルで三・四日滞在して、また飛行機でジャバに行つた事がある。その時の話である。

一將校がシンガポールでは尾行がウルサイと聞いてゐたが、我々には附いてゐない様だネと意氣浩然と言つたものだ。見ると成る程附いてゐないらしい。ホテルの筋向ひの街角に乗捨て、あゝいつもの探偵の車らしいのも見當らぬ。一軒おいて東隣りのコーヒー店にもそれらしい顔がない。どうしたんだろうと番頭と話合つてゐたのだが、彼等四人がジャバに出發してかなり経つてから、私の知人が所要でバタビヤに行つて來た。その歸り船に特高課のチャンドが乗つて

ゐる。舊知の間柄なので、どこに行つたのかなどと問ふとバタビヤまでといふ鹽梅。チャンドは印度人だから、イギリス人よりは日本人に對して話をするのである——日數の點とかその他いろいろの話の結果判つた事は、結局四將校をバタビヤ迄それとなく護送しての歸途である事が判つた。行きは飛行機であつたが歸りは急ぐ旅でもないのでケーピーエム汽船に乗つたといふ譯である。更に驚いたことにはシンガポールからバタビヤまで送り込んだことだけではなく、實にシンガポールの特高課では御丁寧に四將校をバンコックまで出迎へさせてゐたのである。岡ツ引きにもピンからキリまでであることは申す迄もない。何時もと違つて四名もの大物(?)が來るといふ譯でキリ級を使つたらしい。上命を受けたキリ級が、豫め手配してバンコックに行つてゐて、そこで引繼ぎを受けて尾行を始めたのである。シンガポールの滞在中にも上等級に屬する岡ツ引きの尾行してゐたことは言はずもがなである。御念を入れてバタビヤまで送り込んでゐるのである。ピン級の岡ツ引きが附いてゐないとして、一寸得意になつたなんていふのは誠に御目出度い日本人の純真さを表現してゐるではないか。イギリス人なんていふのは、そんな生やさしい一筋縄で縛れるやうな人間ではないのである。それこそ特別談なのだから、そのつもりでかゝる必要が

ある譯である。

始末におへないのは、知つてか知らずでか、日本人が彼等の配下となつて岡ツ引きになつてゐることである。前に書いた某などは、岡ツ引きと言つても表看板は宣誓をしてイギリスの官吏になつてゐるのだから、表門から名乗りを上げてゐるのである。私のこゝに述べるのは横の木戸口とか裏門から出入してゐるピンの中にも數へられぬ程の岡ツ引である。

イギリス側では、参考になるならんは別問題で、何んでもよいから日本人に關する聞込みを持ち込むと一件に付いて少くも二十弗は呉れると言ふ。小遣ひに不自由をしたら一寸やり度くなる鑑札(?)を貰つて本職にしてゐるのも相當澤山にゐるらしい。ホテルをウロツイたり、床屋に頑張つたり、料理屋を嘆き廻つて、ネタを仕入れるのである。これらが二十弗宛で買はれてモルガンやブレッドの手許に集まるのである。だから百里の堤防も蟻の一穴とかの例に漏れず、曾てモルガンが日本の總領事に對して、日本人街の出來事なら日本の總領事である貴方よりも私の方が委しいですよと言つて笑つたことがある。この一事を以つて彼等の細胞神経の一端を窺知し得ると共に、反對に如何に多くの日本人岡ツ引きが居つたか、思ひ半ばに過ぐる證左となし得るではないか。

一番日本人に不利なのは日本人會の運動委員とか學藝委員とかに、これ等の賣國奴のゐることである。例の某の如きも戦前にはシंगाポール日本人會の學藝委員をやつてゐたと記憶する。だからいろいろ内部的に相談したやうなこと迄すぐ筒抜けである。數年前に——支那事變勃發してからのことである——日英の空氣が險惡化して、内地の各地で排英運動が起つた當時のこと、シंगाポールでは在留民の大會を催して、引揚ぐべきや否やを諮つたことがあつた。今度も、そんな會合が催されたことと思ふのであるが、その内容が、しかも結論だけでなく、誰が何んと言つた、誰が斯う言ふ意見を持つてゐる。この質問に對する總領事の答へはかうくであつたと言ふ様に、こと細かにイギリス側に傳へられるのである。だから少し強硬な意見でも持つてゐるとかイギリス側に面白くない考へ方をしてゐるとか言ふ事が傳はると、すぐその本人に特高課の岡ツ引きを附けるのである。大觀した場合でも、公平に言つた場合でも、イギリスの東亞搾取政策には眞實の日本人であれば文句のある事はあり餘るであらう。然しイギリス人の統治する土地に來てゐる事と思つて先づ言ひ度い事も言はず素直にしてゐるのである。それが日英衝突といふ國家

と國家の問題に迄發展した場合には、血の氣のある日本人としては言ひ度いことは山程あるであらう。日頃腹をふくらせて言はないでゐればゐるほど、斯うした時には言ひ度いのは當然である。そして假りに口を辻らしたとする。それがすぐブレッダの山羊髯の耳にはいつて、すぐ尾行されるのだからやり切れない。ブレッダとしては役目柄耳に入れば手當をするのは、當然かも知れない。その事は今ここで私は論じてゐるのではない。私の言ひ度いのは日本人の中に彼等の配下となつてゐる人間の多く居ることである。それでも日本人かと言つて面罵してやり度い。こんなのが皇軍占領下のシンガポールで我こそ日本人であると言つて大きな面をしてゐるかと思ふと斷腸の想ひがする。

殊に不幸なのは彼等に誣告されて無辜の罪に泣かされる場合である。イギリス人が恐日に慄くのは、傷持つ歴だからである。口に平等博愛を唱へながらその行ふところはこれと正反對な非人道的な壓政と搾取である。それを知つてゐるのは神と彼等自身と神の御子たる正義日本のみである。世界の不正義に破邪顯正の劍を振ふのは日本だけである。それを知つてゐるが故にイギリス人は恐日病に罹るのである。アメリカ人は、オランダ人は、日本を恐怖するのである。そしてこ

の恐日病患者の症狀を悪化さすもろくの原因の一つに、國を賣る日本人の同胞を誣告することがあるのは見逃せない事實である。

○最初の犠牲者西村吉夫氏のこと

野村汀生氏著の「シンガポールを中心に同胞活躍、南洋の五十年」中に西村日本人會長の急逝と題し左の記事が掲げられてゐる。

「シンガポール日本人會長石原産業事務西村吉夫氏十二月五日（一九三四年）午後二時五十分中央警察にて卒倒、急報に接し馳付けた青木博士の注射も効なく、安藤ドクトル警察醫及び本病院より馳付けた歐洲人ドクトルの手當にも何等の反應なく、遂に其儘永遠に歸へらぬ旅にたゞれたのであつた。流石に勤勉そのものゝ如く公私不斷の活動に寸時の休養すら取る暇なかつた西村氏も聊か最近健康を害し食慾不振に陥つてゐたのであるが、當日も何時もの如く機嫌よく出勤、午前十一時頃近く歸朝の山本俱樂部々長を商船事務所に訪問、更に總領事館に廻り、午後同夜の日會委員會の件で福田氏と打合せ、所用あり中央警察に出頭、英氏と二言三言話したのみにて、チャ

ンド氏がまだ返事もせぬ内、突然全身的に痙攣に襲はれ驚き抱へた英氏の腕に強くしがみつき激しい苦痛のため顔面両手をふるはせ、ドクトルが馳付けた時は既に間に合はなかったのであつて、何にしても餘りに急な事で病因判明せず、本病院に送り解剖に附した結果心臓麻痺と發表され、變り果てた悲しい遺骸がオイスレーライズの社宅に運ばれ、階上に安置、哀愁に閉された社員以下多數の知己、友人に依つていとしめやかなお通夜が営まれ、涙一滴こぼさぬ繁野未亡人のけなげな姿も却つて、弔問者の涙を誘ひ、わけてもまだいとけない二人の遺兒のいぢらしさには全く泣かされざるを得ないのであつた。日本人會では取敢へず同夜石原社宅で緊急理事會開會、會長の現職にあつて逝かれた故人に對する禮として、日本人會々葬を以て葬儀を行ふ事に決定、梅澤副會長を委員長とし、六日午後三時半折りからしとくと降り出した涙の雨に送られつゝ故人の遺徳を物語る八十數個の花輪に飾られた靈柩車、遺族、導師以下蜿蜒十數町に及ぶ會葬者の自動車沿道の人眼をそばだたし、四時十分スランダン邦人共同墓地到着、社員及び佛教婦人會員に曳かれ弔鐘の悲しく響く門内に入り、最後を飾る撮影を終り、本堂に靈柩を移し堀江老師、導師渡邊本願寺、遠藤日蓮宗兩師も參列し、嚴肅なる讀經裡に令嗣、未亡人以下焼香を終り、葬儀を終り更

に會葬者の多數は靈柩に隨ひ火葬場に至り、メラくと燃え上る焰に限りなき悲愁の思ひを抱いて線香を捧げ、偏に故人の冥福を祈つて引取つたのであつたが、黄昏そめた境内風なきにゴムのわくら葉ハラくと散るも悲しく、今更らの如く在りし日の思出が胸に湧くのだつた」

西村氏の急逝はこの記事にある通りであるが、私がシンガポールにゐる時に聞いたところでは、特高課の氏に對する理不盡な疑惑のため、氏は敢然として死を以つてそれに抗議したのであるといふことであつた。イギリス人のやり兼ねない奥の手であり、言動でその無實の疑惑を解くに術なしと覺悟して、一死以て身の潔白を神明に誓はんとした武士道の國日本の尊い犠牲であつたのである。斯うした無辜の罪に身を捨てた日本人は古來幾人あつたであらうか、澤山なこれ等の英靈が今日の日本を生む礎石となつてゐるのである。皇軍占領下のシンガポールは、今こそ日本帝國の領土である。君の在天の靈が皇軍をイギリス百年の牙城に導いたのである。願くば日本の地で安らげく護國の鬼として眠むられよ。

○第二の犠牲者として捕へられた同盟特派員小林猪四郎君

一九四〇年八月の初め、曉天未だ星をいただく午前四時、ウイルキー路のフラットに住む小林君の部屋は十数名の入り亂れる靴音で包圍された。けたたましいノックの音、安眠の夢を破られた小林君は、驚く奥さんを制して扉を開くと、そこにはブレットが傲然と立つてゐる。手にはピストルを擬してゐる。その眼付はたゞごとではない。その背後には澤山の人がある。階段の下にまで續いてゐる。小林君には「とう／＼来たナ」と閃くものがあつた。それもその筈である。約二ヶ月前の七月に東京でイギリス人が數名スパイ事件で檢擧された。その日本の行動に對する復仇はイギリスの各地で直ちに在留の日本人に對して加へられたのである。

ロンドンでは三井と三菱の支店長或はその代理が、またラングリンでは某が、カルカッタでは某が、香港では某が、どこでは誰がといふ風に日本で檢擧したイギリス人の數に合致する位の人が報復的に一齊に檢擧されたのである。このニュースがシンガポールにも傳へられた時、來るナ！とみんなが直感した。そして險惡な國際情勢に當つて、萬一是非善惡の判斷なきイギリス人によつて捕へられることがあつても、日本人らしく見苦しからぬ様にと誰もが心に誓つたのであつた。然るにその時はシンガポールで犠牲者は一人も出なかつたのである。しかし日本人とし

ては、誰もが「嵐は近い！」と覺悟してゐたのである。捕へて見るには見たが、もと／＼法規に觸れるやうな悪いことをしてゐる者は一人もゐない。ただ日本が在留のイギリス人を捕へた——それにはそれだけの充分な理由があつたのである——それを聞いてカツと逆上した結果、前後の見境ひもなく、日本人の大物を捕へて腹の蟲を納めたのであつたが、キマリも悪くなつたのであろう。一人二人と釋放したのであつた。變てこな手を打ち居るワイと思つてゐた時に、シンガポールにスコールが急襲したのであつた。その犠牲者は小林君であつた。あとで奥さんの話を聞けば、ブレットは間もなく小林君は追放されますから奥さんも歸國の準備をして置いて下さいと言つたとか、未決に入れられた小林君は非常に優遇されたとか、三度の食事もよく、毎日戸外で運動を許され、差入れて貰つたクラブ（ゴルフの耳掻き棒のこと）を庭で振り廻してゐたとか、トーマス總督宛てに不法監禁の詰問狀を出したとか、ブレットが時々御機嫌をとり來たとか、その他いろ／＼面白い未決監内の話を聞いたが兎に角、六十日許りで、たゞ一言「君はこれからシンガポールの夜景を見に行つてよろしい」と言はれただけで放免された。氣の毒であつたとか、何とか慰藉的挨拶は毛頭なく、全く腑に落ちない限りの待遇を受けて放免されたのであつた。六

十日の間に取調べを一回もしなかつたといふから驚く。結局日本の出方を見るために大掛りな検査陣を張つて、別荘に連れて行つたのであつた。

小林君もその後内地に歸還されて同盟通信の運動部長をやつてゐたが、大東亞戦争勃發と共に豫備役陸軍少尉の君は皇軍に應召して、イギリス膺懲のため勇躍南方に出發したと聞く。定めし馬來の戦線で、ジャングルをわけ、罅棲む河を敵前渡河して破邪顯正の劍を揮つてゐられることであらう。ポンテアン・ブツサル附近は君が好んでドライブしたところである。よもやこんなに早くイギリス膺懲の聖戦が起ろうとは、お互ひに思はなかつたことである。頼む！ しつかり頼む、いろ／＼な意味で、いろ／＼なことを君に願ひし度い。シンガポールに入つたら、あゝもして貰ひ度い、かうもして貰ひ度い、あれはあゝ頼み度いといふ事が澤山ある。しかしそれはまあ後廻しとしよう。それよりも、どうか武運長久で、天晴れな武勳を樹てゝ呉れ、話はそれからでも充分だ。私も思ひが叶つて近く、もつと南の方へ出掛けます。君に負けない様に働くつもりだ。お互に身體を大切に、とことん迄イギリス人をやつつけ様ぢやないか。そして再びシンガポールで感激的な世紀の握手をしよう。親しいに任せて随分失禮なことを言つた事もあるが、

今となつては、許して呉れると信じてゐる。みんなお國の爲なのだ。東亞の民族を解放するため、日本が嘗めねばならなかつた生みの苦痛であつたのだ。やがて凡てが報ひられて東亞に眞の黎明が訪れた時には、お互ひに手を執つて聲高らかに、カンニング丘の上で聖壽の萬歳を三唱しよう。それ迄は、彈丸に當つても死ねない私達なのだ。

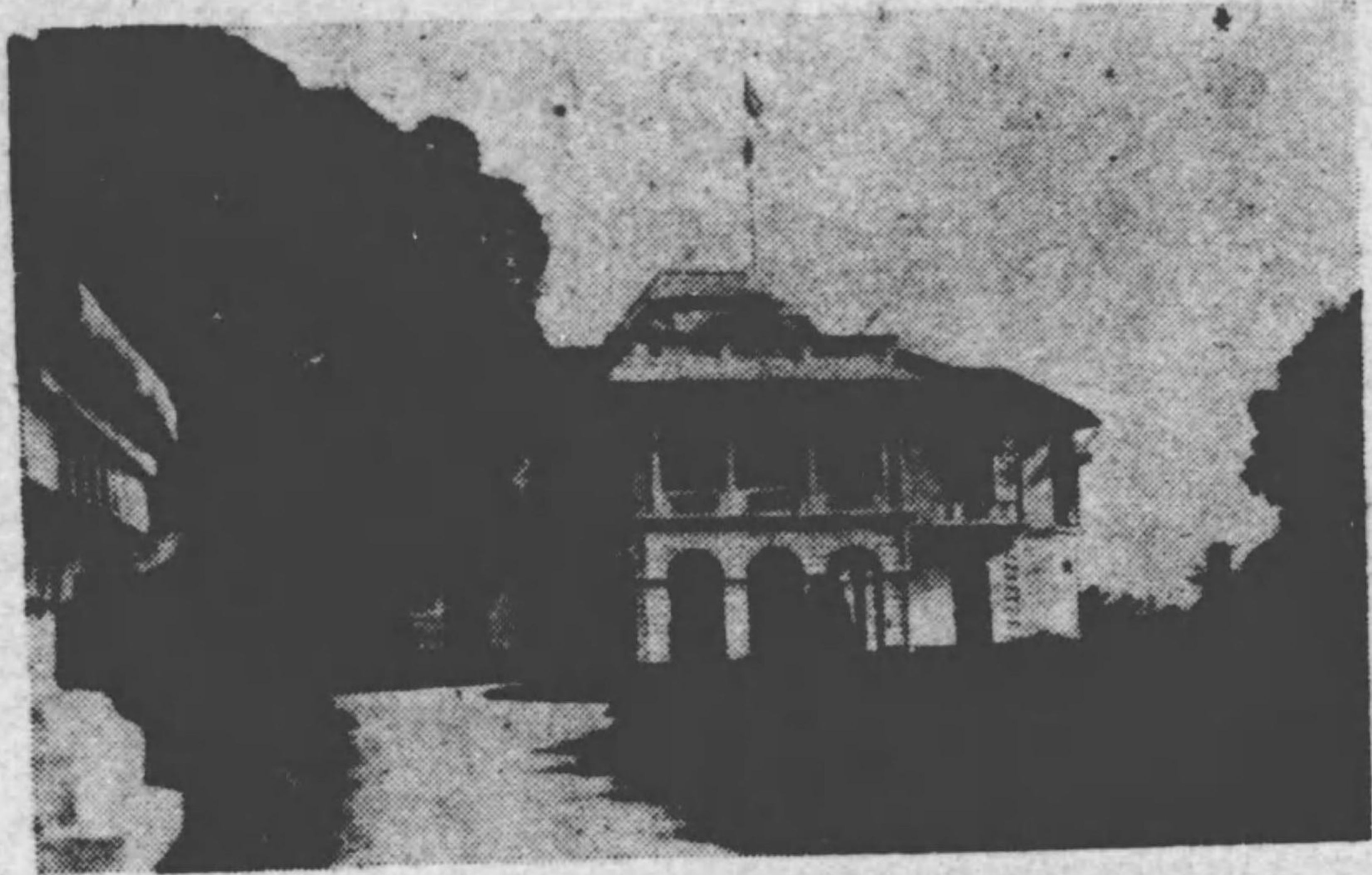
○第三の犠牲者總領事館囑託の篠崎護君

小林君が放免されると、入れ換へにといふ意味か誠に疾風迅雷的にイギリス側は日本總領事館を襲つて囑託篠崎君を拘留したのであつた。それが何の爲めか、篠崎君に何の落度があつたといふのか、また假令檢舉する疑ひがあつたとしても、それが爲に帝國の總領事館を不淨役人が襲ふとは何事か。恐れ多くも帝國の在外公館には金色燦然たる菊花御紋章が入口高く掲げられてゐる。旗竿には大日章旗が翻へつてゐる。御眞影も奉安されてゐるのである。治外法權の特權は領事館にはなく、大使館のみであるとか何んとかそんなことは問題でない。イギリスやアメリカは自分に都合のよい様に凡ゆる公法や條約や法規を解釋するのである。暴戻飽くことを知らぬ彼

等は神聖なる神をも冒瀆して恬然たる人非人である。日本には如何なる自衛權をも認めないで、自衛權といへば米英のみが持つ特權であるかの如く、誠に傍若無人、暴戾飽くなき無道振りは今更らこゝに擧げる迄もない事であるが、そんな人非人が、獸のやうな横着者が、私達の神聖としてゐる總領事館を襲つたのである。ブレッドの山羊鬚を先頭に三十數名の岡ツ引を引卒してウィルキー路を馳け上つたのである。そして篠崎君を連行し重要書類までも檢索せんとする非禮を敢てしたのである。内藤英雄君著「シンガポール」(愛國新聞社出版部發行)八十二頁にはこの時の模様を次の如く記してゐる。

昨年(一九四〇年)七月、東京で檢學したイギリス人スパイ事件に對應するかの如く、報復的措施としか思はれぬシンガポールで起つた邦人監禁事件があつた。同盟通信シンガポール支局長の小林猪四郎君と日本領事館の篠崎囑託とが檢學された。同盟通信社の金庫は搜索せられ、躍起となつたイギリス官憲の檢索隊は、メーチャイ・モルガンやブレッド特高係長を先頭に日本領事館に殺到して重要書類までも檢索せんとする非禮を敢てした。

同盟の小林君は六十有餘日の拘禁の後釋放せられたが、篠崎君は、イギリス軍陸海將兵を籠絡



在新加坡帝國總領事館

してスパイし、軍の機密を諜報したといふ軍法會議の判決が下された「懲役二年に處す……」これが一方的に確定して了つて、熱帯地の獄裡、朝夕苦役苦行の生活である。……でも先日も見舞に行つた鶴見總領事に元氣な顔は見せたさうだが……とある。今度こそ是が非でも、白を黒として有罪にせねばといつてデッチあげたのがこの軍法會議の判決である。何等の證據もなく、何等の抗告も許されないで一方的に斯うした判決を下される當人の身になつて見れば、どんなに憤慨に堪えぬことか、想像してさへ涙が出るのである。篠崎君が無辜の罪に泣くのであることは、篠崎君に情報を提したといはれるイギリス軍陸海將兵が一人として、罪を問はれて



ソトカ・ソヨジソタ

此路はギンヤチ要塞に到るもの今では皇軍の上陸に備へて側面に鐵條網が張りめぐらされてゐる。(著者撮影)

もその呼名を使ふこととする) ラインもない。一日に二十キロから四十キロの速度で炎暑と闘ひながら南下したのも、無辜の罪に獄裡に苦行する君を一日も早く、一刻も速かに救出せんがためであつた。どうか無事でゐて呉れ、私達は正義日本の尖兵なのだ。邪悪イギリスは正義日本の前に在つては恰も朝露が太陽の光りに消えるが如く消えて無くなるであらう。

内藤英雄氏は續いて次の様に書いてゐる。

「イギリス人達に言はせると、日本人はスパイマニヤであると迄極言する。そして彼等の仲間ではイエロー・ファイバー(黄熱)と呼ばれる。それは兎も角、近年殊に此の事件以來の官憲の態

ゐない一事で充分明瞭である。お互ひに話してゐる事が軍事に關することであつたとしても、軍事にだつてピンからキリまであることだろう。軍事の總てが機密といふ譯でもあるまい。例へば濠洲兵が何萬到着したといつても、それは軍司令部で公然と發表してゐることではないか。軍當局が公表したことを話したとて何で罪に問はねばならないのか、更に奇怪に堪えぬことは判事とか陪審官とかが「本件を審理するに當つてはスパイ行爲があつたか否かといふことよりも、現下の日英間の國際情勢が如何なる状態にあるかといふ點に多くの考慮を拂はねばならない……」と、言つてゐる事である。誠に以つて、江戸の敵を長崎でなく、シンガポールで打つものであり篠崎君こそ、淺間丸事件の仇として、つけ狙はれた者であり、天津事件といふよりは支那事變から延いて將に點火されんとしてゐる大東亞聖戰の犠牲として捕へられ、無辜の罪に悲憤の涙を揮う者である。私は數年の昔ベルリンで篠崎君と友となり、その人格をよく知つてゐる。誠に君は、友人として、得難き人物であつた。今も君の、あの溫和な微笑んだ顔が眼の前に浮ぶ。

皇軍は君を救ふべく、馬來の北端から怒濤の進撃を續けてゐるのである。ジャングルもない、河川もない、鐵條網もない、ボバムの大馬鹿野郎(イギリス上院でかう改名したのであるから私

度は、日本人に對して極端に神経過敏である。つい先日〇〇商船の船員が要塞地帯——を模寫した簾で禁箇二ヶ月に處せられた。證據は係官が陸から眺めてゐた望遠レンズに映つたのが何よりの根據だと言ふに至つては正氣の沙汰とも思はれぬ。

此の險惡な空氣の中にシンガポールから引揚げる邦人婦女子は、税關で下駄を抜がされ足袋を外され、帯まで解かされて、さては此の頃採用された支那人移民官補が「私しや東京で日本人に大變親切にされましたから、今日はそのお禮です」など皮肉たつぶりである。イギリス人監督はその無禮な検査を黙許してゐる。と言ふより快よげに獎勵するかの如き態度すら示すのである。シンガポールで邦人をスパイ扱ひして目の敵にしはじめたのは、十年許り前の石原鑛山支店長の憤死事件に始まるのである。イギリス官憲は「火を見たら火事と思へ、人を見たらどろ棒と思へ！」の警への通り、所詮此の頃はスパイ恐怖病にとり憑かれてゐるものやうに見える」

○第四の犠牲者、南洋日日新聞の柏原信治君

君のは全くの飛沫を浴びたといへるのである。日本人岡ツ引の証告だとの一説もある。兎に角

篠崎君は領事館の新聞係であり、君は日日新聞の探訪記者だつたのだから、領事館許りでなく毎日あちらこちらと自動車に乗つたり、チャイに乗つたり電車に乗つたり全く席の暖まる暇もなく探訪してゐたのは不思議でも何でもないのだ。それがどうして山羊髯に白羽の矢を立てられたか不思議でならない。本人が今でさへ不思議がつてゐるのだから、第三者の私達に向更判らないのは當然と言へやう。君も結局六ヶ月位の體刑に處せられて、その苦役を終へると共に好ましからざる人物として退去を命ぜられ内地に歸つてゐた。歸國後は久しく膝下を離れて孝行が出来なかつたからと言つて、田舎から母堂と妹さんを東京に呼んで自分で働いて親孝行をしてゐると聞く。誠に涙なくして見られぬ日本人らしいやり方である。この一事を見聞した文で私達日本人には君の人となり判るやうな氣がする。君の本心は神様が照覽してゐられる。イギリス人なんて言ふ代物は正直な正義な者ほど目の上の瘤なのだから、イギリス人に苦行させられたと言ふことは君が正直であり、正義な日本人であることの證明となる譯である。君も軍務公用で、南洋方面で活躍されてゐるとも聞く。小林君と同じ様に永年住み馴れた馬來での御奮闘を祈る。そして一日も速かに大日本帝國の領土となつたシンガポールへ意氣揚々と大手を振つて乗込んで貰ひ度い。そ

して君が敬愛してゐた篠崎君をチャンギーの配所から救ひ出して感激の萬歳を高唱して貰ひ度い。神様は君の誠意を認めてキットそうさせて下さるものと信ずる。噫何んとしてもシンガポールが皇軍の手に歸したことは嬉しいことだ。

多感な私は、シンガポールで並々ならぬ苦勞を重ね、イギリス人に何かと追ひ廻されたので、皇軍の占領を聞いて萬感交々、手の舞ひ足の踏むところを知らぬのである。

○ビルマの防犯課に見る

イギリス得意の諜報網

強烈にして熾烈なる太陽の熱に焼け爛れるビルマの巷をのたうち廻る悪魔の夢は、英國がビルマ民衆に加へたC・I・D(防犯課)の制度によつて必要以上に驅立てられて行つた。その制度は防犯といふよりもビルマ民衆に對する諜報機關であり、スパイ網であつたのだ。ビルマ民衆と到る處において接觸してゐるインド人労働者、英支混血人、華僑等を買収して、ビルマの街から街へクモの網のやうなその諜報網を張りめぐらして、反政府的な言論、英國にとつて面白くない

話などをするビルマ人を密告させ摘發して行つたのだ。そして英國はビルマに於るかくの如き警察行政には非常に多額の支出をしてゐる。一九四〇年から四一年迄のビルマ豫算支出の部を見ても警察事項の支出が二番目に多く、一千五百五十一萬三千ルピーを出してゐる(ルピーは約七十三錢二厘である)。

ビルマ政府はその政略により、武力によつて英國に屈服せしめられた。しかし一般住民は武器を奪はれたとはいへ、英人には心服してはゐない。その心持は特に彼等の知識階級である僧侶に多い。英國人がビルマを支配する事は佛教の破壊である。我々は佛教を擁護する上においても、どうしても英國人をビルマから追放する必要があるといふ根強い考へを待つてゐる。彼等はこの考へを以て、地方を遊説して廻り大衆の心を揺り動かさうと努めるのだ。これは英國の東亞政策にとつては誠に都合の悪い結果となる。だからC・I・Dの確立によつて彼等を徹底的に彈壓し束縛しようと計畫したのである。そしてその彈壓方法は殘虐を顧みず、非道をあへてする態度に出たのである。

一九三二年一部のビルマ人は、英國の羈絆を脱する最初的手段として自國の政治的獨立を要求

して起ち上るに至つた。これに前後して武器を持たざる住民も英國に對し盛んに叛逆の狼烟を揚げるに至つたのである。特にサラワヂの叛亂、そしてこれに對する英國の殘虐性は忘れることが出来ない。武器なき民衆は正義の戦ひを戦ひ抜く爲に、水道の鉛管を抜き取りそれに臺をつけ銃を造つた。火薬がないのでマツチの硫黄を剝ぎ取つて火薬にした。しかし英國はこの武器を持たぬ一撥を鎮定するのに機關銃の一斉掃射を以て對抗した——それも一年半掛つてやつと鎮定したのだが——その結果英國人はこの謀反者の首を斬つて晒首にしたのである。しかる後にその首の前にビルマ民衆を強制的に集合させて、英人に反抗する者は皆かういふ風になるのだと威嚇して英本國への強制的忠誠を誓はさせたのである。

軋られた悪夢は彼等にこびりついて離れない。しかし彼等は日常生活のうちに英國に對する反感を具現した。英國の武力、政治力には屈服したが、少くとも道德的、精神的には英國の勢力を承認しなかつた。それだけに彼等の悪夢に對する挑戦と争闘は苦難以上の苦難であつたのだ。

英國はビルマの沃土をインド人の血と汁を利用して獲得するだけのものをとつてしまふと、ビルマ人の獨立運動を利用して、ビルマをインドから切り離して英國の直轄植民地とし、ビルマ農

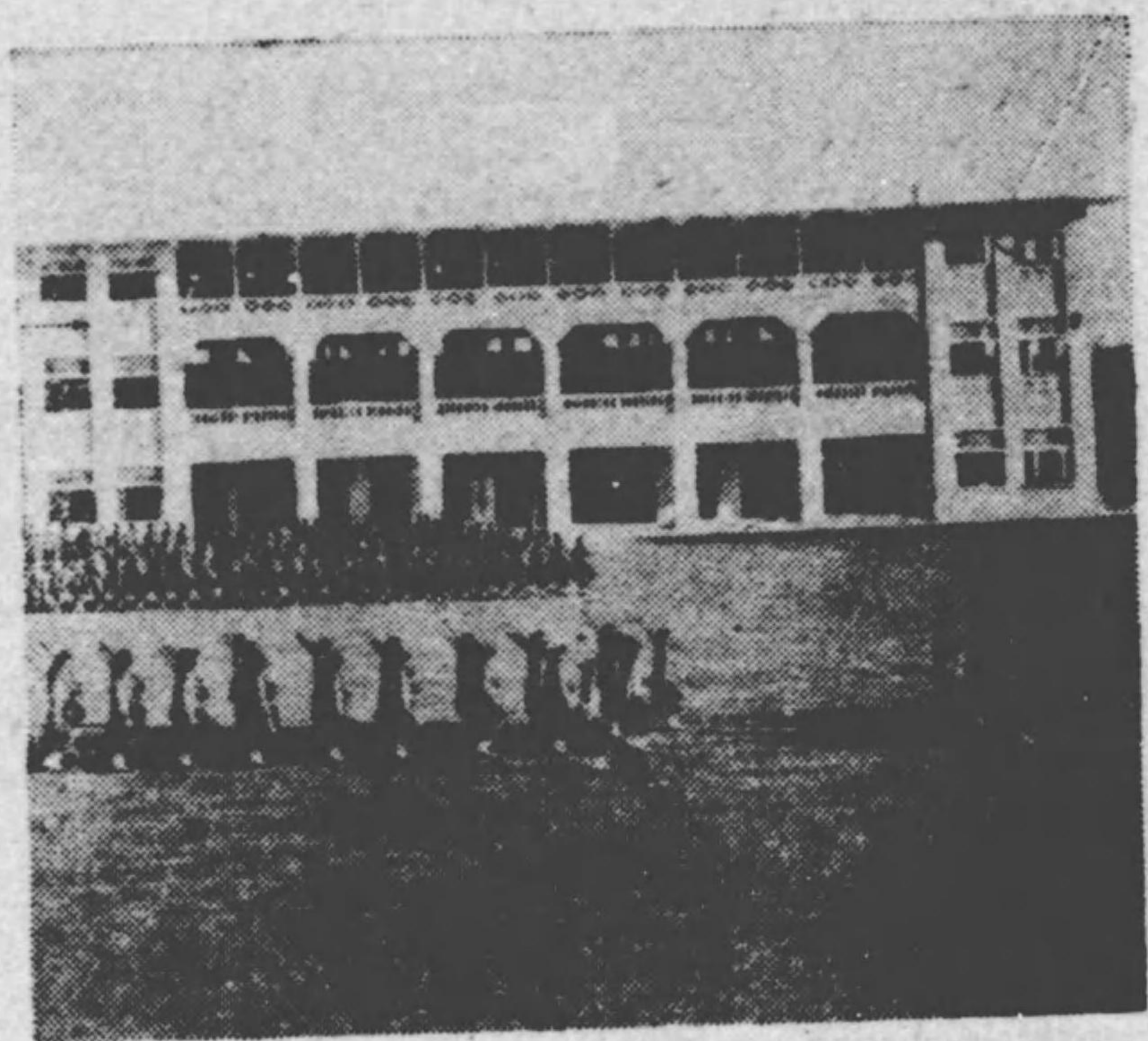
民から直接搾取を始めたのである。チタイアと呼ぶ職業的金融業者を裏面から煽動して農民に金を貸し與へ、農民を彼等の借金から拔差しならない状態に置いてしまつた。その結果ビルマの農家一戸當りの負債額は平均二百ルピー、着るに衣なく住ふに家なしといふ農民を數多く造つてゐる。それでも飽き足らない英國は税金の取立にも陰險な方法を取つたのだ。その取立の實權を村長に與へて歩合制度にしたのである。

税の集金状態が悪いと村長の収入が減る。それが成績に關係して村長は誠になる。だから彼等は一生涯懸命に集めて廻るし、農民は火の車といふわけだ。それを見てニヤ／＼笑ふのはジョンブル旦那なのだつた。

これぢや敗けるのは當然だ

○イギリス軍の本体

シンガポールにゐて驚くことはイギリス軍のあまりにも雑多なことだ。インド兵や馬來兵は暫く措くとして本國兵に付いて見ても、トランプのジャック式で色とりどりの美しい眼を着て列んでゐる。見る兵隊であつて戦ふ兵隊でない。恐ろしく長い才藏の烏帽子に毛を生やした様な奴を、眼が見えなくなる位目深く冠つて済し込んで直立不動の姿勢をしてゐる格好は、噴き出したくなる程滑稽味がある。アレから見るとイギリス人なんて相當な茶目なのかも知れない。眞面目腐つた大馬鹿ものかも知れない。黒ラシヤの服を着て、赤褌をかけてゐるのがゐる。カーキ服を着て物入鞆のやうな物を腰につけてゐるのがある。鞆からはお相撲の化粧廻しの裾にあるやうな飾りがさがつてゐる。その他變てこな服装をしてゐるのが澤山ゐる。帽子だつて日本の兵隊さん



美しき服を着て進行

のやうなのを冠つてゐるかと思ふと、鼻かみハシケチの様に折疊んでおいて、それを聞いて頭の横丁に今にも沁り落ちそうに冠つてゐるのがある。その帽子を映畫でも見に行くと眞面目くさつて疊んで肩についてゐる布の下に挿し込んでスマしてゐる。子供の兵隊と言つた方が適當かも知れない。猿のやうな毛むくぢやら二の腕まで現はに出して、シャツとパンツだけなのは見ただけでもぞつとする。この寫眞はシンガポールにおけるイギリス軍陸海空三軍の首腦者

が對日強硬論を講じてゐる光景で、左から右へ三人目のポツパム空大將が口を開いてゐるらしい。多分彼の持論である空宣傳の「馬來空軍の守りは固い。どこからでもさあ来い！」とか「シンガポールは人力の企圖し得る範圍内に於ては、最も完璧なる要塞で、如何なる敵と雖も之を攻略し



濠洲兵の演習振り

から毛がのぞいたり、鼻毛の長いのもこの連中の
特長である。足の脛は言はずもがなである。ダー
ウインの進化論でもないが私はこんなものを見ると
猿を思ひ、オランウータンを想ひ出すのである。
聯想といふことは已むを得ないことであると共に
愉快な面白いこともある。
この將軍連が宣傳をするのである。恫喝をする
のである。わがイギリス軍は世界最強であるとか
シンガポールは世界一の難攻不落であるとか、シ
ンガポール海軍基地は侵略に對する無言の牽制物
たる役割を果してゐる。これなくしては、南太平
洋は既に侵略の犠牲となり終つたであらうとか、
誠にコケ脅しの軍隊であり、人形の軍隊であるの



陸海空三軍首腦の對日戰備協議

て成功することが出来ぬ。ジブラルターよりも遙かに強
力である」と豪語してゐるところであらうが、口ほどにも
ない貧弱な爺さんの様だ。その右がレートン海軍中將で
これまた心臓の強いことで有名な男で、戦前ラジオ放送
で「シンガポール海軍基地の用意は完成した。一旦東亞
に戦火が波及すれば大英帝國の軍艦旗は南海の水平線を
壓するであらう」などとほさいて、盛んに強がつてポツ
パムをおだてあげてゐたのである。

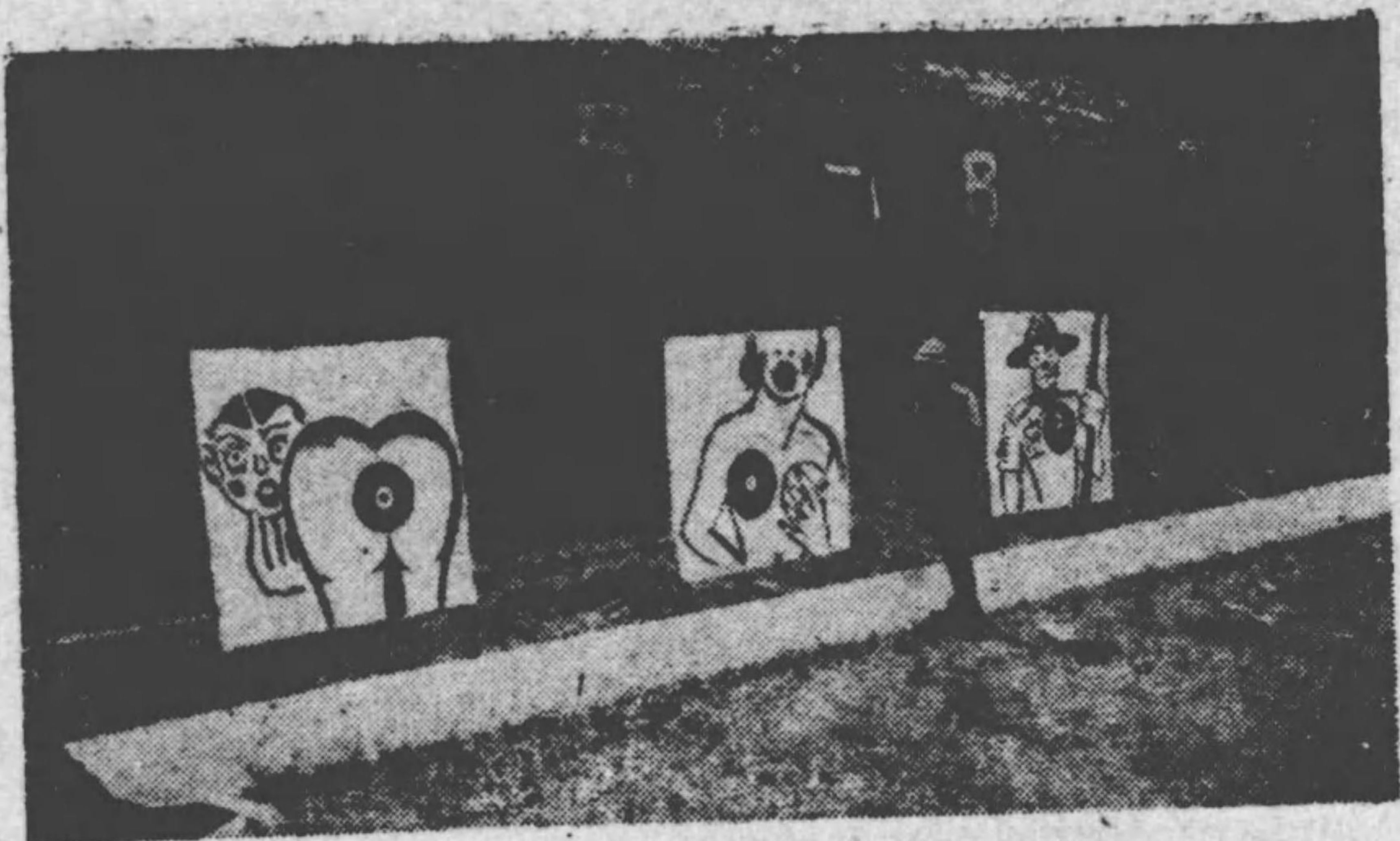
寫眞をよく見て戴き度い。兩將軍の顔ではない、その
腕をである。レートンの如きは左腕の毛は恰もジャング
ルの如くで、腕時計がその中からやつと顔を出してゐる。
胸毛のモヤ／＼は幸か不幸かシャツにボタンがかかつて
ゐて見えない。定めし密林の凄いものであらう。耳の穴

である。濠洲兵に至つては更に愉快である。アメリカの西部劇に出て来るカウボーイとあまり違はない。田舎のお上りさんである。それでゐて相當お高く止つて、われ／＼は客分であると言つて空嘯いてゐるのである。本國兵に見れば何を小生意氣な、たかが植民地兵ぢやないか、といふ氣位があり、それが酒でも飲むとチョコ／＼態度に出る。言葉に出る。といふ具合ではとても眞實の協同作戦なんて出来るものではない。そこへ一番數多く増遣また増遣と送り込まれるのは、ハイドラバットとかパンジヤブのインド兵である。彼等はインドを船で出る時は何處に行くのか行先も知らないといつた有様で、馬來に來る途中の船の上で、馬來はインド防備の第一線である。シンガポールが敵の手に陥ればインドの運命は決するのであると盛んに宣傳する。どうしても之を承服させないと、どんな結果を招來するかも判らないからイギリスの將校は一生懸命である。こうやつて騙して連れて來ては、ニツパハウスの竹の柱にヤシの屋根のお粗末な小舎か、テント張りのところで長い雨季の間ビシャ／＼に豪雨濡にれてゐるのである。マラリヤに罹るのも當然である。これに反してイギリス兵は豪華な鐵筋コンクリートの三階建位の兵營に入つて、スポーツ氣分でゆる／＼と遊んでゐるのである。インド兵だつて糞面白くもない。想出すまいと

しても想出すのは前大戰の時のベテンである。歐洲大陸に行つてイギリスの爲に戦つてやれば、インドを獨立させて呉れるといふそのイギリスの公約を信じて、百萬のインド兵大軍は歐洲の戦野で膏血までもシャブル搾取者のために尊い血を流したのであつた。然るに戦ひ終つてその公約を果すは愚か却つて寶庫インドからの搾取の手を強めたのである。その事はインド人として忘れるんとして忘れることの出來ぬ痛憤事である。今またあの時の手に乗せられてゐるのではあるまいかと思ひ出すと、じつとして居れぬ。そんな事が積り積つて折々騒動を起すのである。それがイギリス兵の強壓で必ず鎮定される。その度びに少くも數名多ければ數十名の犠牲者が銃殺されてゐるのである。しかも戦争の時は必ずインド兵を第一線に出して、自分達は後方から督戦をしてゐるのである。今度の馬來北端の戦線には先づインド兵が出されてゐた。しかも敵は日本兵だなど言へば恐れをなして進まない心配もあり、場合によつては寝返りを打たれる懸念もあるので相手は泰軍だと誤間化してゐたのである。

精銳無比の日本軍と知つた時のインド兵の驚きは大變なものだつたらしい。ペナン附近でイギリス軍に反抗して、イギリス人將校を射殺したなどいふのは日頃の憤怒が爆發したのである。昔

から烏合の衆が戦つて勝つたためしがないが、イギリス軍の本體などいふものは、烏合の衆なんて生やさしい者ではない。親の仇であり兄弟の仇、インド三億民衆の仇敵であるイギリスが、それでも飽き足らないで尙も現在同志たるべき者を督戦して殺そうとするのであるから、インド人にとつて見れば敵軍であるべき日本軍の方が親身になつて心配をして呉れる味方なのである。なんでこんな連中を頭数だけ何萬となく揃へたところで、戦に勝つことが出来るものであらうか。それ位なら、何故インド人が早く日本軍に降伏して來ないのかと不思議に思はれるだらうが、日本軍の眞の精神とか、戦争の目的などに付いては私達こそ日本人であるが故にこれを承知してゐるのであるが、恐らく世界中で日本人以外にこれを知る者はあるまい。それほどこの世界は悪徳の彌漫した、非人道な英米人の跋扈した、搾取者の横行した末世であつたのである。アメリカ人は比島人に日本軍の殘虐性をどんなに強調してゐたか、イギリス人が馬來その他で土着民やインド人に何んと言つてゐたか、オランダがインドネシヤ人に何んと言つてゐたか、私達日本人としては、よもやそれ程までにと思ひ半ばに過ぐるものが多いのである。



○その訓練振りは

ここに掲げた寫眞を、よくよく眺めてみると、その訓練振りには自然と氷解されると思ふ。日本でなら想像も及ばない光景ではないか、想ふ者さへない位奇抜破天荒である。これを公然として、重營倉に行かない許りか、將士共々に喜んで却つて、競點射撃の成績が上るといふのだから驚くの外はない。これがイギリス兵の内幕である。

空軍のメスクラブにはビール樽とウイスキーが澤山積んであつて、訓練の合間に無料サービスだといふ。これなんかも酒の好きな兵隊を酒で釣つて、酒でだまして訓練をさせてゐると見るのが眞實に近い。泣く兒にお菓子をやつてあやすのと同じである。これちや戦はずして既に敗れてゐ